

読売教育賞

最優秀受賞者 実践報告書集

「実践活動の概要」





高円宮妃殿下と第67回最優秀賞受賞者、関係者 (2018年11月16日、読売新聞東京本社よみうり大手町小ホールで)

読売教育賞は、読売新聞社が教育の発展の一助にと創設し、 1952年に第1回募集が行われました。

対象は教育の現場で意欲的な研究や創意あふれる指導を行い、 優れた成果をあげている教育者や団体です。

各部門最優秀賞受賞者に賞状、盾と副賞(1件50万円)を、 優秀賞受賞者には盾、選外の方には記念品を贈ります。



第67回 読売教育賞は以下の13部門の募集を行いました。

①国語教育②算数・数学教育③理科教育④社会科教育⑤生活科・総合学習⑥健康・体力づくり⑦外国語・異文化理解⑧児童生徒指導⑨カリキュラム・学校づくり⑩地域社会教育活動⑪NIE⑫特別支援教育⑬音楽教育

第67回 読売教育賞選考委員

①国語教育	明治大学教授	斎藤	孝
②算数・数学教育	東京理科大学教授	秋山	仁
③理科教育	NPO法人ガリレオ工房理事長	滝川	洋二
④社会科教育	筑波大学名誉教授	谷川	彰英
⑤生活科・総合学習	上智大学教授	奈須	正裕
⑥健康・体力づくり	筑波大学名誉教授	田中喜	喜代次
⑦外国語・異文化理解	津田塾大学教授	田近	裕子
⑧児童生徒指導	東京学芸大学名誉教授	河野	義章
⑨カリキュラム・学校づくり	学習院大学特任教授	佐藤	学
⑩地域社会教育活動	東京大学名誉教授	佐藤	一子
①NIE	福山大学教授	小原	友行
⑫特別支援教育	筑波大学名誉教授	藤田	和弘
13音楽教育	東京芸術大学教授	山下	薫子

*うち、国語教育、生活科・総合学習、児童生徒指導、音楽教育の4部門を除く、9部門で最優秀賞授賞。

(部門順、敬称略)

読売新聞東京本社編集局教育部長 富所 浩介

目 次

【算数・数学教育】 生徒が主体的・対話的に和算を解釈・表現する指導実践
【理科教育】 未来を拓く科学大好きっ子の育成を目指して
【社会科教育】 公民科教育にできること グローバル教育から主権者教育へ
【健康・体力づくり】 熊本地震からの「創造的な復興」のための心のケアの充実
【外国語・異文化理解】 情動的痕跡を残す英語科教育 人格形成の契機を目指して
【カリキュラム・学校づくり】 チームで挑む! 高校における授業改善
【地域社会教育活動】
アジアと地域の支え合いを生み、若者が変わる社会参画の教育実践
【NIE】 「みんな」のNIE・「みんな」でNIE
【特別支援教育】 通常の学級と特別支援教室の協働的な授業づくり 発達障害児の考える力を高めるための指導の工夫

生徒が主体的・対話的に和算を解釈・表現する指導実践





茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 代表 竜ヶ崎第一高等学校 教諭

こ ばやしてつ や 小林徹也

1965年生まれ。1989年東京理科大学理学部第一部数学科卒業。1989年茨城県立岩井西高等学校勤務。1997年県立古河第一高等学校勤務。2006年筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻数学教育コース修了(教育学修士)。2009年~現在、県立竜ヶ崎第一高等学校勤務。2014年東京理科大学大学院科学教育研究科科学教育専攻後期博士課程満期退学。2016年博士(学術)。現在に至る。

第67回 読売教育賞から

【算数・数学教育】

究成果として発表する。 べ、ポスターに集約。年明けに研 通など江戸の暮らしについても調 して式や図で表現する。貨幣の流

2014年度に文部科学省のス

訳。その文章を現代の数学に照ら 書かれた古文の原典を現代語に翻 衡、見慣れない和算用語を用いて じられるのが和算の魅力」と話し い。昔の研究者とのつながりを感 と説明した。植田琴音さん(15)は が10月9日に行った中間発表だ。 る茨城県立竜ヶ崎第一高の1年牛 室に貼り出された。和算を研究す 語訳の書かれたポスター8枚が教 こちらです」「この問いを現代語訳 「今の公式の原点を知るのは面白 して計算するとこんな感じです」 生徒は授業で尺や貫などの度量 生徒5人ずつで作る8班が次々 「これが原典で、口語訳したのが 江戸時代の和算書の原文と現代

算数·数学教育 茨城県立竜ヶ崎第一 一高校 (龍ヶ崎市)

> 現する授業を思いついた。 現代語 ねて勉強していた和算を解釈・表 教諭(53)が独自の授業を模索。 (SSH)に指定され、小林徹也

開していることも称賛に値する」 いる点を高く評価した。生徒の研究 暮らしと数学の使われ方を探究して の研究を通じて、江戸時代の人々の 成果を日本語と英語でネット上に公 秋山仁・東京理科大学教授「和算 らない」と語る。

(中瀬邦雄)

い分野の問題を探究しなければな

て、インターネット上に答えのな

を課す。「生徒は和算研究者とし 訳がない和算書から引用して問題



和算を現代の式に

ポスターを使った発表で生徒の 説明を聞く小林教諭(右)=10 月9日、竜ヶ崎第

【最優秀賞選評】

仁 東京理科大学教授 秋山

「和算の研究を通じて、江戸時代の 人々の暮らしと数学の使われ方を探 究している点を高く評価した。 生徒の 研究成果を日本語と英語でネット上 に公開していることも称賛に値する」

1 はじめに

近年和算に関しては伊能忠敬、間宮林蔵の偉業をたたえるテレビ番組がしばしば見られ、映画には「天地明察」、アニメ「算法少女」などの作品がある。中学校・高等学校の検定教科書においては和算に関する記述が巻頭等にみられる。また、中学校・高等学校における探究課題として次のものがあった。

- ●算額を作る活動 早稲田中学校 他
- 2 算額を調査 筑波大学附属駒場中高等学校
- 3 塵劫記の読解 大阪市立東高等学校

このように、和算は高校生にも教育、探究されているが、その例は多いとはいえず、また、その探究を全員で行っているとは限らない。

一方、本校における和算に関する教育活動は 2009年に遡る(表1 算額をつくろうコンクール出 展数)。生徒1名のみの「算額」を創る活動であっ た。その後、「茨城版サイエンスハイスクール*1」 に指定され、2014年度には文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)となったこともあり、全日制1年生に「算額」を創り、「算額をつくろうコンクール」に出展させる指導をしてきている**2。また、2012-13年度には定時制において、さらに2015年度から近隣の牛久市立ひたち野うしく小学校において出前講座として6年生希望者を指導する機会をいただくなど活動をつづけている。

さて、SSHは高等学校における科学教育に関する新たなカリキュラムを作ることを目的のひとつとしており、独自の教育が可能である。そこで、我々は和算を活かしたSSHにおける活動を通して、生徒たちに主体的・対話的に深く数学的活動をさせ、さらにグローバルな視点の持てる活動をさせたいと考えた。そこでSSH指定のための申請書作成段階から、和算に関する探究を学校設定科目として提案し、準備を重ね、2014年春、本校は全国に約200校あるSSHのひとつとなった。本稿では2014年より継続的に行っている学校設定科目「白幡*3 探究I【数学領域】」における和算を題材とした探究について報告する。

■ 表 1 算額をつくろうコンクール出展数

1976日	竜ヶ崎	奇一高	牛久市立ひたち野
開催回	全日制	定時制	うしく小学校
2009年度 第12回	1		
2010年度 第13回	216		
2011年度 第14回	220		
2012年度 第15回	257	94	
2013年度 第16回		78	
2014年度 第17回	273		
2015年度 第18回	275		19
2016年度 第19回	264		29
2017年度 第20回	276		33
計	1782	172	81
総計		2035	

2 白幡探究」【数学領域】

1. 概 要

■ 単位数

本校における SSH に関する学校設定科目と して1年生の「白幡探究I」がある。 2単位を数 学と理科で1単位ずつ分ける。数学に関する1 単位を【数学領域】と呼ぶ。

2 担当教員

これまで次の教師がTTで担当している。

2014年

A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
小林	小林	小林	小林	井坂	井坂	井坂
染川						

2015年

A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
小林	田上	神坂	小林	神坂	小林	小林
田上	軽部	軽部	軽部	軽部	田上	神坂

2016年

A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
小林						
木戸	軽部	木村	木村	木戸	軽部	軽部

2017年

Αż	組	B組	C組	D組	E組	F組	G組
井	坂	軽部	田上	軽部	井坂	田上	小林
軽	部	井坂	軽部	田田	小林	井坂	田上

2018年(指導中)

						G組
小林	岡部	小林	田上	岡部	田上	小林
中山	小林	岡部	岡部	中山	中山	中山

担当教師氏名:井坂直樹 岡部 剛 軽部清子 神坂幸弘 木戸崇智 木村恵男 小林徹也(代表) 染川朋也 田上一洋 中山優吾

2. 実践報告

● 数学史序論

学年当初の4時間で、和算の基本について学ぶ。

ア和質の歴史

奈良時代から明治期までの我が国における数 学・数学教育全体をスライドにより1時間で学ぶ。 例えば、日本の公的な数学教育は、701年、教 師として算博士2名が生徒30人(13歳から16 歳)に、教科書として主に九章算術を用いて指導 したことに始まること。また、江戸時代に和算が 普及発達した理由として「遺代継承」「算額奉納」 「遊歴算家」の3つが挙げられることなどを学習す る。このようにして生徒たちは次の2点を学ぶ。

- a. 日本に奈良時代から数学・数学教育史が存 在したこと
- b. 生徒自身がその歴史の延長線上にいること

イ 和算の問題を解く活動

江戸時代における和算の問題を解く活動を1 時間行う。例えば、最も有名な和算書といえる 「塵劫記」から「からす算」と呼ばれる次の問題 を考える。

「999の浜でそれぞれ999羽のカラスが 999声ずつ鳴いたら、全部で何回鳴いたこと になるか」

生徒は

$$(a - b)^3 = a^3 - 3a^2b + 3ab^2 - b^3$$

を既習である。したがって、公式を用いた解答 を引き出すことができる。さらに、縦に桁を揃え るとわかりやすいことを学ぶ。

$$999^{3} = (1000-1)^{3}$$

$$= 1000^{3}-3 \cdot 1000^{2} \cdot 1+3 \cdot 1000 \cdot 1^{2}-1^{3}$$

$$= 1000\ 000\ 000$$

$$- 3\ 000\ 000$$

$$+ 3\ 000$$

$$- 1$$

$$= 997\ 002\ 999$$

この指導により次の2点を学ぶ。

- a. 約400年前の和算の問題を自分の既習の 数学を用いて解くことができること
- **b.** 現代の数学を用い工夫して解を表現すること

ウ 和算の有用性についてのビデオ学習

和算が有用とされた理由をビデオ教材で1時間学ぶ。間宮林蔵は現在の茨城県つくばみらい市の出身であり、本校にはその地域から通学している生徒もいる。彼らは小学生のとき、地元の偉人として調べ学習等を経験してきている。また、伊能忠敬は現在の千葉県香取市の生まれであり、本校から車で1時間ほどの距離である。そこで、本校地歴科小野威人教諭にそれらの偉人の偉業を取り入れたビデオ作成を依頼した。江戸時代における「海防」のための測量の必要性を中心に小野教諭が講義する形でのビデオを生徒たちは鑑賞する。このようにして生徒たちは次の2点を学ぶ。

- a. 江戸時代における和算の必要性
- b. 和算と地域との関連

②「算額」をつくる活動

「算額」を奉納する活動が江戸時代から昭和の初期、庶民の間に流行した。「額」に描いた数学の問題「算額」を神社・仏閣に奉納する行為である。問題を作成でき解けたことに関する神仏への感謝

を表したもので、全国に約900面現存するといわれる。一方、「算額をつくろうコンクール」とは、B4 判の用紙に「問」問題、「答」答え、「術」解き方、さらに図や絵が書かれた「算額」を顕彰する活動で、NPO和算が主催する。上位4作品は東京神田明神に奉納される。昨年20回目の開催となり、2322作品の出展があった。本校はこの活動に9年間参加しており、全日制1年生さらに年度によっては定時制全4学年が出展してきている(前出)。

教室での活動は2時間である。まず、「算額」 とは何か、「算額をつくろう」とはどのような活動 なのかを学習し、次の時間までに下書きを作成 する(1時間)。次に、生徒達は下書きを持ち寄 り、班ごと(後述)に互いに検討し合う(1時間)。 その観点は次の通りである。

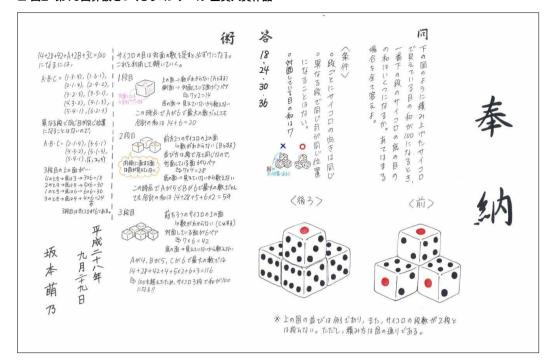
- a. 数学的な 簡潔さ 明瞭さ 的確さ 難易度
- b. 図的な バランス 読み取りやすさ 適切さ

作品作成は長期休業(夏休みまたは冬休み)の宿題とした。作品は全て「算額をつくろうコンクール」に出展する。さらに、教師はすべての作品をデータ化、A0判用紙に8点ずつ並べて印刷、本校生徒研究発表会(後述)において教室の廊下南側に計35枚展示する。なお、第19回では1名が最高の賞である金賞を受賞(図2)、第20回では銀賞1名、銅賞4名が受賞した。

■ 図1 算額を鑑賞する生徒達



■ 図2 第19回算額をつくろうコンクール 金賞入賞作品



3 和算書の解釈と表現

【数学領域】において中心となる探究である。

ア 和算書の選択と概要

解釈する和算書は、和算研究所 佐藤健一理 事長にご相談し、本校1年生の既習を勘案しふさ わしい和算書の推薦をお願いしたところ、これま で次の3つの和算書をご呈示いただいている。

資料A

- 書名 見立算法規矩分等集
- 1722年 万尾時春 著
- 国会図書館に写しあり。
- 伊能忠敬の蔵書に有り、伊能の器具を譲り 受けた間宮林蔵も読んだと推察できる。
- 原典を佐藤健一先生より借り受け。
- 現代語訳や解説書は存在しない。
- 和算書をスキャナーでデータ化、生徒に分与。

■ 図3 資料A (原典)の最初の問題



資料B

- 書名 算法勿憚改
- 1673年 村瀬義益 著
- 原典をTIFFファイルで佐藤健一先生より 拝受。
- 原典のままでは字体がわかりにくく読みとりにくい。

• 現代語訳はない。現代に活字化(西田、 1993) されたもの有り。それをコピーし 生徒に分与。

資料C

- 書名 算法關疑抄
- 1659年 磯村吉徳 著
- 原典を佐藤健一先生より借り受け。
- 現代語訳はない。現代に活字化(西田、 2010) されたもの有り。それをコピーし 生徒に分与。

以上の和算書のうち1間を1つの班に課題とし て1編ずつ与える。

2014年 資料A 56編^{*4}

2015年 資料A 24編 資料B 32編

2016年 資料B 56編

2017年 資料C 56編

2018年 資料C 56編

■ 図4 資料C 原典 の一部



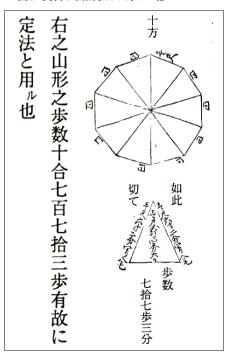
また、問題が極端に短い場合あるいは容易と 見なされた場合は複数を1つの班に、極端に長 く難解と思われたものに関しては複数の班に担 当させた。

これらの和算書の特徴は、現代語訳が存在し ないことである。このことは図書館、ネット等で 調べても答が見つからないことを意味し、生徒た ちに責任と意欲を与える結果となった。我々は 「生徒たちは最先端の和算研究者」といえる状況 を作ったともいえる。

イ 班編制について

活動は班ごとに行う。1班5人とし、男子2または 3人、女子2または3人とした。各クラス8班であ る。各班に、班長1名、現代語訳担当・数学的 内容担当・英語訳担当・デザイン担当を決める。 2016年度から「江戸文化」係を加え、読み解く和 算にある江戸文化について調べまとめる担当とした。

■ 図5 資料C 西田(2010)の一部



ウ 探究活動について

6月より約7ヶ月をかけて次の活動を行う。なお場所は、はじめは各普通教室で、コンピュータが必要になる9月頃から特別棟コンピュータ教室で行う。

(ア) 和算書の内容を現代語に翻訳 約5時間

原典や活字版から内容を読み取り、現代語に翻訳する探究である。生徒たちは主に次の3つの壁に当たる。まず、度量衡 (例:尺・貫・歩)や見慣れない和算の用語 (例:鈎股弦)等に戸惑う。それらの多くは「和算用語集(佐藤、2005)」等和算に関する解説書を読むことで解決する。次に問題・解・解法がどこからどこまでなのか明示されてないことに戸惑う。これは読解し、意見を出し合ううちに解決される。最後に解き方が生徒が既習の現代数学と異なったり、表現がわかりにくいことに戸惑う。これは次の(イ)にあるように、自分の既習の数学で考えることで解決することが多い。

■ 図6 教室で探究する生徒達



■ 図7 教室で探究する生徒



生徒感想:和算の問題を読むのは古文を読解することと共通の部分もあったが、和算独特の数量や単位があり、現代語にすることが難しかった。また、省略されているところを推測で補うことも数学的内容が理解できていないと推測しがたく、数学的内容を理解していなくては現代語訳できなかったので数学的内容と同時進行で行うようになってしまった。

(イ) (ア)で現代語に翻訳された文章を現代の数学的な式や図に表現 約3時間

数学的に多くは相似や三平方の定理に関する中学生レベルである。一部に開平・開立、数列、天文学、地学、力学といえる未習のものがあり、教師が指導したり、生徒が自習したりした。生徒たちは表現や考え方の違いに苦労しながらも既習の数学を用いて読み解こうとしていた。そうするうちに和算書にある同じ数値が出てくることに驚くことが多い。

生徒感想: 普通、私たちが計算するときに、 求める数をxなどの文字に置き換えるような 問題に対し、当時の人はその文字を使わず 計算していたため、最初は、当時の人の考え 方を理解することができず、苦戦していた。 しかし、一度自分なりに解いてみたことで、 共通する考え方を発見し当時の人々の考え 方を理解することができた。

(ウ) (ア)、(イ)で現代語、数学的に表現したものを英語に翻訳 約3時間

翻訳のため生徒達はネット上の翻訳ソフトも 一部使用した。しかし、それらの訳はそのままで は問題があることに生徒自身が気づいており、訳 に責任を持つことを指導した結果、生徒達自ら が修正した。

生徒感想: 英語には主語がなくてはいけないのに、和算の問題となると主語がなく一文ずつ主語を考え、主語を立てることが一番大変だった。×(掛ける)、÷(割る)などの数学的内容の語句は、訳し方がたくさんあることが学べた。また、習っていない文法を調べながら訳すことができたので、英語力の向上につながったと思う。もう少し時間に余裕があったら、じっくり文法を調べて、もっときれいな英訳がしたかった。

その上、今回の英訳で語彙力がまだまだ足りないと実感した。

(エ) (ア)~(ウ)の内容をポスターに集約 約4 時間

生徒たちの多くはWordやPowerPoint は中学で基本的なことは既習であった。さらに、必要に応じ数学担当の生徒に図形関数フリーソフト「GeoGebra」を20分程度指導した。生徒の習得は早く、指導後は各自で図形を、一部の生徒は3Dで作成していた。

生徒達はより理解しやすく、バランスの整った ポスターを作るため、フォントや図など様々な工 夫をした。班によっては背景に和柄を用いたとこ ろもあった。

生徒感想: 班によって問題の量は異なり、全て同じデザインは見られない。自分たちの問題に見合ったデザインを考え、ポスターを見ている人の興味をそそり、話の流れが聞いていてすぐ理解できるようにしなければならな

い。簡単な役割だと思っていたが意外と時間 がかかったのはそのためだろう。人に見せる ことを意識してデザインするのは難しいこと を今回の発表を通して感じた。

(オ) 全員が各教室で計56件のポスター発表 2時間

SSH事業の成果発表として「竜ヶ崎一高SSH 生徒研究発表会」が毎年1回開かれている。そ の午後にこの探究のポスター発表が行われてき ている(図8、図9)

A. 期日

平成 27 年 1 月 31 日 (土) 平成 28 年 1 月 21 日 (木) 平成 29 年 2 月 26 日 (日) 平成 30 年 1 月 27 日 (土)

B. 時間 13:20 ~ 15:30

上記時間を前後に2分割し、前半の時間でクラスの半分(1、3、5、7班)が発表、その他(2、4、6、8班)が参観、後半は入れかえする発表形式とした。

■ 図8 教室におけるポスター発表 1



■ 図9 教室におけるポスター発表2



C. 発表

ポスターの内容について、班の全員が自分の 担当箇所を発表する。一部英語の発表もあった。

- 発表時間 各班約5分 を3回程度
- 参 観 者 1年生の他に、和算研究者、SSH 運営指導委員、2年生全員、保護者、教職員 が参観した。参観者にサインを求め、その数 を意識させる仕組みを作ったことも功を奏 し、1時間で少なくとも29名、最大111名に 説明した班があった。

生徒は発表を通し次のことを学んだ。

- a. 人に考えを伝える難しさへの気づきと克服
- **b.** 内容の問題点を指摘されたり自ら気づいたりすることによるポスター改善の必要性

生徒感想:私は江戸文化で貨幣の流通の歴史について発表した。発表では、流通の流れを順序よく簡潔に話すことができるように意識した。グループで協力して指し棒を使いながらわかりやすく発表できた。英語に関しては、まだ慣れない部分があったのでもう少し

練習する必要があったかと思う。

(カ) ポスターと「算額」の掲示

発表会終了後廊下の「算額」はそのまま、探究したポスター (例として 図 11) は廊下北側に貼り直し、1週間展示した (図 10) **5。生徒達には他のポスターや算額作品を鑑賞し参考とするよい機会となった。

■ 図10 「算額」・探究したポスターの掲示



(キ) ポスターの修正 2時間

ポスター発表の際の指摘や自らの反省にもと づいてポスターを修正した。

(ク) 各クラスにてポスター発表 1時間

各クラス単位でポスター発表を行い生徒の投票によりクラスにおけるベストポスターを決定した。

■ 図11 2017年度ポスター「帯縦開立法について」

classic knowledge in the body.



係:根岸 NEGISHI 並松 NAMIMATSU

(ケ) 報告集とWEBライブラリーに掲載

平成26・27・28・29年度スーパーサイエンスハイスクール研究探究報告集(竜ヶ崎一高、2015、2016、2017、2018)にポスターをすべて掲載、各年1年生全員に配布した。さらに、ポスターを全て本校ホームページからリンクを貼り、「和算ライブラリー」(図12)とし、閲覧できるようにした。これらの予定を生徒に知らせることにより、生徒は自分たちの作品に責任を持って取り組み、また達成感を得ることになった。

■ 図12 「和算ライブラリー」の一部

		245334	MARKE			中学生の名さんへ	平果生の住さんへ		
	ENM	English Website	\$15 Incobook						
	物學改《71四》	t>						Mersu	
HEAR SHE		M ft To				=-D-F KerWord		_	
116	FIRE PLATES	図 III 169 米の計算と江戸の東京					188-31159 ± 0.355	● 7位生活	
98	Tisski secodi			and the same of th			198*314199 = 0.364s hp=100shous=3toSehou=0.35ksku		
\vdash	_					raw nee bag i teosumit ope 原位定律	m- rommon-securitar-0.3000c	1人1人が様く切りある	
2.35	71s852.pdf	1692.pdf Amount of rice Amount of ri						● 学校づくり推進事業	
-	_	SCHOOL STATE							
999	71st\3.pdf	Ratio and Fare				180		€ PTA	
_		1000年 ~橋の機製~							
498	71sthiluor.pdf	The tool of making silver from one				tiù ercentage			
686	PRINCIPLE PRINCI						O DMERS		
HE	2.3985.pdf	About reoney exchange				oney exchange			
635	The AG out	10 H			,	19.62			
100	C.15470.003	Interest calculation				derest debt		● グローバル	
735	TSstAT out	会利計算を用いて示め				(銀元金			
-			g Compound interest o	alculation		derest debt principal			
133	TissAG pot	利息を求めよう				頁14分 15011年0頁110分		● 保健党から	
, .		Let's find an interest			ryon-bu Imarme=1/50r	yo+10bu			
1426	e							«в−толюѕ	
88	File Name	E III Title				- 7 - F KeyWord			
33	TtoBtverpdf	入籍に割り当てられる				れ子算		。プライバシーボリシー	
002	F 1980 I VAR DOE	How to find the price as				ekozan		● (m / \$ (m / 5)	
2 99	TssB2.od	体体を用いて木材の個枠を収める問題				(打力会 技能			
6.74	LUMAAAA	Thisproblem is that we	calculate wood price w	th cubic.		VOOD MONEY VOLUME		- 休鮮サーバー等の利用に	
199	71stB3.pdf	大打の体積と他位 円標章				O JUC O			
_		Wood valume and price			suadrature of circle ratio		_		
499	71stB4.ocf	他の他舞と舞さの関係				(明) 数5分			
Ė	-	RELATION of the length				/bod(Board) The silver of 6D	OR OT SEU	SSH	
689	TistR5 pcf	O O BISOLOGIA BULLICA CA Maria much ma Kasin da				ISS arin Ames			
-	-	How much are Kerin Ames? RivationEttiefelia?				SE SAN	甲烷2.8年度		
615	TistB6 pcf	Rak the area of the rice	field.			rapezoid Rectangle		0.762758	
-	_	江戸地区の検索と影響				SULEAR DESIGN	in THE WA		
723	TistT pcf					too field, source of triangle discharge atta flours height			
		第の種の長さを円形の4				FA RECORD BY		a man creat	

http://www.ryugasaki1-h.ibk.ed. jp/?page_id=237

3. 考察

本探究の特徴は次の通りである。

● 1 年生全員が対話的に行ったこと

生徒たちは自らのよさと他人のよさを認め合い、活かし合いながら探究を進めることができた。

② 現代語訳及び解説書のない和算を題材にしたこと

生徒達は和算の先端的な研究者となり主体 的・意欲的に取り組むことになった。 ❸ 古文から現代語訳、数学的に表現、さらに 英訳し、ポスターに集約したこと

活動に幅を持たせ、かつ各教科の重要性、連携させることの必要性を学ぶことになった。

- ◆ ポスター発表のための工夫と経験をしたこと ポスターの作成、および言葉・身振り手振り を用いた発表表現を学ぶことができた。
- ⑤ ポスターすべてを報告書、WEBに掲載 これにより成果に責任と達成感を持たせることができた。

6 数学を創る活動をしたこと

「算額」を創ることで、数学を「創る」「表現する」活動をおこなった。

生徒の感想によると和算書の翻訳・発表、「算 額」の作成ともに始めは自分の能力を超えたもの と困難に思っていた生徒が多くいる。しかし原文 の現代語解釈を協力し合いながら乗り越えると、 比較的スムースに探究が進み、自信がつき、協 力し合うことの有用性、重要性がわかったという。 さらに、国語・数学・英語・地歴・情報のそれ ぞれの学習に自信がつくとともに教科を横断した 学習の重要性に気づいたという。和算という文化 があったことに驚き、自国文化の一部を理解する ことができ、英訳と合わせグローバルな視点をも つことができた。算額を創ることにより数学創造 の楽しさ、難しさ、達成感を得ていた。ポスター の作成およびポスター発表により、表現すること の必要性、困難性、発表内容を振り返る機会と なった。最後に、報告書、WEBへの掲載による 達成感と公表することの責任感を得る機会を得 たといえる。

3 和算を探究することの価値

和算を探究することには次の価値もあると考え られる。

1. 数学を題材とした 探究活動の増加への寄与

現在の高校生の探究活動では数学は理科に 比べると件数が少ない。一方、次期学習指導要 領では教科「理数」に科目「理数探究基礎」「理 数探究」が位置づけられる。本探究は「理数探 究基礎」に対応する。本探究をそれに活かすこと で今後の数学を題材とした探究の少なさの解決 策のひとつになると考えられる。

2. 学術としての和算研究への寄与

我が国独自の文化であり数学である和算につ いて、現代語訳および解説書のない和算書の生 徒による読み解きが学術としての和算研究の一 助になること、さらにそれに興味を持つ海外の研 究者への好影響*6が期待できる。

今後の課題

「和算序論」を学ぶ場面では教師による講義 の部分が多い。今後は生徒らの「調べ学習」を基 本に置くことが挙げられる。

つぎに、本探究における生徒の現代語・英訳 には改善すべき表現があることが指摘されてい る。また、各活動における生徒の評価を改善す る必要がある。以上の解決には、数学科教員の みならず、国語科、英語科の協力が必要となる。

本年は試験的にそれらの教師の協力を得ている が、今後いっそうの連携が望まれる。

加えて、探究の過程を整理するに当たっては、 探究の目的、仮説、方法、結果、分析、考察、 推論、今後の課題、参考文献等の必要事項を意 識させつつ、ポスター等にまとめることが望ましい とされる(文科省、2018)。指導上意識をさせて はいるが、現状のポスターはそのような表現となっ ていない。今後そのようにすることもめざしたい。

謝辞

佐藤健一 理事長 はじめ和算研究所の 方々には資料の提供の他、様々なご指導をいた だきました。ここに御礼申し上げます。

引用・参考文献

- 佐藤健一代表(2005).和算用語集,研成社.
- 西田知己·校注(1993).江戸初期和算選書第 3巻3算法勿憚改,研成社,
- 西田知己·校注(2010).江戸初期和算選書第 10巻1算法關疑抄,研成社,
- 万尾時春(1722).見立算法規矩分等集上下.
- 文部科学省(2018).高等学校学習指導要領 解説 各学科に共通する教科「理数」編. p31.
- 竜ヶ崎第一高等学校(2015、2016、2017、 2018).平成26年度指定スーパーサイエンスハ イスクール 研究開発実施報告書.第一・二・ 三・四年次. 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校.
- ※1 理工系医薬系人材育成のための茨城県の事業。
- ※2 2013年度全日制は不参加であった。
- ※3 「白幡」とは本校所在地名に関係することばで、同窓会名 等に用いられてきている。
- ※4 56編に加え3編を生徒が個人的に探究した。それらを入れ れば59編となる。
- ※5 2016年度は発表会後の展示はなかった。
- ※6 実際、国立台北教育大学英家銘准教授に本校の平成28 年度SSH研究探究報告集をご覧いただいたところ、和算 について多くの知見を得た旨のメールをいただいた。

未来を拓く科学大好きっ子の 育成を目指して





茨城県日立市 NPO 法人 日立理科クラブ 代表理事

たきざわてるひろ 瀧澤照廣

日立理科クラブは日立市教育委員会のご指導と日立製作所のご理解により2009年5月設立。会員数100名で6つのプロジェクトを推進。発足時の代表理事は佐藤一男、2017年5月から瀧澤照廣。1949年生まれ。1974年東北大学大学院工学研究科電気及び通信工学専攻修士課程修了。1974年(株)日立製作所入社。1995年日立工場電力設計部長。2004年電力グループ技師長。2007年(株)日立エンジニアリングアンドサービス社長。2015年同社退社。2017年5月NPO法人日立理科クラブ代表理事就任。現在に至る。連絡は、茨城県日立市神峰町1-6-11 日立市教育プラザ内日立理科クラブまで。

に様子だった。

クラブ設立から9年半。 会員は

【理科教育】

ったより走るのが速く、電気の力 2時間かけて全員が完成させた。 6年生の16人が参加し、クラブの 車」。電気をためられるコンデンサ クラブが月2回開く「モノづくり ラブが入居する茨城県日立市のビ 10月27日、NPO法人日立理科ク ね。こうだよ」と手ほどきし、約 付け、最後にラミネートのボディ ンサー、LED、車輪などを取り 工房」の一幕だ。 ルの一室に子供の歓声が響いた。 はすごいと思った」と興味を深め 小学4年の緑川充清君(10)は「思 ーをかぶせる。会員が「よく見て 会員8人がサポートに当たった。 ターを回す。 幼稚園年長組~小学 -を使い、乾電池で充電してモー この日のテーマは「電気自動 木製の台座にモーターとコンデ 「おー、動いた」「速い、速い」。

理科教育 NPO法人日立理科クラブ (茨城県日立市)

活用にも大いに参考になるだろう」 は、他地域での科学ボランティアの ルだ。10年近くにわたる活動の実績 校の理科教育に生かした優れたモデ 房理事長「地域社会の人材を小中高 滝川洋二・NPO法人ガリレオT



電気自動車づくりに挑戦 する子供たちとサポート するメンバーら=10月27 日、日立理科クラブで

界のOBら約100人に上る。 モ までに延べ7100人超が参加し やリニアモーターカー、磁石コマ など様々なテーマを設定し、これ ノづくりを指導する工房では風車 工房担当の梅原昇理事(77)は

モノづくり楽しむ

地元の日立製作所関連企業や教育

の楽しさを通し、理科を好きにな ってもらいたい」と願う。(谷和幸) 「科学のおもしろさとモノづくり

【最優秀賞選評】

滝川洋二 NPO法人ガリレオ工房理事長

「地域社会の人材を小中高校の理科 教育に生かした優れたモデルだ。10 年近くにわたる活動の実績は、他地 域での科学ボランティアの活用にも 大いに参考になるだろう」

概要:日立理科クラブは企業OBが市民、学校現場、行政、企業のご理解とご支援をいただき ながら科学好きな小中学生の育成を目指した活動を推進し、今年10年目を迎えた。 子ども達の驚きや笑顔、現場の先生たちの熱意が支えとなり活動が活発化している。

1

はじめに

科学創造立国日本の将来を担う青少年の理 工学離れは深刻な社会問題になっている。この 状況を打開するため、明治時代から鉱業と電気 機械産業を中心に日本有数の工業都市として成

長してきた日立市は「科学する力」を養 い、「科学大好きっ子」の育成を教育目 標に掲げた。一方日立製作所は創業 100周年を迎え地域貢献を記念事業の 一つとして日立市教育委員会との連携 を検討していた。そして高度成長を支え てきた企業OBが職場経験を理系人材 育成に役立てようとエネルギー・環境分 野の教育支援活動に着手していた。こ れら行政の熱意と企業の地域貢献、シ ニアエンジニアのボランティア精神の連 携により、図1のように2009年5月 「NPO法人日立理科クラブ」が発足し た。子ども達の学力向上や日立市の活 性化に貢献、さらには茨城県をはじめ日 本の青少年の理科教育の振興に資す ることを目指している。

会員は、日立製作所グループ企業の 工場や研究所に勤務してきた理工学博士、技術士、製造現場の匠をはじめ教育界のOBも加わり、現在約100名が 日立市全小中学校の理数教育支援活動を展開している。その活動は多岐にわたり、図2のように大きく6つのプロジェ クトで推進している。モノづくりの技能や科学の 不思議さ・楽しさを伝えたいという熱意はもちろん、子ども達の素朴な疑問や納得の笑顔、現場 の先生方のまなざし、保護者の支援など様々な 要因が日立理科クラブの理数教育支援活動の 原動力になっている。

以下、それぞれの活動内容を紹介する。

■ 図1 理科クラブ開所式(2009.5)



■ 図2 科学への興味・楽しさ・創造力を育む ユニークな6プロジェクト



各プロジェクトの 活動概要

1. 理科室のおじさん

最もユニークな活動プロジ ェクトは「理科室のおじさん」 である。図3に示すように日立 市内25の小学校すべてに、 调2回、理科室のおじさんを 派遣している。理科クラブが 発足した2009年当初は6校 でスタートしたが、その年度末 には11校、翌年には19校、

そして2011年度には全25校に派遣され、学校 現場から大きな評価をいただきながら各校の状 況に応じた活動を続けている。年間派遣日数は 1700日、8000時間を越える状況になっている。

当初は物置場のようだった理科室・理科準備 室の器具・部品の保管方法の改善から始め、器 具類の修理・保守、代替品の調達などが主な作 業であった。その後は先生方から授業計画を相談 されたり、実験器具の事前準備など、理科教科 の本筋である理科実験の支援への注力が要請さ れるようになり、さらに、次年度の理科教材・部 品・備品のリストアップと必要教材の予算化のた めの資料準備なども行っている。そして子ども達 が楽しく理科を学べるように、それぞれの学校で 抱える理科教育の課題や学校の要望に沿った活

動を展開している。子ども達の 疑問・質問にもやさしくわかり やすく説明したり、自由研究の 相談を受けることも増えてきた。

図4のように、おじさんが実 験の一部を担当して理解を深 める支援形態も多い。例えば、

■ 図3 「理科室のおじさん」の活動

(1)理科室のおじさん

【小学校駐在】

- 1. 理科室に駐在(2回/週)
- 2. 授業の準備·教材作成
- 3. 授業の補助・実験演示
- 4. 理科室整理·器具修理





水に酢、食塩、水酸化ナトリウムなどを溶かした溶 液の酸性、アルカリ性は紫キャベツで判別できるこ とは教科書で説明されている。しかし実際に実験す る先生は比較的少ない。ここでおじさんが活躍す る。紫キャベツ液を作ってこれらの溶液を入れた試 験管に滴下すると見事に色が変わり「わーキレイと いう歓声があがる。このような実体験が理科の現象 理解に大変役立ち、理科好きの出発点になる。

また、理科室のおじさんは、他校の科学クラブ 支援に参加したり、毎年行っている「おじさん研 修会」(図5)での交流などにより、自己の守備範 囲の拡大に日々研鑽している。

このため、校長先生をはじめ現場の先生方か らの信望も厚く、おじさんの健康状態まで気遣っ ていただくことも多い。



■ 図4 授業実験を分担するおじさん ■ 図5 「理科室のおじさん」研修会



2. 授業支援

図6のように、学校の授業に 出向いて、オリジナル教材で理 科の興味と関心を高める支援 授業を行っている。授業支援 の大きな特徴は、科学が身近 な製品の技術向上に大きく寄 与している事例を紹介し、理科 を学ぶ必要性・重要性の理解 に役立つよう、手作り教材の創 作や目で確認しやすい説明上 の工夫をしていることである。

理科の授業ばかりでなくク

ラブ活動として運営されている科学クラブも含め て小中学校現場の先生方と相談しながら授業内 容や教材の工夫・改善につとめている。教育委 員会指導課の主催で夏休み期間に実施している 「日立理科クラブ活用研修会」で、主に新任の先 生たちに実際の教材を体験していただくだけで なく、授業概要を示した資料やワークシートの開 示、さらには教育風景や教材の動作を映像化し たDVDを各校に配布するなど、子ども達の理解 や興味を高める授業教材として活用しやすくす る働きかけにも注力している。

具体的な授業支援メニューは小中学校で50 件以上あるが、以下いくつかを紹介する。

(1)コップスピーカー: コップの底にコイルを巻い てCD音楽の電流を流し磁石を近づけるとコッ プがスピーカーになることを実感させる(図7)。 小学校のおもしろ理科実験として音が空気振動 で聞こえる原理を理解できるようにするとともに、 中学生ではスピーカーは電磁力、マイクは電磁 誘導が関係し、フレミングの左手の法則との関 連性についても言及する。

■ 図6 「授業支援」の活動

(2)理科授業支援

【小・中学校から高校へも】

- 1. 理科授業・科学クラブ支援
- 2. 自作教材による実験・体験
- 3. 教科書に加え発展的内容
- 4. 身近な製品や現象を解説



■ 図7 コップスピーカー



②エネルギー変換:中学生向きに、磁石とコイ ルを動かすことによって誘導電流が発生し、この 動きを連続回転する動きにしているのが発電機 の原理であることを教材で紹介する。その回転力 を生み出すエネルギーが風力、水力、火力、原 子力など発電方式の名前になっていること、発生 した電気を光に変えて光ファイバーで送れば光 通信で音声や映像を受信できることなど電気を 中核としたエネルギーの移り変わりが理解できる ようにしている。

③光の三原色:赤・青・緑のLEDの組み合わ せで黄・ピンク・水色・白を出せることを図8の 教材で示しながら、LEDの発光原理や青色 LED発明の重要性を理解させる。さらに液晶テ レビが三原色で構成されていること、照明や信 号のLED化で大きな省エネルギー効果が得ら れることなども伝えている。

■ 図8 三原色LEDによる光の合成



④空の色と虹:空は青く夕焼けが赤く見えるの は?虹はなぜ7色?、など光の不思議を解き明か す。太陽光がいろいろな波長の光で構成され、 その波長の差異による屈折、散乱が関係している ことを体感できるようにしている。懸濁液を入れ た水槽に光をあてると、青空や夕焼けに近い色に なることを見て空の色の変化を納得し、分光で虹 のように色が分かれることで太陽光はそれらの色 が混ざっていることを理解できるようにしている。

⑤月と太陽:図9のように体育館で月の満ち欠 けが太陽、月、地球の位置関係で起こることを 実感できる授業を行っている。地球を運動会で 使う大玉転がしのボール、太陽を講堂の演台に 配置し、太陽の影を黒塗りしたバスケットボール を月に見立て、これらの月を地球から半径約10 mの円周上に8個並べる。地球から見ると3者の 位置関係により新月、上弦の月、満月など月の 満ち欠けが起こることがよく理解できる。日の出・

日没・深夜など1日の変化や日食なども体感でき るようにしている。

■ 図9 体育館での「月と太陽」



⑥空気と水と金属の体積変化とあたたまり方:

図10のように食紅で赤く着色した水を入れた試 験管中に差し込んだ管の中の液面が冷水、温水 に浸した時に変化することで空気と水の体積変化 を調べる。空気は水に比べ圧倒的に膨張しやすい ことを実感し、温度計も同じ原理であることを気付 かせる。金属については、アルミ管2本を両側に 水平におき、その下から複数のガスコンロで加熱

■ 図10 体積変化・あたたまり方



し、アルミ棒の隙間が次第に狭くなることをWeb カメラで拡大表示し、線路、橋、電車の車輪など はこの体積膨張を考慮した設計が重要であること を解説している。また、あたたまり方についても密 度変化で起こる対流やサーモグラフィーによる 「見える化」で理解しやすいように工夫している。

⑦閉じ込めた水と空気:図11のように水ロケッ トを飛ばすグラウンドでの授業で噴出する水の 力の大きさにおどろき、教室での授業で空気と水 の圧縮の違いや水の噴出力を利用した作用・反 作用の現象について解説することによりわかりや すい学習を提供している。

■ 図11 グラウンドで水ロケット発射体験



⑧振り子やてこ:長さや重さの異なる振り子の周 期を測定して基本的な等時性やエネルギー保 存則を学習し、スネーク振り子のおもしろさで印 象づける。またてこでは作用点・支点・力点を理 解し、実生活での滑車への応用を図12のよう な実際のチェーンブロックを使い少しの力で浮 き上がることを実感できるようにしている。

③水溶液の性質:水に酢、食塩、水酸化ナトリ ウムなどが解けると電気を通しやすくなる。酸性・ アルカリ性だけでなく、電気の通りやすさが異な ること、砂糖と食塩は外観は違わないのに電導性 は全く異なること、ポカリスエットなどスポーツドリ ンクは電気を通しやすく、人間も電気を通しLED

ライトやブザーを介して両手をつなぐと点灯や音 で自分も電解質であることを理解させている。

■ 図12 てこを応用した滑車



⑩南極越冬隊体験談:越冬隊経験者である会 員により、キャリア教育も兼ねて図13のように極 地の体験を伝えている。南極までの道のり、生 活、気温、極夜、オーロラ、隕石、動物の生態 等南極の特徴を動画をまじえて解説する。さら に、南極の深層氷の不思議な発泡挙動を直接 観察する実験も取り入れ、地球環境と関連させ た内容にも踏み込んだ発展的授業も行っている。

これら授業支援は年間500時限以上、受講生 徒数は15,000人を越えている。この点で理科 室のおじさんとともに学校に最も密着した活動と

して教育委員会や現場 の先生方の期待が大き い。約40名がこの授業 支援活動に携わっている。

■ 図13 南極越冬隊体験談



3. 理数アカデミー

図14に示すように、将来、研究者やエンジニアを目指す意欲のある小中学生を対象に理科クラス、数学クラス、自由研究コースからなる発展的な内容の「理数アカデミー」を開講している。日立理科クラブ設立時の2009年度から、市内15の公立中学校と1つの市内私立中学校を対象に、日立市教育委員会指導課により教育長名で中学1年~3年の

各学年15名の受講生を目標に募集を開始した。 そして、自由研究(発足当初は"テーマ研究")コースは、日立理科クラブがJST(科学技術振興機構)の「次世代科学者育成プログラム」に採択された2012年度からスタートさせた。受講生の自主的向学心を伸ばすために講師とマンツーマン体制で研究者・技術者を疑似体験し、研究の進め方から考察、結果のまとめ、さらにポスターにまとめて

■ 図14 「理数アカデミー」の活動

(3)理数アカデミー

【やる気のある小・中学生】

- 1. 学年別に年13回のハイレベルな手作り授業
- 2. 実験・工作、演習中心で実生活の不思議解明
- 3. 自由研究で研究者・技術者体験:発表・論文
- 4. 特別教室や先端研究施設見学でキャリアアップ





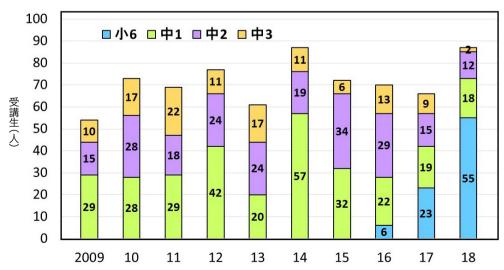




発表、最後は論文作成を指導するシステムとした。

2017年度からは高校受験で忙しくなる3年 生の募集をとりやめ(前年度参加し当年度も希 望するものに限定して開講)、そのかわり小学6 年生を対象に加え、低学年からの理数教育に力 点を移した。これらの経緯を図15に示す。年度 によって人数のばらつきが大きいが、特に6年生 の受講生増加が顕著である。





理数アカデミーは毎年4月に募集、5月に開校す るが、入校式には教育長や理科クラブ代表理事 の激励の挨拶とともに、全員の自己紹介、外部か ら招いた有識者による講話、さらにはオリジナル教 材に手をふれる体験教室を実施し、6月から各クラ スの授業や自由研究が本格化する。理科クラスで は暮らしの中の先端技術がどのような科学技術 の原理や法則で現在の製品に至ったかなどの理 解が進むよう、当初より「発展コラム式 中学理科 の教科書(滝川洋二編)」を受講生に配布し、これ を参考に独自の授業支援教材を開発し、基本的 な事項とともに発展的な内容をわかりやすく解説 している。また、数学クラスについては、学校や塾 の学習では得られない興味を引く手作り教材を工 夫するとともに、数学力の着実な向上を目指した 数学検定受検に向けた支援も取り入れている。通 常の理科・数学クラスの授業風景を図16に示す。

これらクラス別・学年別授業の他、後述の自由研究クラス受講生も含めた全クラス共通の「先端研究開発施設見学会」「特別授業」「発表会」なども開催している。

先端研究開発施設見学会は、理数系技術者が仕事現場でどんな活躍をしているのか実感し更に研究者やエンジニアへの興味と関心を喚起するために毎年8月に実施している。これまでの訪問先は、日立製作所日立研究所や日立ハイテクノロジーズ、高エネルギー加速器研究機構KEK、地質標本館、宇宙航空研究開発機構JAXA筑波宇宙センターなどで日立市近郊と筑波地区の見学会を隔年で実施している(図17、18)。

■ 図16 理科クラス・数学クラスの授業の様子



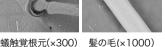


なお、この理数アカデミーは、2017年度からスタートしたJST「ジュニアドクター育成塾」に参画した東京大学高大接続研究開発センターCoREFユニットと提携して推進している。理科クラブの講師による授業に加えてCoREFが培ってきたジグソー法によるアクティブラーニングなど東大のシニアメンターのお力添えを得て、受講生の好奇心の高揚や自主的な学びの促進に活用させていただいている。

自由研究コースは、前述のように2012年度のJSTプログラムへの参加を機にスタートさせた。日立市の教育研究会理科教育研究部が「科学への興味を高め創造性を育成する」、「本県科学教育振興に資する」という観点から「茨城県児童生徒科学研究作品展」に力を入れている。そのため、夏休みの宿題としての自由研究に対する保護者の期待も高く、親子ともども熱心に取り組

■ 図17 日立ハイテクノロジー卓上電子顕微鏡で見る





星の砂(×2000)

■ 図18 高エネルギー加速器研究機構での記念写真



み、県北展、県展で優秀な成績をおさめる研究 が増えてきた。これら子ども達への公的な評価は 指導に当たっている理科クラブ会員にも大きなモ チベーションになっている。

これまで実施してきた自由研究テーマには、破壊現象を数学で解明、水ロケットの原理解析、光・音の刺激による植物の成長、3次元プリンターでの試作サイクロンを搭載したお掃除ロボット、高強度・耐震性のモデル建築物、再生可能エネルギーの活用、水の不思議な性質、無線・光通信を使った動力制御などがある。研究成果をポスターにまとめて口頭発表する指導も行い、図19のように毎年11月13日の県民の日(学校休日)に発表会を開催し、教育長にも参加いただいている。また、毎年11月末に行われる「青少年のための科学の祭典日立大会」に理数アカデミーとして出展し、その中で自由研究については一般の方々

■ 図19 自由研究の事例と発表会の様子







発表風景



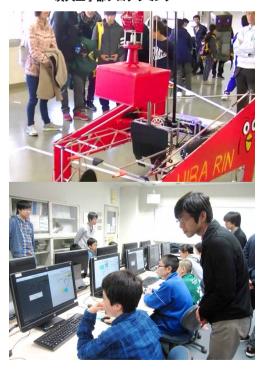
3Dプリンターとそれにより作ったサイクロン式お掃除ロボット

に向けてポスター発表し、またJST主催の全国 受講生発表会にも優秀者を参加させている。

なお、自由研究コースはジュニアドクター育成 塾の第二段階としても位置付け、前年度までの 学習や研究で特に優秀な生徒を対象により深く 高度な内容に向けた支援活動を行っている。

これら理数アカデミー行事の一環として外部講師による「特別授業」を年2回開催している。図20にその一例を示したが、茨城工業高等専門学校のロボコン大会出場ロボットの操縦体験、茨城大学によるプログラミング、日立製作所日立研究所による流れや熱伝達などのシミュレーション、日立アプライアンスによる家電品の科学、日立市天気相談所による気象予報など、実際に活用されている科学技術をわかりやすく指導していただいている。今後も受講生の科学技術への好奇心を沸き立たせるカリキュラムを取り入れてゆきたい。

■ 図20 特別授業例:茨城高専ロボットと 茨大工学部プログラミング



4. 科学ふしぎ発見教室

最も身近な物質である水と 空気によって不思議を体験 できるのが「水ロケット」である。

水ロケットは、ペットボトルに 半分ほど水を入れ、空気を送 り込んで圧力を上げ、密閉した 栓を抜くと中の圧力で水が噴 出し、その推力で飛ぶ仕組み である。先端のノーズ部や後 翼の形状、角度などを調節し、 飛ばす方向を最適化すると 100m以上、200m近くまで

飛ばすことも可能である。図21のように、毎月1回水ロケット教室を定期的に開催し会員の指導によって製作・発射実験をするが、その他、地域交流センターでの出前授業や小学校での「閉じ込めた空気と水」の単元でも実験を行っている。これらの活動は年間20~30回に達する。それらの成果を持ち寄り実力を競う場として、図22のように毎年10月、日立製作所会瀬グラウンドを借り切って「水ロケット大会」を開催し、保護者、学校の先生方、地元の市会議員の皆様にも応援いただいている。

これら定例行事のほか、市内の地区子ども会、さらには北茨城市、小美玉市、七戸町など日立

■ 図21「科学ふしぎ発見教室」の活動

(4)科学ふしぎ発見教室

【水ロケット教室】



- 1. 水ロケット教室(1回/月)
- 2. 「閉じ込めた水と空気」授業支援
- 3. 水ロケット大会(10月開催)
- 4. レーシングカー教室(新規)



市外の要請にも対応してきた。

その他、JAXAが主催しているアジア太平洋地域水ロケット大会(APRSAF*)にも応募している。これまで国内予選で特別奨励賞を受賞しているが、まだ国内代表として本大会には参加できていない。語学も重要な選考基準なので、水ロケット技術とともに、世界の子ども達とコミュニケーションを取る英語力の強化にも努めてゆきたい。

なお、水ロケットが適さない冬季には、体育館でのレーシングカー教室を開催することにしてコース設定や車の構造を検討し、定期的な開催を計画している。

■ 図22 毎年開催の水口ケット大会



※ Asia-Pacific Regional Space Agency Forum アジア太平洋地域宇宙機関会議

5. モノづくり工房

モノづくり工房は、**図23** に示すように、工作を通じて子ども達が「科学の面白さ」「モノをつくる楽しさ」を体験する教室である。

毎月第2、第4土曜日の午前と午後にわけて日立理科クラブで開催している。モーターや磁石を利用し電池で動くものなど試行錯誤を繰り返し、現在までに21品目の工作品を提供している。それら

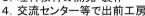
の中からいくつかを**図24**に、またモノづくり教室 の様子を**図25**に示す。日立理科クラブでの工 作体験教室のほか、交流センターや子ども会な

■ 図23 「モノづくり工房」の活動

(5)モノづくり工房

【理科おもちゃ工作】

- 1. モノづくり体験指導
- 2. モノづくりで理科実験
- 3. 理科教材の開発·製作







ど出前教室も開催し、これまでの参加者は累計 7,000人近くに達している。

■ 図24 モノづくり教室での工作品の事例



電動イルカ



ベル



飛行機タワー



3極モーター



磁石コマ



プロペラカー



リニアモーターカー



電磁力推進車



メリーゴーラウンド



電気自動車

■ 図25 モノづくり教室



風力発電



リニアモーターカー



メリーゴーラウンド

6. 地域科学教室

日立市内および近郊で開催される各種フェスタに出展し、一般市民や幼児たちに理科実験の楽しさ、面白さとともに原理を分かりやすく紹介している。例年参加している主な行事は、科学の祭典(日立市、ひたちなか市、北茨城市)、百年塾フェスタ、環境フェスタ(エコフェスひたち)、その他交流センターでの省エネルギー学習会などの啓蒙活動にも取り組んでいる。また、「日立市職業探検少年団」の中の「科学探検少年団」の連営を担って小学校4年~6年生

を対象に毎月1回、実験によって科

学を学ぶ活動を行っている。

図26、27に示すように、

■ 図26 「地域科学教室」の活動

(6)地域科学教室

【フェスタ・交流センター】

- 1. 交流センターへの出前工房
- 2. 各種フェスタへの参加
- 3. 子どもから大人も楽しめる実験機材の展示
- 4. 科学実験工作物の自作指導







■ 図27 地域フェスタにおける出展状況





青少年のための科学の祭典

エコフェスひたち

3

全体のまとめと今後の展開

また、市内小学校全25校での理科室のおじさん の派遣日数は1,758日に達した。

1.9年間の活動実績

6プロジェクトのそれぞれ について状況を概説してきた が、昨年2017年度の実績 を**表1**に示した。

5プロジェクト全体で 18,000人以上の子ども達 が参加し、特に学校での理科 授業支援活動は年間346回、 その授業支援を受けた生徒 数は15,500人と大変多い。

■ 表1 日立理科クラブ2017年度活動実績

プロジェクト	内 容	回数	参加人数(延)
モノづくり教室	出前教室/クラブ内	30回	431人
理数アカデミー	理科・数学クラス 自由研究	76回 145回	533人 165人
授業支援(出前)	小中学校	346回	15, 508人
科学ふしぎ発見教室 (水ロケット・レーシングカー)	出前教室/クラブ内	20回	359人
地域科学教室	出前教室	20回	1, 137人
合 計		637回	18, 133人
理科室のおじさん	各校•週2日	25校	累計派遣日数 1,758日

理科クラブ創設以来の状況を示したのが**図28**である。3年目には参加人員は18,000人以上に達し、以後18,000人前後を維持している。しかし年間の実施回数は初年度の230回から次第に増え、ここ2年間は600回を越えている。学校現場の理科クラブへの期待は高まり支援要請が着実に増加していることを示している。

■ 図28 理科クラブ活動の推移



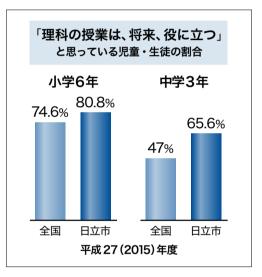
2. 学校現場からの期待と評価

日立理科クラブの活動は学校現場の先生や生徒から大きな支持をいただき、**図29**のような子ども達からの感想文にも「理科は将来役立つ」「理科が好きになった」「理科が楽しくなった」「実験がおもしろい」など、大変うれしい言葉をいただいている。

また、定年退職された校長先生からの挨拶状 には心打たれる感謝と激励の文面が綴られ感激 と活力をいただいた。

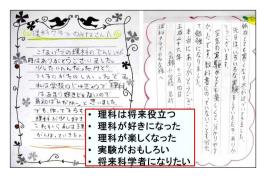
図30は平成27(2015)年度の「全国学力・ 学習状況調査」の「理科の授業は、将来役に立 つか」に対する回答である。日立市の小学6年生 は、全国平均より6ポイント、中学3年生は18 ポイントも高くなっている。日立理科クラブの活

■ 図30 全国学力・学習状況調査結果



動の寄与も大きい、との評価をいただいている。

■ 図29 子ども達からの感想文



3. 活動の拡大

日立理科クラブの実績が後押しして、他地域の日立企業城下町でも同様な活動が広がっている。ひたちなか、栃木、横浜、清水、笠戸などでも各地域の日立製作所とその関連企業のOBが中心になって理科クラブが発足し、相互の情報を共有しつつそれぞれの状況に応じた活動を展開している。

さらには広島の三菱重工との相互交流に発展 し、日立市と広島市で隔年で交互に夏休み期間 の理科教室を実施している(図31)。

また、日立理科クラブの活動が広く知られるようになって、「科学の甲子園」「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」の実技課題に対する参加校からの助言要請を受けるようにもなってきた。

これら日立理科クラブ活動が認められ、図32 に示すように、2015年に社会貢献支援財団から「表彰状」、さらに2017年に日立市長から「感謝状」をいただいた。このような公的な表彰は、授業中の子ども達の笑顔、驚きの表情、歓声や授業後の感想文とともに、高齢者のボランティア活動にとって大きな励みになっている。

4. 今後の展開

手さぐりでスタートした理科クラブ活動は 2019年5月に10周年を迎える。これを機会に 活動について見直しを進めている。

- ●日立理科クラブが培った教材を現場の先生 方が使っていただきやすいように、映像手段 などを活用した技術移転の積極的推進。
- ②会員に物理系、化学系の専門家が多かったので、偏りが見られたが、今後のIOT時代を 見据えたプログラミング、制御、AI、ロボット 等とともに、生物・地学系分野の強化。
- ③企業OB以外も含む幅広い人材の活用と地元大学や市民・地域と連携した日立理科クラブ活動の更なる充実。

これらを着実に実行し、未来の技術立国日本を担う子ども達の育成に向け、市民・保護者、日立市、協賛企業のご期待に応えられるよう理科教育支援活動を推進・発展させてゆきたい。

■ 図31 日立・三菱理科教室開催案内のポスター



■ 図32 社会貢献支援財団からの表彰状と 日立市長からの感謝状







公民科教育にできること

ーグローバル教育から主権者教育へ一





千葉県立白井高等学校 教諭

こじまえっこ小島江津子

1964年生まれ。1986年静岡大学人文学部社会学科卒業。1989年千葉県立船橋西高等学校勤務。 1991年千葉県立下総農業高等学校勤務。1998年千葉県立布佐高等学校勤務。2008年千葉県立佐 倉南高等学校勤務。2014年千葉県立佐倉高等学校勤務。2015年より千葉県立白井高等学校赴任。 現在に至る。連絡は、千葉県白井市池の上1-8-1の同校まで。

【社会科教育】



身ぶりを交えて生徒に話 しかける小島教諭(右)

「書くことだけに集中しないで「書くことだけに集中しないで、人がついて学習。学んだ思想を学者にしながら議論し、考えを深かれた「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。それぞれ、「良い政治とは?」。

小島教諭は「自分自身で考え、

社会科教育 最優秀賞

千葉県立白井高校 小島江津子教諭 54

小島教諭が「共同体の合意を作

と思う。授業はいい経験になる」自分の意見を発表する機会もある本咲苗さん(打)は「社会に出ればなどのテーマでも授業を行う。山治の他にも経済、社会保障、司法治の他にも経済、社会保障、司法

目『公共』を見通した実践内容であ をでつくる主体であることを自覚 してほしい」と語った。(河合敦) してほしい」と語った。(河合敦) を川彰英・筑波大学名誉教授「表 が出彰英・筑波大学名誉教授「表 が出彰英・筑波大学名誉教授「表 が出彰英・筑波大学名誉教授「表 るのが民主主義だけど、個人が思考停止になると全体主義になって考停止になると全体主義になってしまうかも」と解説すると、あるグループでは「(良い政治とは)主権者が関心を持ち、考える政治」との意見が出た。これに対し「どのように関心を持つのか」「時間がかかりそう」と、別の意見やはいいの意見を、別の意見やにいいる。

議論で考え深める

【最優秀賞選評】

り、多くの示唆を与えてくれる」

谷川彰英 筑波大学名誉教授

「表面的な言葉に踊らず、実直に考え 行動する生徒の声が伝わってくる。新 学習指導要領で新たに設定される科 目『公共』を見通した実践内容であ り、多くの示唆を与えてくれる」

はじめに

白井高校は千葉ニュータウン西側の白井市に ある全日制普通科高校である。創立36年目、1 学年6クラスで、比較的大人しく純朴な生徒が多 いが、学習意欲が高くなく、センター試験利用者 は稀である。生徒は社会科を暗記科目として対 応し、板書を書き写す作業は黙々とやるが、講 義形式の授業は苦手で、私語を注意されるか寝 てしまう生徒が一定数いる。また、人間関係を 構築するのが苦手な生徒も多く、保健室利用や 長期欠席も比較的多い。いわば、今日の日本の 高校での負の部分が見えやすく、解決に向けた 働きかけとその効果もわかりやすい職場といえる。

主題設定の理由

このような職場に平成27年より着任した。私 は、公民科教員でありながら地理担当として実 物教材や視聴覚教材を用いた授業を長く担当し た経験がある。それがきっかけで平成25年に JICA教師海外研修を通じてグローバル教育と アクティブラーニングの手法を実践する機会に 恵まれた。グローバル化する社会とその諸課題 を学習の対象とすることは地理に限らず公民科 教育においても必須であると同時に、グローバル 教育は日本とは異なる世界を知って、視野を広 げて考え、幸福・正義・公正の価値観形成に有 効な学習であると考えている。折しも平成27年 より公職選挙法改正による18歳選挙への学校 現場での対応が求められ、本校でも県内で一早 く模擬選挙を行い、毎年、学校行事として先生 方の協力を得ながら推進してきた。模擬選挙を 実践する中で、単なる演説を聴いて投開票を体

験する行事(これも重要な学習活動ではあるが) から、生徒が主体的に社会課題に関心をもち、 より良い社会を自ら作っていくためにはどうすれ ばよいかを考え、意見交換する政策論争の学習 活動として発展していった。そこに至るには、3年 間で生徒と授業担当が共に歩んだ蓄積を抜きに は辿り着かなかったと受け止めている。

新学習指導要領が告示され、「現代社会」に 代わる新科目「公共」に向けて、私達公民科の教 員は何ができるのかを主題としてこれまでの実践 とその成果を報告する。

3 実践報告

1. 平成27年度:模擬選挙とアイディアソン

着任してすぐ1年生道徳授業の指導主事訪問 があった。千葉県教委発行の副読本「明日への 扉」を活用して指導案も指定されたものが出てい たが、かねてより「考える道徳」の実践例を重ね ていたので、指定されていたテーマ「目標に向か って努力を重ねること」を基に既存の指導案を改 良した上で実践した。

- ① ペアで副読本の感想を述べ合い、感想文 を相互評価させ、目標に向かって努力す ることの素晴らしさを共有。
- ② 各自で高校に入学した自分が高校生活 で抱いている目標を書いて4人班で発表 しあった。
- ③ さらに目標に向かって努力をする際に障 害となることは何かを班でたくさん出し 合い、それを班代表者が黒板に書いて類

似項目ごとにまとめていく作業を行った。 そこで出されたものは「自分自身の意志 の持続」「親や家族の理解協力」「学校な どの環境整備」「自分自身の実力や能力」 の4つに分類された。

- ④ その上で、自分の目標達成にとって最も大 きい障害はどれかを1つ選んで教室の4 か所に移動し、なぜ自分はそこを選んだの かを発言する「部屋の四隅」をおこなった。
- ★ 部活動頑張ろうとしても、 顧問が未経験 者だから勝てる練習じゃない
- ★ 結局、将来の夢は親がお金を出してくれ なければ実現できない
- ★ お金の問題は確かにあるけれど、自分が 夢を実現しようと思って頑張り続ける気 持ちが続かないことの方が問題だと思う

このような意見交換がクラスを立ち上げて間 もない教室で活発に行われ、41人の生徒が自分 の将来に向けて努力をしていくことについて考 え、さらには実は厳しい家庭環境を背景に持って いるらしいこと、その中で自分はなにができるの か苦しんでいることなど担任として生徒の実態



把握にも役立つ一方で、生徒が相互に自分だけ ではない状況を共有しあい、自分の意見を表明 し、自分とは異なる相手の意見を聞いて話し合い を深化させる体験をすることができ、その後のク ラス経営にとってプラスに働いた。

10月には、18歳から有権者となる初の参議院 選挙を前に、弁護士を候補者役とした模擬選挙 の打ち合わせを行った。実際の政治課題をテー マにすることも検討されたが、政治的な中立性が 保てないという懸念から、架空の市の土地利用 方法 (ショッピングセンターの誘致で経済活性 化・多目的体育館でスポーツや文化活動の活性 化・高齢者福祉施設や保育園などの総合福祉 施設でポジティブウェルフェアの街づくり)をめぐ る市長選挙となった。1年生現代社会授業では 事前学習を兼ねて「民主政治」「国民主権」とい った生徒には少々わかりにくい概念を理解させ る授業をおこなった。国民主権の国にあっても、 生徒の政治的関心が薄く、政治は政府に任せて いる感覚が定着しているために、「国民に主権が ある」という概念を理解するのが難しい状況にあ る。しかし、主権の行使が、政治家に任せるこ とでもなく、私一人の意見が全部通ることでもな いという理解は、利害対立と調整としての話し合 いや合意形成を目指す公民的資質育成の最初 の鍵であると考えている。授業では、教室のエア コンスイッチを入れる決定権を誰がもつかを題 材として、「暑いと思った人が勝手に入れる(無 政府状態)」・「先生が決める(独裁政権)」・「代 表者の判断に任せる(代議制)」・「その都度みん なで話し合って決める(直接民主制)」の4方法 でそれぞれどんな問題点があるかを検討した。

★ 誰かが勝手に入れたら不満な人と争い が起きる

- ★ 先生が決めてくれた方が考えなくて楽だ けど、私たちの話も聞かずに決められち ゃうのは嫌だ
- ★ 代表者は自分の仲良しの言うことしか聞 かないとか文句ばかり言われて決めら れなくなる
- ★ 話し合いばかりで面倒臭いし効率が悪い

などの現実の政治世界でもあり得る衝突を生 徒が認識し、これをどうやって妥協するかが政治 の働きであることを理解する。その後でエアコン の解決策を例示しながらホッブズ・ロック・ルソ ーの社会契約説思想の解説をしていくことで、今 日の民主政治の在り方が歴史の営みの成果、人 類が生み出した知恵であることにまで理解を深め ることができた。模擬選挙準備から当日まで、白 井市選挙管理委員会の強力なサポートの中で実 際の選挙に近い模擬選挙が運営された。実際の 投票は3年生のみとし、候補者役の弁護士への 質疑応答の場面では、1年生も参加した。選管職 員及び弁護士から資料が提示され、「若者の低 投票率」が大きな課題であることが解説された。

この時の模擬選挙の実施要項が県内の高校 で広まる中で、Yahoo!Japanから声がかかり、 全国の高校で行われていた「アイディアソン」に2





月に参加することとなった。高校生が感じる身近 な政治課題を問題提起し、問題点を見やすいグ ラフや表のような形で表現し意見表明するという 学習活動。まず、高校生の目線からの身近な政 治課題を班で検討し、取り組むテーマを決定。 「北総線の運賃が高い」「歩きスマホは危険」とい ったテーマを一目で訴えかける手書きの簡易グ ラフに表現するために、各班に社員がついてデー タの検索とグラフ作成に手厚いサポートが施さ れて運営された。完成した作品の中で、「北総線 の運賃が高い」というテーマが採用され、プログ









める授業を実施した。9.11テロから15年目の新

聞記事やJICA資料を生徒が説明しあう協働学

習を行い、出前授業準備として担当する国の地

理的な予備知識を調べて資料作成し、当日資料

を見せながら解説する活動、JICA 出前授業によ

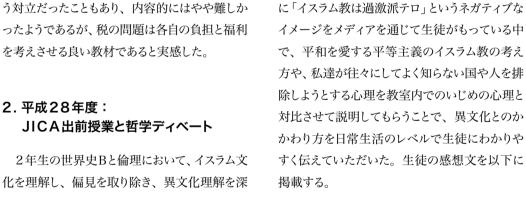
る外国人研修生 (ボツワナ・アフガニスタン・ウ

ガンダ)、イラク派遣員との交流を実施した。特

ラマーによって一目でわかるアニメーションが制 作(データビジュアライズ)され、「Yahoo!みん なの政治」にて公開された。

翌年の主権者教育は、成田税務署・税理士 による租税教室に模擬選挙を併合する主権者 教育が行われた。増税に賛成か反対かというわ かりやすい対立ではなく、直接税か間接税かとい う対立だったこともあり、内容的にはやや難しか ったようであるが、税の問題は各自の負担と福利 を考えさせる良い教材であると実感した。

2. 平成28年度:





- ★ 私達にとって教科書の内容だけでなく、 実際のイスラム教の人から国の雰囲気 や生活状況について聞けたのはとても 貴重であり、世界情勢を想像しやすく、 知らなかったことをたくさん教えてもら えた感じがしました。
- ★ イスラム教についてはニュースで偏見を









もっていたけど、それは本当に極一部だ と知った。罪のないイスラム教徒が大勢 いるのに、すべてのイスラム教徒が悪い とするのは、悲しいと思いました。

★ 英会話は全然できないけれど、知ってい る単語がちょくちょく出てきて解釈する となんとなく言いたいことがわかる気が しました。英語苦手だけど、もうちょっと 身につけたいです。

偏見を取り除き、世界にある多様な文化や価 値観を尊重できる公民的な資質形成に効果が あった。さらに「個人の幸福と社会全体の幸福」 (=私だけが幸せであればいいか?)を考える授 業にもつながった。これは、新科目「公共」にお いてグローバル教育が倫理分野のアマルティア・ センや功利主義、ロールズの学習で深化すると いう提案である。また、この学習成果を拓殖大 学のSDGsフォーラムにて本校生徒6人が発表 した。世界史Bではアメリカ史の単元で、白人に よる西部開拓が先住民迫害であったという問題 提起をした。さらにオイルシェール開発のために 先住民の居住地が侵害されていることへのトラ ンプ政権の対応に関する新聞記事を読んで意 見を論述する出題を考査でおこなった。これも異 文化理解と共生が下地となり、歴史を今日的課 題につなげて考察する展開となった。

また、3学期に10死刑制度、2安楽死、3代 理出産、4いじめの厳罰化をテーマに生命倫理 や生き方を考えるディベートをおこなった。「いじ めを重大犯罪として厳罰化すべき」「加害者の行 動の背景を理解しないまま罰するのでは、いじめ を潜在化させるだけである」といった意見を戦わ せることになり、正義や公正などの価値観の育成 と論理的根拠を元に意見を述べたり相手の意見 を聞いて問題解決を探る学習活動となった。

3. 平成29年度:

3年生政治経済の最初の授業で、年間1人1回、授業の最初に10分程度でプレゼンテーション課題があること、具体的な方法と評価についてガイダンスを行った。プレゼンテーションのテーマは時事問題に限らないが、必ず事実内容と自分の考えを盛り込むこと、発表後に前回発表者と教員からの質問に答えること、質問内容も応答内容もそれぞれ評価対象とすること、聴衆は視聴記録を毎回提出すること、発表の評価得点は教員と聴衆の平均点の2つであること、以上のような細々した実施上のルールを示して、11月くらいまでに全員が1回発表した。生徒によって準備の入念さに差があるが、生徒一人一人の説明力や質問力、資料活用力、情報収集力などを錬磨する活動として有効である。

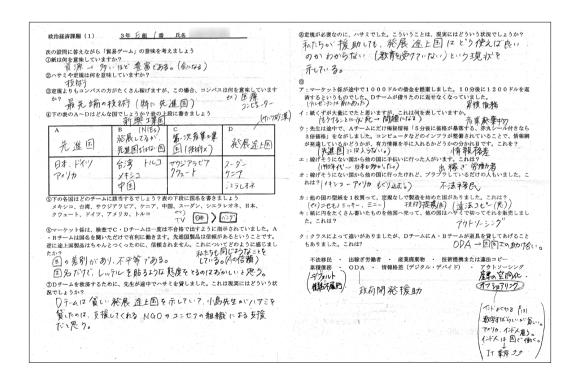




催する「世界一大きな授業」という企画に参加する中で、一連のグローバル教育を実践した。

● グローバル教育

5月に途上国支援活動をしているNGOが主



1 1 地図を用いた南北問題と南南問題の 基本知識

● 2 「貿易ゲーム」

貿易ゲームは、開発教育協会(DEAR)発 行テキストに掲載されている授業プログラム で、先進工業国、新興工業国、資源提供 国、最貧国の4種の設定で製品を輸出して外 貨を稼ぐゲームを通して、国際経済の現状や 課題の認識を促す。振り返りの時間に前ペー ジプリントを完成させる作業で、体験したゲ 一ムの出来事や設定が現実の世界の何と対 応するか、どうあるべきかの気づきを促す。

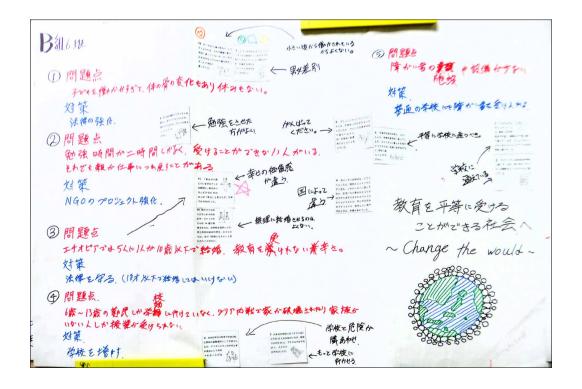
1 − 3 「世界一大きな授業」

1) 現状認識

4~5人班でJICAやUNHCR提供の映 像資料を視聴しながらまとめる作業。VTRは 2分~10分の計5本。1本を見ながら各自メ



モをとり、裏返して模造紙の表面左1/3に見 た内容を問題点(赤ペン)と対策(青ペン)の2 点から簡潔な言葉でまとめていく。この作業を VTR5本で反復する。VTRは、途上国の教 育問題についてNGOが取り組んでいる内容 で、1 インドでの児童労働 2 移動バス教 室によるスラム街での教育活動 3 エチオピ アの児童婚 4 シリア内戦からの難民への 教育、メンタルサポート支援 5 シェラレオ ネの障がい者教育支援という構成。



2) 価値観の形成

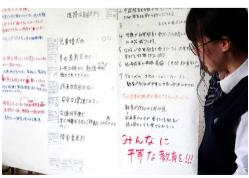
NGO団体作成の「ちがいのちがい」の指 導案に基づいた授業。 世界各国の教育の現 状を知り、国柄や文化の多様性として受容 すべきことか、改善すべき権利侵害なのかを 互いに意見交換する中で生徒に多様な世界 の教育の実情を知らせると共に、国の経済 力や文化を超えて誰にとってもより望ましい 状態を目指すための価値観を形成させる。

3) 政策提言の準備

模造紙右1/3にVTRの情報を記録する。 速い英語ナレーションと字幕なので、班員が 協力しあうことで7本の趣旨とデータを記 録。ここまでの作業のまとめとして、世界中 の全ての人がこれからもずっと幸福でいら れるようにする (持続可能な) ためには、な にをすべきかを班で検討する。

さらに、マララの国連スピーチ視聴で、短 い言葉で訴えかける表現のモデルを示した







後、政策提言のためのスローガンを班で考 えて模造紙に書き、その言葉を選んだ理由 を発表形式で解説する。

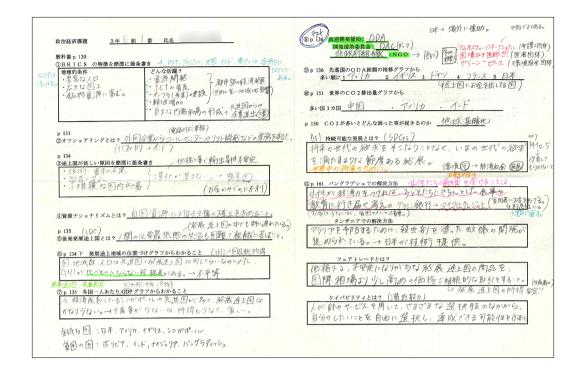
一連の授業を通じて、SDGsの持続可能 な開発という考え方つまり、全ての人に質の 高い教育を実現することが、貧困や飢餓の 撲滅、質の高い医療や安全な出産の促進、 児童婚の撲滅、安定した経済成長といった 連鎖する課題解決に有効であることの理 解、世界の問題に対して、自分事として改 善していくための提案を主体的に考え、自分 の言葉で主張していくグローバル・シティズ ンシップを目標としている。

4) 政策提言

模造紙を元に、首相・外務大臣に送る手 紙を班で1枚完成させる。上写真は、国会議 員会館にて開催された都内の高校生が先生 役、国会議員が生徒役でSDGs4「質の高い 教育」実現を求める模擬授業の様子である。

5)知識概念の定着

貿易ゲームからSDGs、政策提言までの 体験内容を経て、教科書の「国際経済の課 題」を読解し、プリントに文章で回答する作 業学習を通して、体験的学習の成果を教科 書に記述されている理念や知識として獲得 することを目標としている。期末考査でこの 部分についての正解率は約7割であった。



4. 平成29年度:

2 知識を深化させるための学び合い授業

1学期前半の経済分野の授業展開において、 経済の基本的な知識学習の上に、今日的な課題 として、非正規雇用や女性の労働問題、ワーク ライフバランス、少子高齢化、財政赤字、税と 社会保障などが複雑に絡む課題の連関性を生 徒が認識すること、そこから解決策を模索して学 習を積み上げることを目標とした。

1学期前半に労働問題をテーマに生徒相互の 学び合いを核に実施。使用した資料はP12左 の資料のとおり。

手順を以下に記す。

- ① 基本となる班構成4~5人×8班編成。
- ② 班員4人で担当する課題A~Dを決める。
- 3 課題資料配布し、課題A~Dで班を再編

成し着席。課題Aの中の小設問(A1~A4)の担当を決める。

- 4 それぞれ担当するA1~D4の16課題を 2~3人で回答する。教科書を読解する ことで課題解決ができるが、読んでもよく わからない時には先生に質問する。後で 元の班で自分が解説できるように模造紙 に簡潔にまとめ、口頭で解説するための 詳しい原稿下書きを書く。
- ⑤ 模造紙に記入及び課題A班内でA1~ A4を説明しあって、担当外も自分が説明できるようにする。
- ⑥ 基本の班に戻り、課題 A 1 ~ D 4 を解説 し合う。
- 登壇し、課題Aのメンバーで模造紙を示しながらA1~A4の解説をおこなう。聞く側は、解説を聞きながらノートをとる。

課題A:「貧困格差」

教科書p101・ジニ係数とは? ジニ係数の推移 グラフからわかること

- 相対的貧困率とは?日本の状況は?
- 所得格差拡大の原因は?
- 格差問題への多様な考え方を簡条書きする

課題B:「労働環境」

教科書p113・労働者の権利が守られていない 事例

教科書p110~111・今日の日本の労働環境・労働組合率の推移、おもな国の賃金格差、おもな国の年間平均労働時間のグラフからわかること教科書p146・年齢別完全失業率の推移からわかること

課題C:「国際比較」

教科書p146~147、114~115・スウェーデン、デンマーク、オランダ、日本の労働環境の比較 教科書p115・女性の年齢別労働力率の国際比 較グラフからわかること

教科書p147・おもな国の積極的労働市場政策 支出グラフからわかること

ワークライフバランスとは?

課題D:「中小企業」

教科書p102、142・中小企業の特徴と弱点 教科書p102、142・中小企業の存在意義 教科書p102・企業別規模別の格差グラフから わかること

教科書p142・製造業の円高対策グラフからわかること

ここまでで自分が理解した内容の連関性をレポートに書かせて、単元の理解定着を図った。その後、厚生労働省発行の「働くのトビラ」から労働基準法に違反している事例の何が問題なのかを見つけ、どのような対策が必要かを考察する課題を実施。さらに各学校に配布された厚生労働省の労働基準法啓発の小冊子を用いて、基本的な労働基準法や男女雇用機会均等法など

の違反事例とその対応方法を知る授業を行った。

1学期後半。消費税増税賛否を問う授業の知識獲得のために前半と同様の方法に改良点(模造紙でなく、A4厚紙で表に簡潔なレジュメ、裏に自分の原稿を書く)を加えながら下表の4課題について同様の調べ・発表学習をした。

課題A「税金」教科書p92~93

- ① 所得の再分配機能、累進課税制度とは?
- ② 累進課税制度と景気の自動安定化装置のしくみ
- ③ 有効需要 (教科書 p 73) とフィスカル・ポリ シー
- ④ 直接税と間接税の特徴比較、垂直的公平と 水平的公平

課題B「財政問題」教科書p94~95

- ① 税制改革の動向と国債の発行
- ② プライマリーバランスとは?教科書p92の 歳入歳出グラフ比較
- ③ p95 国債累積問題から、現状・どんな問題があるのか
- ④ p94 おもな先進国の政府債務の対GDP 比率の推移グラフ、日本国債の保有者の割 合グラフからわかること

課題C「少子高齢化」教科書p148~149

- ① 合計特殊出生率とは?おもな国の合計特殊出生率の推移グラフからわかること
- ② 高齢化社会と高齢社会の定義。おもな国の高齢化率の推移グラフからわかること
- ③ 少子高齢化による影響
- ④ 社会保障給付(社会支出)の国際比較と国 民負担率の国際比較グラフからわかること

課題**D「社会保障」**教科書p118~119

- ① 日本の社会保障制度の問題点を箇条書き
- ② 年金の賦課方式とは?どんな特徴があるか?税方式にかえるとどうなるか?
- ③ p118社会保障給付費の推移グラフ、p 121生活保護世帯数の推移グラフからわか ステと
- ④ p117日本の社会保障制度4項目とその解説





5. 平成29年度:

③ JICA研修「難民問題」

1) いのちの持ち物検査

JICA国際理解教育指導者研修の中で難民問題をテーマにした授業実践を課題に選んだ。 9月最初の授業でワークショップ「いのちの持ち物検査」を実施。

2) 映像資料視聴

JICAとUNHCR提供の映像資料計5本視聴と記録。5本の映像資料は以下の通り。

1 シリア市街戦。 2 シリア市街戦での市民生活への影響。 3 国を逃れる人々。 4 逃れた後の生活。 5 各国の難民受け入れ状況。

「難民が私たちの街に来たら、受け入れるか」 の投票は受け入れ賛成が82人、反対99人。

3)シミュレーション学習「もし難民になったら?」4~5人班を編成。それぞれ家族を構成する



ロールプレイの形で開発教育研究会の指導案をベースに「もし難民になったら?」のシミュレーション学習を3時間で実施。

- ① 日本が戦争状態に入り、東京が爆撃を受けて白井市にも荷物を抱えた避難民が流入してきた。それと共に不法侵入や窃盗なども増える中で難民を受け入れるかの緊急市民集会が明日開催されることとなったので、家族会議を開いて難民を受け入れるか話し合い、家族としての結論を出す。
- ②戦争が拡大し、八街市へ避難命令が出る。持ち物リスト40個から持って行く物30個を家族で選び、誰がどれを持って歩くか決める。5kgの米袋にバスタオルを巻いて重さを確認し、乳児を抱いて歩く人も決める。八街難民キャンプ到着時の家族の残存体力計算をする。
- ③ 八街難民キャンプが収容不可となり、東 庄難民キャンプへさらに歩くことになる。 荷物を10個に減らす話し合い。
- 4 乳児と祖母の残存体力が厳しくなる中で、 強盗被害・自分だけ内緒で3日分の食料 を入手したが、みんなで分けて食べるか・ 乳児を他人に預けるか・祖母を置き去り にするかなどの課題が次々と発生し、自分

1気に入った服		11	卒業証書		21 ペット		31	トラベラーズチェッ	2
2 ファンタオレンジ		12	防寒着	5	22 71V/14 - 9	t	32	* -7	5
3 缶詰 5	U	13	懐中電灯	-	23 飲料水 //2	5	-	粉ミルク	13.
4 預金通帳と印鑑	0	14	携帯電話	(7)	24 現金	Ð	34	愛読書 🔀	17
5 英検の証書	Ð	15	ナイフ	U.	25 携帯ラジオ	#	35	お菓子	0
6 下着	5	16	筆記用具	17" B	26 薬 -2	0	36	CD	
7 乾パン 5	V	17	トイレットペーパー	# 9	27 パスポート	0	37	毛布·寝袋	7 5
8 宝石	1	18	紙おむつ	12"	28 化粧品		38	家の権利書	10
9 タオル	5	19	車の免許証	Ð	29 調理用具	#	39	iPod	
0 趣味のフィギア		20	小型テレビ		30 ノートパソコン		40		
配布資料4【体力】	計算】		2	3	4	.(5)		6	7
配布資料4【体力】		本力	2	③ 八街到着時体		.(5)		6	7
配布資料4【体力]	1	-	2 -46			· 5		6	0
	出発時化	-		八街到着時位	k.t.			©	٥
37歳父	① 出発時(-	-46	八街到着時位	· - 16	38		6	7
37歳父	100 80	-	-46 - 33	八街到着時位 54 47	· - 16	38		6	0
37歳父 35歳母 - / *	① 出発時化 100 80 70	-	-46 -33 -5/	八街到着時位 5年 47 3~	- 16 - 6 - 16	38		(§	0

が生き残るためのエゴを貫くか相互に助 け合うかの倫理的な判断を迫られる。難 民の悲惨さを実感させるためのシミュレ ーションだが、生徒はここまでは何か楽し げなゲーム感覚である。

5 この後で、敗戦時の満州から引き揚げた 母子の体験談「流れる星は生きている」 (藤原てい著)の抜粋を配布し朗読する と、教室の空気が一変する。想像を絶す るような悲惨な体験に、初めて難民となる ことの悲惨を垣間見る。レポートに難民に なるとなにがつらいのかをできるだけたく さん具体的に箇条書きさせると、各自10 項目以上は書き連ねてくる。ここでの受け 入れについての簡易投票では替成が141 人、反対が37人。賛成の理由の大半は 他人の痛みへの共感的理解からである。

- ★ 自分が難民だったら、助けてほしいって 絶対に思う。
- 一方で少数派となった反対の理由は
- ★ これだけの状況の人達が街にやってき たら、大変なことになるから簡単な善意 だけでは済まないと思う。
- ★ 受け入れてあげたいけど、人数枠や条件 を設けないと混乱すると思う。



という現実の政治における法や制度的な解決を必要とすることだという冷静な判断から出た意見であった。この反対理由はむしろ生徒が難民問題解決に向き合っていること、多様な視点をもって妥協点をどこにするか、法によって社会的な課題を解決していくことの価値を理解している姿勢として評価できる。

4) 知識獲得のための調べ学習

シミュレーションによって難民問題をある程度 理解した後にJICA提供の資料を用いて難民問 題についての基本的な知識を獲得する学習に入 る。班で分担して(1)難民の定義(2)難民の現 状データ(難民数・分布地域・発生原因)(3) 難民支援策の構成でA4用紙の表に一目でわか る簡潔な表現で裏に解説用の文章の紙芝居型 資料を作成する。できあがった作品発表の相互 評価を行う。

さらに、難民についてのより深い知識のために 新聞と教科書とJICA刊行物Mundiを用いて 調べ学習を行う。班で課題A~Eの担当者を決 めて課題ごとに着席して課題解決をし、元の班 に戻って自分の担当した課題を解説する。課題 A~Eは以下の通り。

課題A:

JICAによるシリアでの難民への教育分野の支援 (Mundi June.2017)

課題B:

先進国での難民受け入れ課題 (読売新聞 2017.8.24)

課題C

国連安保理(教科書)・安保理による日本のPKO 評価

(読売新聞 2017.8.25)

課題D:

ロヒンギャ難民の状況

(朝日新聞 2017.9.20)

課題E:

ロヒンギャ難民に対するアウン・サン・スー・チー の対応

(日経 2017.9.16)

5) 出前授業

UNHCRからJICA出向中の職員の高嶋由美子さんに出前授業をしてもらった。生徒代表班による難民について自分たちが理解している内容を発表した後に、高嶋さんからの「難民を知ることは人間を知ることである」という講演を聞いた。その後で生徒からの質問に答えてもらう時間をとった。

- ★ 生き別れてしまった家族は再び会えるのですか?
- ★ この仕事をしていて最も衝撃的だったことは何ですか?
- ★ 難民のために高校生の私たちが出来る ことはなんでしょうか?
- ★ レズビアンが迫害されると初めて知り、 人には違う考えがあるからいいではない かと私は思います。高嶋さんはレズビア ンについてどう思いましたか?
- ★ 難民として受け入れられなかった人はどうするのですか?
- ★ 何がきっかけで難民支援をしようと思っ たのですか?
- ★ 難民はどうなったらなくなるのでしょうか?

3年生の進路選択の時期と重なって自分のキャリアプランの参考にする生徒や、1年生の頃に



LGBTについて授業で解説した時には嘲笑する 反応をする者がいた状況から大きな成長を垣間 見ることになった。

6) まとめの問い

課題A~Eを調べて相互に解説するところま でを4)でやってある中で、「50年後に難民の発 生しない、戦争のない世界は実現されているか」 という最終課題に、9割の生徒は「そうあってほし いけれど、戦争はなくならないと思う」、1割の生 徒が「なくなると信じて努力することで戦争を回 避できると思う」と回答した。

6. 衆議院選挙に向けた主権者教育と 模擬選挙

9月中旬のニュースで衆議院が解散・総選挙と なること、争点は憲法9条改正、消費税増税など





であること、政界が大きく再編されることとなり、奇 しくも戦争をテーマにした9条と自衛隊問題につい ての知識概説で難民問題を閉じる形となった。

投票日は10月22日になったが、本校での模 擬選挙は年間計画の中で26日と決まっていた。 選挙期間中の模擬選挙では公職選挙法の「人 気投票」に該当するため、模擬選挙の開票を留 保する必要があるが、今回の日程はその問題は 避けることができた。授業内容が公職選挙法違 反にならないように特定の政党や候補者を応援 する・または否定するような内容には十分配慮し た上で、模擬選挙実施に向けた準備を5時間か けて展開した。

- 新聞資料を配布し、衆議院解散・総選 挙・公示日と投票日、3年生の場合は選 挙権のある牛徒とない牛徒がいること・ 主な争点 (憲法改正・北朝鮮問題・消費 税増税など)の概要理解。
- 2 新聞資料を用いた各政党(この段階では 自民党vs希望の党vs民進党の三極)の 特徴理解。
- 3 選挙制度(小選挙区比例代表並立制に している意義など)の理解。
- 4 新聞資料を用いた政界再編(自民党 vs 希望の党 vs 立憲民主党の三極) の背景 理解。党首討論の映像資料視聴と記録。
- 5 新聞資料から各政党の公約の比較と自 分が注目する争点の抽出、毎日新聞によ る25項目の質問に答えて支持政党傾向 を判定するサイト「えらぼーと2017」の 活用。最後に自分が今回の選挙で最も注 目している争点を2つ選び、どうあるべき かを論述するレポートを課す。





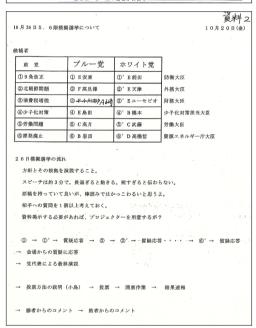
	を比較しよう! 見ながらメモをとって、主引			
	兄なからメモをとって、王り えとして共感できるところ!			
	えとして来感くさるところ。 で自分が注目する部分に赤。			
	主張から、あなたのコメン			
政党名	VTR 2			コメント
90\$19	いっての国を守り抜く		英明(てきた 'ない' 級知付款(北朝鮮 へのをかは 少要。 変法改正・少要
William addition	北朝鮮 少子化 輝		たへのEA 解決 APE	个 游帆 游杭 刘寿
希望の党	国民ファーストの政治で	, , , ,	かいかり 芸一般を嫌	增統承結X
150	日本に希望を	インタンマート いっかり取り組入っ	型 经邮递法 人 个代	
立憲民主党人だの	経流コリマ 脱原発	うな状治		
日本維新 の党 松午	機、の公的 地方分権 身を103 改革で、 文奏 教育無償化	教育和價化 明記 趣法改□		
公明党	教育負担 の軽減 ム児教育 粉が放っ枚単門の 無償性,絵句経典学覧の施売		開催 使 の分す 5キ¥1 こし に31/2	
共産党	安部最走政治八路場	自衛隊建憲 天皇制	長島 解散り 112分	
走伍	安部政権打倒			
社民党	宪法主治57政治 宪法改正 X	沖縄について		
日本のこころ	自主憲法の 卸居 と 消貨板 マイレー リリ東の 見 独災省南立 の 徹原支援	fa.	同値党分裂へつ 動州 いて	

レポート採点して模擬選挙で候補者役を依頼 する生徒のリストを作成し、考査中の休み時間5 分程度で右下プリントをもとに依頼内容の説明 をして急造した2政党の顔合わせを済ませた。候 補者役生徒は、架空政党の6人×2政党=12 人の大臣候補という設定である。 ■ 9条改正 (賛成か反対か)、2 北朝鮮への対応(対話か 圧力か)、3 消費税増税(賛成か反対か)、4 少子化対策(幼児教育無償化か高等教育無償 化か)、 5 労働問題(正規雇用と非正規雇用の 格差是正か年功序列型賃金撤廃か)、6 原発 (廃止か存続か)6つの争点にそれぞれ1対1の 対立軸を設けて架空の二大政党制を設定し た。6テーマでそれぞれ立論と質疑応答を反復 するミニディベート形式である。

候補者役生徒には、演説原稿と相手方への質 間および想定される反論への回答を準備するよ う指示した。候補者役を学年全クラスから選抜し たので、自分のクラスの生徒を支援する形で、 授業では想定問答の準備を進めた。会場からの 質問や質疑応答の応酬もあり、今日的な政治課 題を生徒自身が語り合い、意見交換する場が成 立した。「憲法改正賛成・北朝鮮に圧力を」の比 較的保守系の青党と「改正反対・対話を」の比 較的リベラルな自党がほぼ拮抗する90対96票 という開票結果であった。政治的無関心な生徒 達だが、こういった政策論争に非常に興味をもっ て考え判断していた。

事後アンケートの結果から抜粋する。選挙が あったときに必ず行こうと思う・できれば行こうと 思うの回答が84.8%。模擬選挙をはじめとした 主権者教育を必要だと思う・どちらかというと必 要だと思うの回答が88.6%。自由記述でも肯定 的な回答が多かった。実施後の生徒からの感想 を抜粋する。





★ このような授業で、今の私にどれだけ身 近なものなのかを知ることができた。す ごく難しいものだと思っていたので、同 じ生徒がやることによって、すごく身近な ものだと感じることができ、選挙に参加 する大切さを知ることができた。

- ★ 自分は発表者でした。 憲法9条という非 常に難しく、今一番HOTな話題なので 説明するのも大変でしたが、今考えてい る思いを伝えられたのでとても良かっ た。良い経験にもなったし、9条につい て知れたし、これからも関心をもってい きたい。
- ★最初は自分にはできない、絶対笑われる だけだと思っていました。しかし、自分 のテーマである増税反対を調べていくに つれ、自信をもつことができました。自 分の意見を持つことはとても大事だと思 いました。
- ★「選挙に行っても何も変わらないし意味 がない」と言うけれど、一人のやる気の 一票だけでは何も変わらない。そのやる 気を自分の周りに共有して皆で考えるこ とが必要。
- ★ ニュースや新聞を見るようにして政治に 関心を持つことが大切。次は私達が日本 の未来を背負う者という自覚が必要だと 思う。

今回実施した生徒が候補者役となる模擬選 挙の利点を4点列記する。

- 生徒自身の言葉で話し、聞くことによっ て、自分事として考えやすい。
- 2 難しい社会課題が考えやすい二項対立 になっている。
- **3**6テーマで多角的に政策を検討でき、政







党選びに迷う体験もできる。

◆政治的中立性を守って現実の政治課題 論争に力点を置ける。選挙のない年でも 実践可能。

これまでの活動を通して生徒が獲得した力は 次のようなものと考えている。

• プレゼンカ

(前に出る・理解した内容を説明する・考えを主張する・聞かせる工夫をする)

傾聴力

(話の要点をつかむ)

• 質問力

(得た情報から疑問点を言葉にする)

調査力

(必要な情報を手に入れること・信憑性判断)

• 資料活用力

(図表読み取り・図表作成・新聞や教科 書などの文章を読み解いて資料作成)

• 知識

(語句とその意味と原因結果や対立・並列 など個々の事項の関連性)

• 思考力

(知識をより深くつなげようとする)

判断力

(倫理的善悪や正義感・経済的効率や公正さ)

• 社会参画の意識

(多様な視点・自他の権利尊重と調整・協 働する・社会課題への解決意欲)



これらの力があることで、中堅校以上でなくとも討論型の模擬選挙の実施は可能であるし、このような力をつける授業方法開発が今後の公民科教育の課題であると認識している。

7. 新聞作成と投書

模擬選挙終了後に、新聞から新聞を作成する 活動を7時間かけて実施した。

● 新聞の構成と主要全国紙の紹介

②~④ 4~5人班編成。政治・経済・国際・社会・総括的な社説担当の編集長の役割分担決め。同じ日付の朝日・読売・日経の3紙を配布し、編集会議を開く。

Step1 政治・経済・国際・社会それぞれで使う記事の選定。

Step2 選んだ記事から共通するテーマを 決める。

Step3 新聞のタイトルや社説内容の方向性を決める。

共通テーマを決めるためには、班で話し合いをしてテーマに沿った記事選びが必要。自分の担当記事だけ勝手に書き写して終わりにはできない。また、編集長は班員

から各記事の解説を受けて社説の原稿とし て複数の事実とそこから主張する内容を聞 いて文章にまとめる必要がある。

5~7 模造紙のレイアウト決めと記事の 下書きと清書。評価のポイントは事前に知ら せる。

個人の担当記事を記名入りで仕上げ、個人の 得点になる。さらに紙面構成やタイトルから編集 会議で共通テーマをよく練り、社説の形に仕上 げるのは班員共通得点とする。完成後に全作品 を廊下に掲示し、作品についての授業担当者か らのコメントも添付した。同時に自由テーマで新 聞の投書を書いて提出させた。生徒自身の言葉 で、日常的な気づきから社会の一員として自分が 変えていきたいと思うことを書いてきた作品が多 く、千葉日報に趣旨を説明して送ったところ、P22 の記事が掲載されることになった。









結び

衆議院解散報道から模擬選挙まで約1か月の 準備であったが、3年間のグローバル教育や道徳 教育や調べ学習を含む蓄積があってこそ、座学 では忘れてしまう学習内容が生徒に定着してい たこと、知っていることを活用できるようになって いたことが大きな要因だったと受け止めている。 模擬選挙を通じて「双方一理ある主張」を体験的 に実感し、視野を広げ、主権者としての自覚をも って社会課題と向き合う態度を育成できた。続く 新聞学習も、内外の多様な課題とそれを解決して いく国民の一人として自分の考えを広く発信して いく意義がある。「公共的空間に生きる私たち」の 育成のための一連の物語のような3年間となっ た。平成30年5月には新3年生を対象に租税教 育・模擬選挙を実施することになった。出会って 2ヶ月の生徒達への準備だったが、税務署のバッ クアップの中で税理士に生徒をサポートしていた だき、少子高齢化の日本の税と財政と社会保障 について考え、意見交換する活動まで深化できた のは、税務署作成のよく練られた資料があったこ とと、生徒に資料を読んで検討させて意見を表明 させる授業手順の蓄積に依るところが大きい。

高度経済成長期のような「言われたことを黙々 とやる労働者」が要求された時代ではなくなって 久しい。IT化が進む中で人間がやる仕事は、 正解のない課題に協働して打開策を見つけてい くことに今後ますます限られていく。そのような社 会を支える人材育成として今回の授業実践は有 効であり、卒業生が3年間で得たものは生涯に わたって活用できるものであったと自負している。 本実践を学習指導要領にある「公共」の構成順 序に並べ直していくと、新科目「公共」が良きスタ ートを切る参考になると考える。



匝瑳市 畔蒜 恵(介護職員 22歳)

します。

「学園ひろば」として紹介

毎月第2、第4金曜日に掲載

袁

女性の労働環境が問題とな 昔から現在に至るまで、 女性の労働環境 **\rightarrow** 会で考えて **\rightarrow**

らず、そのまま「ポイ捨て」 た。毎年、ゴミを持って帰翌日の渋谷が映されてい きれいな町保とう テレビでハロウィーンの 3 年

をしてこなかったのか。今と伝えていた。

ゴミは持ち帰って 渡辺 真由 入れられないようにする は、テロなどで爆発物が ればいいのでは?」という たちは、 本当に汚い。 いつもの渋谷とは違い、 「ゴミ箱を設置す 捨てていく人 ま持ち帰るべきではない か

なぜ、今まで十分な対策 るため、問題となっている ため設置していないと聞 ば、きれいな町が保たれる 渋谷にゴミ箱がない理由 ティアでゴミを拾う人たちの意見に疑問を感じた。 しているため、朝、ボラン 意見を述べていた。私はそ Sでゴミを拾うことを発信 いたことがある。本来、ゴ と思った。 いった心がけをしていけれ が増えているという。そう 一方、芸能人などがSN

B 女の格差などが問題となっ かけることが大切だと思う。までも労働環境における男 性も男性も一人一人が気に ていたが、その問題が見て

県立白井高校(白井市) 見ぬぐりされ、対策が耳・ 杯をたえるをしていても、隣らない人が多い 「そんなのキレイゴム」県立白井高校(白井市) 見ぬぐりされ、対策が耳・ 杯をたしていても、両しかい、優先原以外の席で けったりさん あんじんが大切の改善を読み、考くして、う。社会がもっと女性が働いになったときには、女性が ―と、呼び掛けられている。困っている人がいれば、財の改善を読み、考くしている。 困っている人がいれば、財の政善を誘み、考くしている。 困っている人がいれば、財の政善を誘み、考くしている。 困っている人がいれば、財の政権経済の授業で新している。 困っている人がいれば、財の政権経済の授業で新している。 私は、アルバイトでまだだろうか。

ミを出した人たちがそのま そういう優しさを持つ人が 稿歓迎」欄をご覧下さい。 と言う人もいると思うが、「そんなのキレイゴト」 Ł

優先席以外の席で けようとする優しさが大切 募集しています。字数40 まとめても可。 応募は個人でも学校で 、対象は中学生以 宛先は

バスや電車で、優先席以 思いやり持って

読

匀

かけることが大切だと思う。外の席は譲らなくていいの ろうか。私は間違っている 菅谷 こはる 多いと思う。 の方に」と思っている人も と思う。優先席でなくても、 ってほしいのなら、優先席 のではないだろうか。

活していきたい。

それで、本当にいいのだ ように私自身も心がけて生 のではないか。そういう傷 思いやりのある日本になる しさにあふれた日本になる 人でも増えたら、

生の投稿コーナーです。 ュースの感想や意見などを 「学園ひろば」は生徒・学

と稿 歓 迎

用紙1枚)前後でお気軽に投 イラスト、カット、まんが

プリンス・プリンセス」 -リ児の写真、名前(ふりがな)、生 氏名、住所、職業、続柄、一言。

家自慢のペット」 に写った写真、ペットの名前

司窓会だより」

写真、学校名、同窓会の名称、 代表者から一言(約50字)。

熊本地震からの 「創造的な復興」のための 心のケアの充実





熊本県山鹿市立大道小学校 教頭

ももだ しすい 百田止水

1989年福岡教育大学教育学部特別教科教員養成課程保健体育科卒業。1990年熊本県山鹿市立山鹿小学校勤務。1993年熊本県阿蘇町立内牧小学校勤務。1996年熊本県菊鹿町立六郷小学校勤務。1998年熊本大学教育学部附属小学校(算数科担当)勤務。1999~2002年文部科学省開発指定「総合的な学習の時間」の開発。2007年岐阜大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻入学。2009年岐阜大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻入学。2016年、熊本県大津町立大津小学校勤務。2016~2018年文部科学省開発指定「生活数理」の開発。2018年熊本県山鹿市立大道小学校勤務。現在に至る。

第67回 読売教育賞から

【健康・体力づくり】



大津小の山本校長(右から 2人目)らと児童の心のケ アの取り組みを振り返る百 田教頭(左から2人目)

田止水教頭は、3月まで勤務した熊本県山鹿市立大道小学校の首 め、「心と体の振り返りシート」 取り組みが認められた。 前任校の同県大津町立大津小での 面談する児童を決め、スクールカ と校長、教頭、担任、養護教諭が 童のケアの充実を図った。 地震で被災し、心に傷を負った児 ・赴任して間もなく発生した熊本 による調査を3回実施。 百田さん 2016年4月、主幹教諭とし 児童の心身の状態を把握するた

健康・体力づくり 最優秀賞

う」と話した。

(田上賢祐)

とを考え、必要に応じてSCにつ

2的に調査し、複数で子どものこ 百田さんは「震災に限らず、

なぐ取り組みは広がっていいと思

熊本県山鹿市立大道小学校 百田止水教頭 51

答があった。

気持ちが軽くなった」などの回

人でも眠れるようになった」

るアンケートを実施したところ、

面談を受けた児童に感想を尋ね

深い実践だ。振り返りシートを活用 ス緩和、心のケアに取り組んだ意義 し、主幹教諭らとSCが連携して成 果を上げたことに感銘を受けた 「熊本地靂発生に伴う児童のストレ田中喜代次・筑波大学名誉教授 の安定を取り戻した。 と回答していた児童も、次第に心 怖い夢を見る」 「イライラする」 きるようになった」ため、救われ ると「学校全体で短期間に実践で た児童は少なくない。「嫌な夢や

面談結果を共有して、指導や支援 ウンセラー(SC)につないだ。 にあたる仕組みを構築した。 大津小の山本雄二校長(8)によ

被災児童 心のケア

【最優秀賞選評】

田中喜代次 筑波大学名誉教授

「熊本地震発生に伴う児童のストレ ス緩和、心のケアに取り組んだ意義 深い実践だ。振り返りシートを活用 し、主幹教諭らとSCが連携して成果 を上げたことに感銘を受けた」

はじめに

平成28年4月14日と16日に発生した熊本 地震で熊本県菊池郡大津町は、大きな被害を被 った。学校の施設はもとより、町民の住居や町 の公共施設など被害は多岐にわたった。また、 この震災にともなう避難生活をほとんどの住民 が経験をし、一人一人の心にも大きな傷跡を残 していった。

震災から2年が過ぎた。熊本県では、熊本地 震からの「創造的復興」を合い言葉にそれぞれ の場所で復興が進んでいる。施設面の復興は日 に日に進んでいるが、この「創造的復興」に向か うためには、児童1人1人の心のケアが不可欠で あると強く感じる。その際に、私たち教師だけで はなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャ ルワーカー等の専門機関との連携が大切である。

この2年間、大津小学校の主幹教諭とスクール カウンセラーで連携しながら、児童の心のケアに 取り組んできたことを論文としてまとめることにした。

2 研究主題について

熊本地震からの「創造的な復興」のための心 のケアの充実

研究主題設定の理由

1. 熊本地震の発生

平成28年4月14日と16日に熊本地震が発 生した。この2つの大きな地震は、本校に大きな

■ 天井や壁が崩落した体育館



■ 壁や支柱が崩落した体育館



■ 机や棚が散乱した事務室



■ 楽器や机が散乱した音楽準備室



被害をもたらした。

校舎には、いたるところに亀裂が入り、職員室 や事務室、音楽準備室などは足の踏み場もない くらいに物が散乱していた。体育館は天井や壁の 一部が崩落して、その後翌年の3月中旬まで使 用することができなくなった。廊下の一部は天井 が崩落し、通ることができなくなった所もあった。

私たちは、まず児童や職員の安否確認をする ことから始めた。調査の結果、幸い児童や職員 に死傷者はいなかったものの、家屋に被害が出 て、転居や転校を余儀なくされた児童がいた。 震災当時635名いた児童のすべてがこの2度 の地震により、避難所や大津町から離れた親戚 宅、あるいは車中泊等での避難生活を経験した。

大津町の小中学校は、4月15日(金)から5 月6日(金)までを臨時休業として、授業の再開 を5月9日(月)とした。ただし、大津小学校で は、授業再開前の4月27日(水)から4日間、 登校できる児童を対象に学校開放を行った。学 校開放は、午前中のみで、1人1人の児童から しつかり話を聴いたり、絵画や工作に取り組んだ

り、集団でのゲームをしたりして過ごした。児童 と話したり、みんなで活動をしたりすることで、少 しずつ笑顔になる児童も見られるようになった。

震災後約1ヶ月を過ぎた時点で、被災して自 宅が住めないような状況の児童数7名、それ以 外の理由で自宅以外(親戚・知人宅、車中等) で生活している児童数5名だった。この他にも大 津町を離れて転校する児童もいた。

能本地震で鉄道や道路、橋等が破壊され、 生活することや学校へ通うことができなくなった 南阿蘇村立南阿蘇西小学校の児童及びその家 族は、大津町にある避難所で生活することとなっ た。そして、南阿蘇西小学校の児童21名を大 津町立大津小学校で受け入れることになった。 そこで大津小学校では、21名の児童の受け入 れの準備を行っていった。

2. 熊本地震の大津小学校の児童への影響

5月9日(月)に授業が再開された。担任は、 まず児童の精神面や生活面の状況を1人1人の

■ 被災児童数調査(平成28年5月12日	
----------------------	---------

	① 被災して自宅が住	②①の児童生徒のう の児童生徒のう	生活している児童数 生活している児童数 生活している児童数	④①の理由ではない が、避難所で生活して	⑤①の理由ではない のではない。 多のではない。 多のではない。 多のではない。 多のではない。 多のではない。 多のではない。 多のではない。	計
小学1年	2	1	1	0	0	4
小学2年	0	0	0	0	0	0
小学3年	1	0	1	0	2	4
小学4年	2	0	2	0	0	4
小学5年	1	0	1	1	0	3
小学6年	1	0	1	0	3	5
計	7	1	6	1	5	

(南阿蘇西小学校の児童を除く)

話を聴くことで把握していった。その中で担任が 気になった児童は養護教諭が取りまとめて、必 要に応じて対応を検討するようにした。5月12日

(木)に担任が気になった児童は次の通りである。

■ 気になる児童(平成28年5月12日)

	年	様子など
1	1	3月まで他の町に住んでいたが4月に大津へ転居する。以前住んでいた家も倒壊し、片付けなど手伝いに行っていた。本人は言葉で表現するのが苦手なため母がとても心配している。
2	1	テントで生活をしている。トイレの心配(お ねしょがあった)
3	1	一人で寝ることが不安になった。
4	1	一人でトイレに行くのが不安になった。
5	1	よく眠れていない。
6	1	一人でトイレに行くのが不安になった。一 人で寝ることが不安になった。
7	1	一人で寝ることが不安になった。
8	1	トイレが怖い。おむつをはめたがったり、母 に甘えたがったり、赤ちゃん返りが見られ るとのこと。
9	1	地震前からお姉ちゃんに会いたいと涙ぐむことがあった。地震後は、登校時に母が教室まで送ってくるが、なかなか母親から離れることができない。円形脱毛(直径6ミリ程度)が見つかった。家でも母親から離れることができないでずっと一緒にいる。
10	1	震災後、今日(5月11日)初めて登校。 夜、少しの音でも起きてしまうので、眠れ ていないとのこと。
11	1	登校時からずっと泣き続ける。活動には 泣きながらも参加している。学童でも涙 が出ている様子。家では楽しかったことだ け報告。避難所で生活している。→ご飯 やお風呂の時は家に帰っている。寝る時 に避難所へ行く。

	年	様子など
12	1	涙がちょこちょこ出ている。
13	1	12日、喉の痛みと発疹のため欠席。耳 の痛みも有り。病院を受診したところ、ス トレス性のものと診断された。
14	1	「ストレス性と思われる甘えが出てきている」学校でご飯が食べられない。家では食べられている。疲れがたまっていて調子が悪い。5月11日は午後から登校。調子が悪い。朝ごはんが食べられなかった。
15	2	トイレに一人で行きたがらない。夜が怖い。
16	2	人を攻撃する。イライラする。
17	2	ご飯が食べられていない(-4kg)。
18	2	手が震える。開放日は、一日も登校していない。家で過ごしている間は、吐き気がし体調がすぐれなかった。手の震えは10日から。
19	2	腹痛を訴えることがある。開放日の時も 腹痛があった。
20	2	トイレに行けない。9日学校ではギリギリまで我慢して先生と行ったが、ドアは閉めることができなかった(10日は行くことができた)。
21	2	登校しぶりで欠席。
22	2	べったり甘えてくる。
23	2	イライラしている。人をせめる。ケンカが 多い。
24	2	給食時間に涙目になる。食欲が落ちている。家ではNHKを見たがるようになった。 情報を知りたがっている。

	年	様子など
25	2	食欲がない。
26	2	自宅で、一人で二階に上がれない。
27	2	夜寝たがらない。すぐ起きる。
28	2	母から離れられない。毎日2時間の登校 になった。登校する時間は本人の調子で 決める。昼はハイテンションで夜は泣いて いる。
29	3	家にいる時は涙が出ていると母から連絡 帳にあったが、学校では「大丈夫だった」 など不安は口にしていない。
30	3	9、10日と遅刻。吐き気あるなど調子が悪い。夜は眠れない。父が仕事から帰るまで不安で眠れずにいるとのこと。とても地震を怖がっているので担任に相談があった。11日は遅刻しなかったが、3回、腹痛を訴え保健室に来室。
31	3	夜一人で眠れず泣いている。
32	4	大津小の体育館の壁が崩れた時に避難 していて、その場にいた。地震発生後は 不安が大きかった。
33	4	家庭の状況が不安定。家がかわるかもし れない心配あり。
34	4	住居に不安がある。
35	4	以前から髪を触るクセはあったが、地震 後、抜毛がはじまった。
36	4	13日、喉の痛みと発疹のため欠席。耳の痛みも有り。病院を受診したところストレス性のものと診断された。
37	4	地震後、母にかみつくパニックがあったが、連体に県外で過ごし、少しずつ落ち着いてきた。5月10日の夜に揺れたため、 眠れなくなり、パニック。朝から調子が悪く母が保健室まで連れてこられた。朝~1校時ベッドで休養。その後、教室へ。 5月11日の夜に、眠れず母へ当たり散らした。12日、母が病院に相談に行ったところ、「一時的に県外などに避難させるのも良いのでは」とアドバイスを受けた。

	年	様子など
38	4	トイレの心配(声かけが必要)。集団に入るのが難しくなった。室内でも帽子が脱げなかったりくるくるその場で回ったりする行動が増えた。
39	5	食が細くなっている。給食が3分の2食べられるようになってきた。
40	5	腹痛を訴える。アンケートにも、「腹痛の 取り方を知りたい」と書いていた。
41	5	震災前、あくびをした後に気を失うことがあった。震災後に意識消失の回数が増えた。倒れた際に頭部を打撲し、5月6日に病院に検査入院した→原因は不明とのこと。2週間後に受診予定。
42	5	震災後、大好きだった祖母が病気で入院。 本人はとても落ち込んでいる。
43	6	怖いので夜は車で寝ている。
44	6	怖いので夜は車で寝ている。
45	6	夜眠れない。授業中ねることもある。地震 前は授業中寝ることはなかった。
46	6	震災前よりネガティブになっている。余裕 がなく不安定な感じがする。
47	6	震災前から行きしぶりがある。母の押し出すタイミングと本人の気持ちが合わずふさぎ込む。母が車で送って来られても車から降りられず、職員の手が必要。登校後保健室などで過ごし調子があがると教室へ戻ることができる。

担任が様子を見たり話を聴いたりして気にな るということであげた児童は47名であった。高 学年より低学年が多く、1・2年で28名と全体 の半数を超えていた。内容は、1人で寝ることが 不安、夜1人でトイレに行くことが不安、あまり よく眠れない、食欲がない等の症状を訴える児 童が多かった。また、夜に地震がくると怖いとい うことで、未だに車で寝ている児童もみられた。

このように、本校の多くの児童が熊本地震によ

る影響で、心のケアを必要とする状態であった。 緊急に専門機関につないだ方がよいと思われる 児童については、スクールカウンセラー(SC)や スクールソーシャルワーカー(SSW)、医療機関 等につないでいった。

3. 南阿蘇西小学校の児童の受け入れ

5月9日(月)の授業再開と共に、南阿蘇西小 学校の児童21名も大津小学校に迎えて新たな スタートを切った。しかし、21名の児童の内7名 の児童については、地震による影響や生活等の 変化により、頭痛や腹痛等の体調不良を訴えた り、教室に足が向かなくなったり、イライラのた めに感情の変化が激しく物に感情をぶつけたり する姿が見られた。

このうち3名は、保護者の判断ですぐに南阿

蘇西小学校へもどることになった。18名の児童 は、避難所等での生活や突然学校が変わったこ とで、大きな不安やストレスを抱えたまま大津小 学校に登校することになった。

南阿蘇西小学校の児童への心のケアは、急務 を要する状態であった。

4. スクールカウンセラーの配置

6月13日(月)より、熊本地震にともなう「スク ールカウンセラー活用事業」によるスクールカウ ンセラーの派遣が決まった。この事業は、震災 における心のケア等が必要な児童及びその保護 者に対し、必要に応じて支援を行うことや、教職 員に対し被災による児童の心のケア等の指導の 在り方についての相談を行うこと等を目的にする ものである。毎週週替わりでSCが毎日本校に来

■ 南阿蘇西小在籍で大津小に通っている気になる児童(平成28年5月13日)

	年	様子など
1	1	父と離れ、環境が変わったことに不安を 感じている。黙っている時間が増え、心配 していると母。
2	3	3校時後の休み時間来室。37.5℃あったが、顔色良好。本人も給食も食べられそうとのことで、給食を完食。昼休み、検温37.1℃、体調は悪くなさそうだが、本人は帰りたいとのこと。早退。
3	4	朝自習中に泣いていた。気分不良を訴え 保健室へ。校区外から通学しているた め、朝が早く睡眠不足とのこと。1校時ベッドで休養させたところ熟睡。2・3校時 通級教室でT先生が話を聞く。「眠れていない」「みんなが笑っていても笑えない」 「(大津小の子が)遊びに誘ってくれるけ ど断ってしまう」など話したとのこと。4校 時体育見学中、苦しいと泣き出した。学 校に行きたくないと朝から泣いていた。

	年	様子など
4	5	大津小に入るのをとても不安に思ってい た。学校では、友達となじんでいる。
5	5	12日欠席(腹痛)
6	6	他のクラスの南阿蘇西小の友だちの所 に行こうとする。
7	6	昼休み、教室で涙ぐんでいるのを担任が 見かけ声をかけると泣き出した。話を聞くと、 「さみしい」と。5月11日欠席。理由は腹 痛。南阿蘇西小の時も、休むことがあった。 12日4校時後早退すると決めて登校。
8	6	5月11日は行き渋りで欠席。友だちがいや とかではないが、とにかく学校に行きたくな いとのこと。食事はとれている。12日欠席。
9	6	涙がポロポロでる。12日朝、泣きながら 来室。「友達が休んでいるから不安」との こと。

られることになった。この事業で6月から7月の間 に47名の児童がカウンセラーと面談を行い、そ れぞれに自分の思いを聞いてもらったり、悩みを 相談したりすることができた。そして、そのことを 担任や主幹教諭、養護教諭にフィードバックする ことで、指導や支援の在り方を工夫していった。 そして、9月からは、週替わりではなく、同じカウ ンセラーの方が週に2回訪問するかたちでこの 「カウンセラー活用事業」が行われていった。

5. トラウマの定義とその症状

平成29年12月17日(日)に、「熊本こころの ケアフォーラム」が開催された。その中で「災害 復興期の家族支援」という演題で兵庫県こころ のケアセンター副センター長兼研究部長である 亀岡智美氏による基調講演があった。 亀岡氏は、 基調講演の中で阪神・淡路大震災でトラウマ症 状で診療されている方々についてお話された。

トラウマの定義は、次のとおりである。

本来もっている個人の力では対処できな いような外的なできごとを体験したときのス トレスで、非常にショッキングで恐怖を伴う できごとをトラウマという。

症状は次のようなかたちで体に現れてくる。

- 睡眠障害 フラッシュバック
- 身体生理的な変化 (震え・体の緊張・味 覚障害・動悸・冷や汗)
- 過敏反応 過剰な警戒心 悪夢
- 同避反応 (怖いことは思い出さない)
- 精神麻痺 (興味・関心が失せる 元気が なくなる 生活の質が低下する)
- 集中困難 (イライラ感 怒りっぽくなる)

このトラウマ反応の約半数は特別な手当がな くても治るそうであるが、一部にはその後もその症 状が残っていくことがあるとのこと。阪神・淡路 大震災から約20年が過ぎたが、未だに言葉で は伝えられずに、心に傷跡を残したままの人もい る。阪神・淡路大震災では、半年後、あるいは 1年後に、体の表出反応が大きかった人が多くい たという記録が残っている (兵庫県こころのケア センター副センター長兼研究部長 亀岡智美 氏 熊本こころのケアフォーラム基調講演記録)。

本校でも、熊本地震後、トラウマ反応とまでは 断定できていないが、睡眠障害や回避反応、精 神麻痺、集中困難等の症状が現れている児童は 多くいた。時間の経過とともに、それらは徐々に おさまってきているように見えるが、1年を経過し てさらに注意深く児童の観察を行い、細やかな 指導が必要になると考えられる。

研究の基本構想

1. 研究の仮説

熊本地震に関する「心と体の振り返りシート」 をもとに担任が、必要に応じてスクールカウンセ ラーにつなぐことで、不安や悩みを軽減及び解消 させ、カウンセラーからの情報を共有して指導に 当たることで、児童は落ち着いた学校生活を送る ことができる。

2. 研究の内容

- ●「心と体の振り返りシート」の結果をもとに担 任と主幹教諭、養護教諭、教頭、校長と検 討を行いSCへつなぐ児童を決める。
- 2 SCと児童の面談後、担任や主幹教諭、養

護教諭等にフィードバックすることで、情報 を共有し、その後の指導に生かしていく。

- ③ 「心と体の振り返りシート」の学校全体の集 計結果を6月・9月・2月ごとの変化を比較・ 検証し、SCの面談を受けた児童の変化を観 察する。
- 4 カウンセリングを受けた児童やその児童の 担任等にカウンセリングを受けたことについ てのアンケート調査をする。

スクールカウンセラー活用の 相談体制

1.「心と体の振り返りシート」を もとにした教育相談体制

平成29年度、熊本県教育委員会では、熊本 地震の影響により、精神的な変調を訴える児童 生徒が依然として見られる状況にあることから 中・長期的な児童生徒の心のケアに万全の体制 で取り組んでいくという目的で、「心と体の振り返 りシート」を年に3回行い、SCのケアやSSWの アセスメントを行うことになった。本校では、右 上図のような流れでSCの面談につなぐようにす る。「心と体の振り返りシート」は、主幹教諭が集 約し、その結果をもとに主幹教諭及び担任、養 護教諭でSCとの面談が必要な児童を検討す る。その後、教頭、校長に報告・相談後、面談 が必要な児童を決定する。保護者の承諾後、SC との面談を設定する。守秘義務に十分に注意を 払い、可能な範囲でSCからのフィードバックを 行う。各担任等はそこで知り得た情報をもとに、 指導や支援の在り方をさらにそれらの児童に合 ったものにしていく。また、必要に応じてSSW にもつなぎ支援体制を強化していく。

■ スクールカウンセラー活用の相談体制



研究の実際

1.「心と体の振り返りシート」を もとにしたカウンセリング

s s x S fi	ı		男・女	年	組	しゅっせきはんご 出席 番号	
	2545	じ 54 ここう 自分の心とからだの健康をふりかえるた でやめてもいいです。それでは、答えてく		きつくなっ		; ッ 乗理をしなく	てもいい
	anen 品近 つ	ぎのことがどれくらいありましたか? あ	**** *** *** *** *** *** *** *	ない	tc 少しある	かなりある	ಶಲ್ಯಕ್ರದ ಹಿಕ
	をしてく		Classoft	ない	1・2日ある	3-5日ある	#1415 (EEEÉ信日次 る
1		なかなか、ねむれないことがある		0	1	2	3
2	**	むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっと	としたりする	0	1	2	3
3	2	いやなゆめや、こわいゆめをみる		0	1	2	3
4	*	nt ちょっとしたきっかけで、思いだしたくない しまう	いのに、思いだして	0	1	2	3
5		⁸⁴ つらかったことを、思いださせるところに している	50 は近づかないように	0	1	2	3
6		つらかったことについては、話さないよう	にしている	0	1	2	3
7	3	ロボル 56 56 自分が悪い(悪かった)とせめてしまうこ	とがある	0	1	2	3
8	8	こわくて、おちつかないことがある		0	1	2	3
9	9	an:# 頭やおなかがいたかったり、からだのち。 する	_{たる} ようしが悪かったり	0	1	2	3

■ 心と体の振り返りシートの観点

	質問項目			
1	なかなか、ねむれないことがある	心 带		
2	むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする	過覚醒		
3	いやなゆめや、こわいゆめをみる	再体験		
4	ちょっとしたきっかけで、思いだしたくないのに、思いだしてしまう	一		
5	つらかったことを、思いださせるところには近づかないようにしている	回避•麻痺		
6	つらかったことについては、話さないようにしている			
7	自分が悪い(悪かった)とせめてしまうことがある	マイナス思考		
8	こわくて、おちつかないことがある	再体験·過覚醒		
9	頭やおなかがいたかったり、からだのちょうしが悪かったりする	4.ギフトレフ		
10	学校では、楽しいことがいっぱいある	→ 生活ストレス		

過覚醒

外傷の再体験により、不安、恐怖、緊張がよ みがえり交感神経系などが過活動となる。

- ○眠れない。
- ○神経過敏、イライラ、怒り。
- ○集中できない。落ち着きがなくなる。
- ○注意過剰、必要以上に常に怯えている。
- ○驚きやすく少しの刺激に過敏に反応する。

再体験

- ○怖い体験を思い出し再体験する。
- ○突然思い出し過度の不安定状態になる。
- ○突然現実にないことを言い出す。
- ○恐ろしい夢をくり返す。
- ○その体験を思い出す遊びや話を繰り返し 興奮したり落ち着かなくなったりする。

回避・麻痺

外傷の再体験や過覚醒などの不快な状態を 避けるために、外界に対する活動や反応が低下 し、感情の麻痺が生じる。

- ○体験を思い出すことを避けようとする。
- ○表情が少なくなり、ぼーっとしている。
- ○泣くことができない。
- ○記憶力や集中力が低下する。

○生活全般にわたる活動の低下。食事などの 基本的活動もできなくなる。

マイナス思考

私はだめなんだなどと悪い方向に考えが向く ことで、物事を否定的にとらえる。

生活ストレス

生活でストレスを感じている状態。頭痛や腹痛 など体の様々なところに不調を訴える。

このシートは、6つの観点で10の質問項目から構成されていて、それぞれに4段階の尺度で 回答するようになっている。

■ 心と体の振り返りシートの尺度

項目	尺度		
0	ない	ない	
1	少しある	1・2日ある	
2	かなりある	3-5日ある	
3	非常にある	ほぼ毎日ある	

質問項目で3や2の回答が多かった児童は、 担任と養護教諭と主幹教諭で検討を行い、教 頭・校長に報告・相談し、SCにつなぐ児童を決 定していった。

■ 心と体の振り返りシート集計結果(6月)

	質問項目	6月平均值	
1	なかなか、ねむれないことがある	0.747	過覚醒
2	むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする	0.904	迎見胜
3	いやなゆめや、こわいゆめをみる	0.814	再体験
4	ちょっとしたきっかけで、思いだしたくないのに、思いだしてしまう	0.788	竹
5	つらかったことを、思いださせるところには近づかないようにしている	0.429	回避•麻痺
6	つらかったことについては、話さないようにしている	0.695	凹处"林⁄军
7	自分が悪い(悪かった)とせめてしまうことがある	0.737	マイナス思考
8	こわくて、おちつかないことがある	0.661	再体験·過覚醒
9	頭やおなかがいたかったり、からだのちょうしが悪かったりする	0.739	生活ストレス
10	学校では、楽しいことがいっぱいある	2.399	エルヘドレヘ

「むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする」の項目が最も高い数値を示している。 次に「いやな夢や、怖い夢をみる」の項目の数値が高くなっている。

熊本地震後1年以上たっているが、まだ震災 の影響で不安な思いや悩みを抱えたまま生活を している児童が多くいることがわかった。

■ SCのカウンセリングが必要な児童(6月)

	旧辛粉	SCの面談が	必要な児童数
	児童数	総数	新規数
1年	119	0	0
2年	115	14	3
3年	117	9	1
4年	105	15	9
5年	111	8	0
6年	98	10	3
合計	665	56	16

6月の時点でSCのカウンセリングを必要とする児童は56名であった。そのうち16名は新規で、平成29年度新たにカウンセリングを受ける

ことが必要だと判断した児童である。

平成29年度は、本校には、SCが週に1日の みの来校になっていたため、56名の児童に対応 することができなかった。よって、急きょ週に2日 来校していただくように変更をお願いした。SC には、困っていることや心配していること、悩ん でいることなどをくわしく丁寧に聴いてもらった。 また、そのカウンセリングの中で落ち着くための 呼吸法やリラックスの仕方、困ったときの解決の 仕方等も具体的にアドバイスしてもらった。さら に、希望される保護者にもSCにつないで様々な 相談にのってもらうようにした。そのことで、学校 と家庭が連携して同じ方向性で指導していくこと ができるようになった。SCがカウンセリングが必 要と判断したり、児童や保護者がさらに相談の 希望があったりするときは、継続してカウンセリ ングを行うことにした。

しかし、保護者の中には、カウンセリングを必要としないという考えの方も数名いた。その児童たちは、担任や養護教諭が観察をしながら必要に応じて話を聴く時間を設けた。

9月に実施した「心と体の振り返りシート」の集計結果(平均値)は次のとおりである。

■ 心と体の振り返りシート集計結果の比較

	質問項目	6月平均值	9月平均値	
1	なかなか、ねむれないことがある	0.747	0.729	過覚醒
2	むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする	0.904	0.917	迎見胜
3	いやなゆめや、こわいゆめをみる	0.814	0.606	再体験
4	ちょっとしたきっかけで、思いだしたくないのに、思いだしてしまう	0.788	0.705	一一件一件
5	つらかったことを、思いださせるところには近づかないようにしている	0.429	0.359	回避•麻痺
6	つらかったことについては、話さないようにしている	0.695	0.652	回姓* <i>M</i> /军
7	自分が悪い(悪かった)とせめてしまうことがある	0.737	0.718	マイナス思考
8	こわくて、おちつかないことがある	0.661	0.546	再体験·過覚醒
9	頭やおなかがいたかったり、からだのちょうしが悪かったりする	0.739	0.686	生活ストレス
10	学校では、楽しいことがいっぱいある	2.399	2.32	エルヘドレス

9月の「心と体の振り返りシート」の平均では、 ほとんどの項目で6月より低い数値を示した。特 に、「いやな夢や、こわい夢をみる」や「頭やおな かが痛かったり、体の調子が悪かったりする」の 項目では、数値が6月より大きく下回っていた。 このことから少しずつ児童の心が落ち着き安心し て生活しているのがわかる結果となった。また、 体への影響も減ってきていることがわかった。

ただ、「むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする」の項目のみ数値が 6月より上回っていた。また、「なかなか、ねむれない」の項目も高い数値を示した。

■ SCのカウンセリングが必要な児童(9月)

	児童数		
	汇里奴	総数	新規数
1年	119	0	0
2年	115	6	1
3年	117	12	6
4年	105	9	2
5年	111	4	1
6年	98	6	2
合計	665	37	12

9月はSCのカウンセリングが必要とする児童が37名で6月の56名よりは19名減っている。 しかし、新規に12名の児童がカウンセリングを必要とすると判断し、継続が必要な児童とともに SCとのカウンセリングを行っていった。

6年生のある児童は、友達に迷惑をかけたり、 学校の決まりを守れなかったりした時などに、教 師が注意をしてもパニックになったり、教室を飛 び出したりして教師の指導を受け入れようとはし なかった。そこで、担任がSCに児童への接し方 を相談した。SCのアドバイスで、様々なよくない 事象が起こったとき、児童に謝らせるなどの結 果をすぐに求めるのではなく、担任の思いを「~ と思うよ」と伝えるようにした。そのことで、児童 へ担任の思いがつたわるようになり、結果として 児童が教室を飛び出すことはなくなっていった。 担任も気持ちが楽になっていった。

しかし、6月と同様保護者の中には、カウンセリングを必要としないという考えの方も数名いた。 その児童たちは、担任や養護教諭が観察をしながら必要に応じて話を聴く時間を設けた。

2月に実施した「心と体の振り返りシート」の 集計結果(平均値)は次のとおりである。

■ 心と体の振り返りシート集計結果の比較

	質問項目	6月平均值	9月平均值	2月平均値	
1	なかなか、ねむれないことがある	0.747	0.729	0.63	過覚醒
2	むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする	0.904	0.917	0.799	迎見胜
3	いやなゆめや、こわいゆめをみる	0.814	0.606	0.628	
4	ちょっとしたきっかけで、思いだしたくないのに、思いだ してしまう	0.788	0.705	0.637	再体験
5	つらかったことを、思いださせるところには近づかないよ うにしている	0.429	0.359	0.328	回避·麻痺
6	つらかったことについては、話さないようにしている	0.695	0.652	0.557	
7	自分が悪い(悪かった)とせめてしまうことがある	0.737	0.718	0.673	マイナス思考
8	こわくて、おちつかないことがある	0.661	0.546	0.489	再体験·過覚醒
9	頭やおなかがいたかったり、からだのちょうしが悪かった りする	0.739	0.686	0.711	生活ストレス
10	学校では、楽しいことがいっぱいある	2.399	2.32	2.383	

どの項目も2月の平均は6月の平均よりも数値が下回った。9月には、「むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとしたりする」の項目が6月よりも上がり高い数値を示していた。しかし、2月には大きく下回った。また、「なかなか、ねむれないことがある」の項目が2月には6月9月より大きく下回った。さらに、「こわくて、おちつかないことがある」の項目も6月に比べ大きく下回っていた。

■ SCのカウンセリングが必要な児童(2月)

		SCの面談が必要な児童数			
	児童数	うしの国談が	少安 な沉里奴		
	儿主奴	総数	新規数		
1年	119	0	0		
2年	113	6	4		
3年	116	7	6		
4年	104	4	3		
5年	112	7	4		
6年	98	1	0		
合計	662	25	17		

2月はSCのカウンセリングを必要とする児童

が25名で9月の37名より12名、6月の56名より31名減っている。しかし、新規に17名の児童がカウンセリングを必要とすると判断し、継続が必要な児童とともにSCとのカウンセリングを行っていった。

友達との人間関係で悩みをもっている6年の 児童は、定期的にSCのカウンセリングを受け、 悩みを相談することで落ち着きを取り戻していっ た。また、担任では、知りえなかった児童の思 いも共有することができ、その後の接し方に生か していった。その児童は、担任にもっと声をかけ てほしい、認めてほしいという思いをもっているこ とがわかった。そこで、普段の声かけや何気な い会話を心がけていった。また、小さな変化でも 認め褒めるように心がけていった。児童は、少し ずつ友達との関係を繋ぎ直し、笑顔を見せるよう になっていった。

しかし、9月と同様保護者の中には、カウンセリングを必要としないという考えの方も数名いた。SCによる効果を保護者にもわかりやすく伝える努力がさらに必要である。

2. カウンセリングを受けた児童の変容

SCのカウンセリングを受けた児童にアンケートを取った。「SCとお話ししてどうでしたか」という質問とそのわけをたずねてみた。

■ 児童のアンケートの結果 (平成30年2月15日)

	よかった	どちらかと 言えば よかった	あまりよく なかった	よくなかった
1年	1	0	0	0
2年	1	3	0	0
3年	11	1	0	0
4年	8	2	1	0
5年	1	2	0	0
6年	4	1	0	0
合計	26	9	1	0

SCのカウンセリングを受けた児童のほとんどがカウンセリングを受けて「よかった」「どちらかと言えばよかった」と答えている。その主な理由は、下記のとおりである。

1人でかかえこんでいたけれど、先生に話すと、気持ちが軽くなって解決方法もいろいる見つけて考えることができた。

言いたいことが話せてよかったです。他にも リラックスの仕方などを教えてもらってよかった。

お母さんが思いつかないようなアドバイス を出してくれたし、質問にもくわしくアドバ イスしてくれたからよかった。 1人で眠れないこともあったけれど、先生に 会ってからはもう1人で寝れるようになっ た。たぶん先生のおかげだと思う。

先生とお話をしてすっきりしたし、悪い夢を 見るのはもうなくなった。お話をしてよかっ た。ぼくの気持ちはうれしくなった。

みんなに話せないことを聞いてくれたし、困っているときの解決の方法を教えてくれた。 先生と話すとやさしく、すっきりする。

多くの児童がSCと話すことで気持ちが軽くなりすっきりしたようである。また、リラックスの仕方がわかったことで、自分で落ち着くことができるようになったと答えている。さらに、困ったことについて、具体的な解決方法を教えてもらい実践することで、解決することができた児童も多くいた。その結果、不安がなくなり安心して生活をおくることができたり、夜眠れるようになったりすることにつながっていったと考えられる。

なお、1名カウンセリングを受けて「あまりよく なかった」と答えている児童は、「本当のことを伝 えていいのかわからなかったからあまり伝えられ なかった」と答えている。

3. カウンセリングを受けた児童の 担任による観察

カウンセリングを受けた児童の担任にアンケートを行った。質問事項は「SCのカウンセリングを受けて児童はどうでしたか」で、次の4つの項目から選択させた。

- ()よかった
- () どちらかといえばよかった
- ()あまりよくなかった
- ()よくなかった

■ 担任のアンケート結果(平成30年3月5日)

	よかった	どちらかと 言えば よかった	あまりよくなかった	よくなかった
教師の アンケート	17	0	0	0

SCのカウンセリングを受けた児童を担任している教師すべてが「よかった」と回答している。その主な理由は、次のとおりである。

自分ではうまく聞き取ることができなかった児童の不安をはっきりさせて、アドバイスをしてもらった。話を誰かに聴いてもらうことが児童にとっては一番落ち着くことにつながっていると感じた。

眠れなかったり、不安を感じたりする原因がどこにあるのかをカウンセリングの中で探すことができた。また、カウンセリング後の児童の表情が明るかった。

話をしたことで児童の落ち着きが見られた。 保護者のカウンセリングもしていただき、保 護者が児童を見直すきっかけになった。

教室に入るのが難しかった児童が週に1回 SCの先生と話すことで落ち着いて教室に 入ることができるようになった。担任が聞け ない話をSCの先生をとおして聞くことができるのでとても助かった。

専門家の力をかりて助言いただくことが児 童にも私にもよい方向に進むことがわかっ た。チームで育てることを教えてもらった。

SCのカウンセリングによる児童の変容が目に 見えるかたちで現れていることがわかる。児童の 不安や悩みを知り、それをもとに指導にあたることが有効に機能していると言える。

7

研究のまとめ

1. スクールカウンセラーの相談内容

■ 平成29年度にスクールカウンセラーの カウンセリングを受けた児童や保護者、教職員

児童	保護者	教職員	その他	合計
48	10	25	0	83

平成29年度、本校でSCによるカウンセリングが必要だと判断した児童は85名だった。そのうち48名の児童がカウンセリングを受けた。カウンセリングが必要だと判断した児童のうち37名の児童がカウンセリングを受けることができなかった。このうち13名は、2月下旬に新規で必要だと判断したものの、その後の日程では、SCのカウンセリングを受ける日程がたりなかった児童である。基本的に週に1日しかSCが来る日がないため、日程にどうしても入らなかったのである。ただ、24名の児童の保護者には、SCによるカウンセリングを断られた。今後、私たち教師が保護者にSCによるカウンセリングの重要性をわか

りやすく伝えていかなければならないと強く感じた。また、SCによるカウンセリングを受けた人の相談内容は次のとおりである。この1年間本校で

は、延べ183名の児童・保護者・教職員がSC のカウンセリング及び教育相談を受けている。

■ スクールカウンセラーによる相談内容

相談者	相談内容					合計
(延べ人数)	不登校	友人関係	家庭環境	心身の 健康・保健	発達障がい等	人
児童	0	21	31	61	7	120
保護者	20	3	4	3	4	34
教職員	11	2	2	8	6	29
小 計	31	26	37	72	17	183

相談内容は、「心身の健康・保健」に関するものが一番多く、72名であった。特に、熊本地震後、1年がたち心身に影響が出ていた児童が多くいた。また、2番目に多かった「家庭環境」からは、児童だけではなく保護者も不安な思いをもち暮らしていて、その影響が児童に伝わっていることが推測できた。

2. スクールカウンセラーの カウンセリングを行っての考察

平成29年度の大津町立大津小学校を担当 したSC石澤美紀先生のカウンセリングを行って の考察は次のとおりである。

「心と体の振り返りシート」のアンケートで 「怖い夢を見る」と訴える児童の中に、ホラー映画や映像を見たあるいは見ていると話す児童が少なくない。自分で見ないように気をつけること、家族へ協力を求めてみること、というアドバイスで怖い夢を見なくなったと報告する児童が複数いた。 「心と体の振り返りシート」がきっかけで、 地震の影響だけではなく、生育歴や家庭背 景から生活に適応することに難しさの見ら れる児童や、発達的に配慮が必要な児童に も、結果として関わることができ、学校へ の適応が良好になったケースが複数あった。

熊本地震の影響を主に支援した児童は、1 ~4回で終結することができた。一方で、そ の他の要因も含めて支援した児童に関して は、より多い回数で関わることが多かった。

多くの児童がカウンセリングを受けている 状況となったことで、カウンセリングを受け ることへの敷居が、児童や保護者、教師と もに低くなっていることが感じられた。

多くの児童のカウンセリングを行うことで、 学級では目立たない児童の中にもカウンセ リングが必要な児童が多くいることがわか った。学校生活は順調のように見えても、 家庭生活で困っている児童がいることがわ かり、カウンセリングをとおしてよりよい方 向に導くことができた。

3. スクールカウンセラー活用の効果

【児童への効果】

- ○話を聴いてもらい気持ちが楽になった。
- ○カッとなったときのリラックスの仕方がわ かり、活用することができるようになった。
- ○困っていることや悩んでいることの解決 方法を具体的に教えてもらい、それを活 用することで解決することができた。
- ○話を聴いてもらい、不安がなくなった。
- ○夜眠れるようになった。
- ○悪い夢を見なくなった。
- \bigcirc λ

【保護者への効果】

- ○児童の不安や悩みを知ることができた。
- ○どのように児童に接したらよいかアドバイスをもらった。
- ○担任と連携して支援することができた。
- ○子育てについて振り返ったり、考え直し たりする機会になった。

【教師への効果】

- ○担任が見えていない児童の不安や悩み を知ることができ、その後の指導に生か すことができた。
- ○児童の指導や支援の具体的な仕方のア

ドバイスをしてもらった。

○児童が安心して学校生活をおくることが できるようになったので、様々な力を大い に伸ばすことができた。

【学校全体として】

- ○不登校傾向にあった児童2名が登校することができるようになった(平成30年3月、不登校の児童は1名である)。
- ○SC活用の相談体制を確立したことで、 早期に児童の不安や悩みを知ることができ、組織的に対応することができるように なった。また、専門的な視点でアドバイスをもらうことができるようになった。

4. スクールカウンセラー活用の課題

○平成29年度は、「心と体の振り返りシート」の調査を3回行ったが、毎回新規で多くの児童がカウンセリングを受ける必要が出ていた。6月16名、9月12名、2月17名である。熊本地震から2年が経とうとしているが、1人1人の児童によってカウンセリングが必要になる時期は様々であることが言える。引き続き、カウンセリングが必要になる児童が現れることが予想される。

最重要課題

- ○大津小学校には、平成30年度も引き続きSCの配置が必要である。
- ○県内の他の小学校にもSCの配置をさら に広げる必要がある。

8 おわりに

大津小学校と南阿蘇西小学校の児童に安心できる生活を取り戻し、前に向かう心になってほしいという願いをもち、日々教育実践に取り組んできた。熊本県の「スクールカウンセラー活用事業」により、大津小学校にSCを配置していただいたことは、2校の児童や保護者、そして教職員にとって、大変ありがたいことであった。特に、本校のSCを勤めていただいている石澤美紀先生には、感謝の気持ちでいっぱいである。さらに、熊本地震からの「創造的な復興」のため、2校の児童が安心して生活をすることができるよう平成29年度確立した支援体制で学校をあげて組織的に指導及び支援にあたっていきたい。

参考文献

- 文部科学省在外教育施設安全対策資料
- 兵庫県こころのケアセンター副センター長兼 研究部長 亀岡智美氏 熊本こころのケアフォ ーラム基調講演記録

情動的痕跡を残す英語科教育

一 人格形成の契機を目指して 一





京都府城陽市立北城陽中学校 教諭

ないきまみこ 内貴真美子

2003年宇治市立東宇治中学校勤務、2006年城陽市立城陽中学校勤務、2007年京都府立洛北高等学校附属中学校勤務、2012年宇治市立宇治黄檗学園黄檗中学校勤務、2013年京都教育大学附属京都小中学校勤務、2017年京都教育大学大学院教科教育専攻英語教育専修に入学、2018年より城陽市立北城陽中学校赴任。現在に至る。連絡はm-naiki-18@kyoto-be.ne.jpまで。

第67回 読売教育賞から

【外国語・異文化理解】

諭(京都府城陽市立北城陽中で) とを重視した授業を実践する内貴教 生徒が自ら考えた内容を発表するこ



京都小中学校で中学 3 年生を対象 内貴教諭はその狙いを説明する。 覚、楽しさを知ってほしい」と、 受賞は、前任の京都教育大付属

外国語·異文化理解 最優秀賞 京都府城陽市立北城陽中学校 内貴真美子教諭

を心がけたい」といった声が上が

「どんな時も思いやりのある行動

を思い合う心こそが最上の宝物」

授業を受けた生徒からは「相手

ったという。

内貴教諭は「生徒が自らの心の

りの喜びだった」と話した。 変化を実感してくれたことが何よ 同士の話し合いでテキストを理解で して英語で発表できるよう指導して きるよう促し、それを自分の言葉と いる。話す道具としての英語だけに 田近裕子・津田塾大学教授「生徒

米国小説用い心も成長

TWhat season do you li-

を教材に活用。計8時間を費やし、 長にもつながれば」との願いから、 米国人作家オー・ヘンリーの短編 ず、「思春期にある生徒の心の成 に行った英語授業での取り組み。 教科書の読み解きにとどまら

発表させた。作品の流れを英語で どう思うかについて自らの言葉で ープ討論させ、その行動、真意を 生徒に登場人物の心情などをグル 表現する機会も設けた。

の英語授業は会話の実践を重視

し、言葉を交わす生徒の活気にあ

内貴真美子教諭が受け持つ1年生

京都府城陽市立北城陽中学校の

ause I like swimming. ke?」「I like summer bec

ふれている。

「英語で他の人々とつながる感

【最優秀賞選評】

偏らない大切な授業だ

田近裕子 津田塾大学教授

「生徒同士の話し合いでテキストを理 解できるよう促し、それを自分の言葉 として英語で発表できるよう指導して いる。話す道具としての英語だけに偏 らない大切な授業だ」

取り組みのねらい

英語教育を含め、言語教育は「その目標言語 を教育する」実践ではなく、「ことばの獲得を通し ての人格形成」に関わる実践教育である。なぜな ら、その「人」が生み出す「ことば」にはその「人」 の考えが刻まれており、その「人」自身から「こと ば」を切り離すことはできないからである。ことば の教育は、一人一人の中にある能力を可視化し ようとする試みではなく、より大きな視点での人 間の教育として考えられるべきである。

しかしながら、中学校の英語授業の第一の目 標が生徒の英語によるコミュニケーション能力 の養成だという認識が定着している。授業の中 で英語を使う割合が増加し、講義式授業から活 動型授業への移行、一斉授業一辺倒からペア・ グループ活動の利用が主流になっている。その 反面、運用力重視による思考力の軽視、流暢さ 優先による正確さの軽視、民間の資格・検定試 験対策偏重による授業内容の浅薄化など、コミ ュニケーション重視が易きに流れる傾向が懸念 される。そこで、義務教育修了を迎える中学3年 生の人格形成の契機となる授業の実現を目標に 掲げ、生徒に情動的痕跡を残すような読み物教 材を用いた授業を試みた。

取り組みの経緯

京都教育大学附属京都小中学校(平成29年 2月) の3年生3クラス83名を対象に、読み物 教材としてオー・ヘンリーのThe Gift of the Magi(邦題『賢者の贈り物』, Penguin Read ers Levellを授業者が加筆したもの)を用い た読解活動を全8時間の構成で行った。教材採

択の理由は、生徒に情動的痕跡を残す場面が盛 り込まれていることである。

What do we have here? The story of two people. They don't have a lot of money, but they have a lot of love. And now they are going to have a happy Christmas because they understand about special gifts. Everywhere, they are the wisest of all. They are the magi.

物語をしめくくる上記の「ことばの意味」を理解 すること、つまり自分のかけがえのない宝ものさ えも惜しまずに与える心、その心こそがかけがえ のない宝もの、いやそれ以上のものであることを、 読み取らせることが子どもの人格形成の契機と なると考え、授業を組み立てた。

文学教材は文脈がある中で語彙や構文を提 供することができ、子どもの記憶の把持に貢献す る利点を持ち合わせている。その一方で、リトー ルド版のテキストであっても、検定教科書に掲載 されている英文よりもはるかに長編であるうえ、 語彙、時制、文法構造などを含めた修辞的な視 点においても、中学3年生には骨の折れる読解 教材である。そこで、外国語で書かれた文学教 材の深い読みを促すために、以下の3つの工夫 を行った。

【外国語で書かれた文学教材の深い読みを中学生に促すための3つの工夫】

- ① 物語を6つの場面に分け、各場面を自分のことばで説明する活動を7日間、帯活動として行った。
- ② 授業の最終段階(8時間目)の活動として、以下の2つの問いを提示した。

「問1. デラがジムからもらったプレゼントを開封した後のデラがジムに伝えることば(セリフ) をその時の彼らの心情をふまえて考えなさい。」

「問2. ジムとデラにとってのspecial giftsの意味と彼らがMagiである理由を考えなさい。」

③ 4人及び5人構成の協同学習を取り入れた。

上記の①と②の学習活動を実施する前の段 階において、子どもの読みとりの程度を把握する ために、「The Gift of the Magiの主題(伝え たいメッセージ)を日本語で簡潔に答えなさい。」

という問いに日本語で答えさせた。個人の意見 を、3学級(A組、B組、C組)の6グループごと にまとめた結果を表1.に示している。

■ 表1. 深い読み活動に入る前(工夫①、②以前)の生徒の主題に関する読み取りの結果

A 組		B組		C組		
1班	夫婦愛と悲劇	1班	皮肉な結末	1班	行き違いのクリスマス	
2班	かなしいクリスマス	2班	クリスマスの悲劇	2班	かわいそうな夫婦	
3班	行き違い	3班	残念なプレゼント	3班	悲しいプレゼント	
4班	貧しさの中の幸せ	4班	夫婦愛	4班	愛と悲劇	
5班	恋愛物語	5班	報われないクリスマス	5班	大切なもの	
6班	悲劇	6班	後悔	6班	ジムとデラの宝もの	

物語の理解にとって重要なことは、そこに登場 してくる主要な人物ないしは人格化された事物 が、何をめざして、どういう意図のもとで行動を 展開しているのか、行動の背後に一貫性をもっ た形で貫かれているその意味を探り出すことであ る。そのためには、The Gift of the Magiの 作品を、生徒たちが主人公ジムとデラの行為の

意図や目標に注目して読んでいることが事実とし て存在しなければならない。しかしながら、次に 示す協同学習における対話には、深い読み活動 に入る前の子どもたちの読み取りの視点が「悲 劇」「皮肉」「かわいそう」「残念」「後悔」であるこ とが示されている。

深い読み活動に入る前(工夫①、②以前)の C組2班(男子C1、男子C2、女子C3、女子C4)の対話

C4:自分の宝物を失ったのに、何の役にも立たなくて2人ともかわいそう。

C1:たしかに、最悪。

C3:だけど自分の宝物を売るなんてすごい。

C2:ふつうできひんな。

C4:それが無駄になってしまったなんてかわいそうすぎる。

C3:ほんまにかわいそう。

C1:残酷な結末やな。自分なら耐えられへん。

深い読み活動に入る前の子どもたちは「自分 の大切な物を売ってまで買ったプレゼントだった のに、それが無駄になってしまった」ことに注目し ている。生徒 C 3 は、主人公ジムとデラが自分の 宝ものを手放す勇気に着目しているが、「何がジ ムとデラにそうさせたのか」という話し合いには発 展せず、気の毒な主人公像という表面的な事象 の理解に止まっている。仮に国語科のような母語 による読解活動であれば、主人公のとっている行 動の裏にある意図や目的を探ることができたの かもしれない。外国語学習における、読解過程 は、書かれた文字、単語といった言語的要素を 解読し、テキストの意味を最小の単位から最大 の単位へ向けて構築し、テキスト内の情報のみを 読み取る過程である。そこで、作品に込められた メッセージを読み取らせるために、「評価発問」を 投げかけ、作品の主題を読み取らせる指導を行 った。(工夫②)

「問1」 デラがジムからもらったプレゼントを 開封した後のデラがジムに伝えることばをその 時の彼らの心情をふまえて考えなさい。」、「問 2. ジムとデラにとっての"special gifts" の意味と彼らが "Magi" である理由を考えなさ い。」これらの発問はいずれもテキスト上には直接 示されていない内容を推測させるものである。ま た、情動的な意味構造の読み取りを確認する内 容でもあり、テキスト情報に対する読み手の考え や態度を表明させる発問である。テキストには必 ず主題があるが、主題は、テキスト上に直接述べ られていないことがよくある。そのため、テキスト に書かれている情報をもとに、テキストに込められ た主題を読み取らなければならない。つまり、テ キストには書かれていない場面や状況、登場人物 の行動や意図、人物の性格や心情・関係、行動 や出来事の結果、テキストにはない動作やセリフ などを推測させることによって、具体的に、かつ 深くテキストの主題を理解するきっかけをつくり出 すことができる。また、これらの発問には、子ども から異なる解釈や考え方を引き出す特徴があるこ とから、テキスト情報を読む子どもの動機を高め る、子どもの読みを深く豊かにする効果がある。

もう一つの工夫として、4人及び5人構成の 「協同学習」を取り入れた。(工夫③)母語ではな く、外国語で書かれた文学教材を読み解く学習 において、「協同による読解活動」は、創造性や 解決策の質を高めることが期待でき、効果的で ある。以下に、C組2班の「協同学習」における対 話の様子を示す。

「問1 デラがジムからもらったプレゼントを開封した後のデラがジムに伝えることばを その時の彼らの心情をふまえて考えなさい。」

C組2班(男子C1、男子C2、女子C3、女子C4)の対話(工夫①、②)

C4:ジムもデラも、相手が欲しい物を知っていたし、すごい。

C1:なんでわかったんやろ。

C3:夫婦やし、一緒に住んでるし、わかるんちゃう。

C1:夫婦でもふつうわからんやろ。

C3: それだけ好きなんやわ。好きやから、いつも相手が喜ぶことは何かって考えてたんやと思う。 好きな人に自分が何かして、相手が喜んでくれたら、自分もうれしいやん。お手伝いとかし て、親が喜んだら嬉しくなるのと同じやろ。

C2: ジムは、髪飾りをデラにつけてもらいたくて、デラの喜ぶ顔が見たくて大事な時計まで売っ て髪飾りを買ったのに、デラの髪の毛は短くなってしまったし、がっかりやで。

C1: a cry of joy and then a change to tears.やから、ジムからのプレゼントを開けた瞬間の デラは喜んでいた。ジムがどれだけ自分のことを好きなのかをデラはちゃんとわかっていた。

C4: デラも、ジムがどんな気持ちで時計売って、髪飾りを買ったのかわかっていたと思うし、ジム に対して申し訳ないという気持ちやったと思う。

C3:お互いがお互いを思い過ぎた結果で、相手の愛情の深さがわかって、無駄なようで、無駄じ ゃなかった。

間1について考える段階の前のC組2班の生 徒たちは、作品の主題を「かわいそうな夫婦」(P4. 表1)と捉え、気の毒な主人公像という表面的な 事象の理解に止まっていたが、協同で評価発問 を解いていく過程において、「ジムとデラの互いの 愛情の深さの読み取り」に成功している。まず、

生徒C4が「お互いの欲しい物を知っていた」こと に着目している。この発言を契機にして、生徒C 3が「相手のことをわかっているということは、相手 に対する愛情が深いということ」だと言う。さらに、 「相手の喜びが自分の幸せである」という解釈に 発展させる。C組2班の問1の解答を以下に示す。

2班

I can't believe my eyes! Thank you. How did you know what I have wanted for a long time?

I'm glad for your love, but sorry I lost my hair.

I'm very sorry for making you disappointed. You are the best for me.

英語科における読みの学習は、英語で書かれ た文章やことばを通じてある内容(意味)が提示 しているものを、読み手である生徒が文章やこと ばを通して受け止めて理解し、それに対する読み 手としての考えをもつようになる学習である。しか し、英語学習者は、内容の表面的な事象の流れ を理解できたことに満足してしまう傾向がある。 事実や出来事を表現する文章やことばが「ある

意味」をもっていることに少しでも気付くとき、文 章を読み込む面白さがわかってくる。そして、次 第に、作者が読み手に伝えようとして文章の中に 潜ませた「ある意味」を理解できるようになる。そ のときに、深い学びが実現するのである。

以下に、C組の他のグループによる協同学習 の意見をまとめたホワイトボードの内容を示す。

1班

Wow! You know that I have wanted these combs for a long time. ・・・・・ うれしそうに How stupid I am! 「なんて私はバカなの」 こんらん But I'm very glad and you are the love of my life. ----- 希望にみちあふれて

3班

Oh! Thank you for giving me these beautiful combs! I have wanted them for a long time.

But I can't use them for a while. I'm very sorry for making you sad.

4班

I'm happy to know how much you love me.

Oh, my goodness! How pretty they are!

I appreciate your kindness, Jim.

I'm so happy that you know what I have wanted for a long time.

My dream has just come true.

You always make me happy. But I got my hair cut short, I'm sorry I have hurt your feeling.

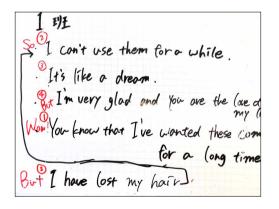
5班	
たなか	Wow! It's like a dream to have combs I have wanted for a long time 2
くどう	Oh, I have really wanted these combs 3
うりゅう	I'm very happy thanks to you. 6
いとかわ	I'm sorry I can't use them right now. Don't look so sad 5
かやもり	Oh! I can't believe, Jim
	I'm very happy for your understanding4

6班

Wow!

- 1 How beautiful they are!
- **3** My hair is gone! I'm so sorry for hurting you.
- 4 I can't use them now, but these combs are my NEW treasure instead of my hair.
- 2 I can't believe my eyes.
- **5** Thank you for your kindness. I'm so happy.

いずれのグループも、間1について考える段階 前の読みとは明らかに異なる読みとなっている。 作品と対峙したときに子どもの中に起きている読 解の修正・変容、そして読解の成立過程に影響 を及ぼした一つに「協同的な読み」(工夫③)があ げられる。子どもたちは、この作品を8時間にわ たる授業の中で教師や教室の子どもたちと一緒 に読み、考え、そして話し合いをしながら自分な りのひとつの読みにたどりついていく。特に、4人 ないし5人のグループにおいての相互作用のな かで、認知的葛藤と相互作用の活動(同意や反 対の意見、質問、説明の発生)が起き、それら が学習や理解の促進に直接つながるようなクリ ティカルな情報の想起となったことが深い読み への変容につながっている。また、主人公ジムと デラが宝ものを手放した動機をどう解釈するか



に関わる自分の考えや意見を母語で表現する活 動をした後には、それを外国語で、しかもデラの セリフという形で創りあげなければならない。英 作文の語彙選びや表現等の工夫など、主知的な アプローチが必要とされる活動において、協同で 作文を作成することはきわめて効果的であった。 お互いが質問と説明をし合い、また作りあげた内 容についても相互批判をしていくことにより、より 洗練された作文内容を作ることができた。また、 子どもたちの話し合いが混乱したり、まちがった 理解のままでいたりしたときなどは、教師から適 切な指摘と提示があったことも、子どもたちが読 みの視点を何度も見直し、変更・修正をかけ、 確信を深めていくための要因となっている。

しかしながら、間1について考える前に投げか けた発問「The Gift of the Magiの主題(伝 えたいメッセージ)を日本語で簡潔に答えなさ い。」においても、個人で考えさせた後、短時間 ではあるが、同じグループで交流をしている。(工 夫③) 英語教材の内容をどのように生徒に深く 理解させ、テキスト内容をもとにどのように子ども たちの意見や考えを英語で表現させるかという 課題に対応する指導手段の一つとして教師によ る発問(工夫②)がある。これは、テキストの表 面的な意味理解にとどまらず、テキスト主題や筆 者の意図を深く理解させたり、テキスト内容に対 する生徒の考えや意見を述べさせたりする指導 が、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を重 視する言語指導の一環として求められるようにな ったことが背景にある。しかし、そのような発問 (工夫②)と協同的な学習(工夫③)を取り入れた としても、英語による作品の表面的な理解(単語 の理解や構文の理解等)と音読練習を終えただ けでは、深い読みにはつながらず、「表1. 深い 読み活動に入る前の主題に関する生徒の読み取 りの結果」が示すように、気の毒な主人公像とい う表面的な事象の理解で終ってしまう。そこで、 間1及び間2の「評価発問」を提示する前に、登 場人物を自分の側に引き寄せて、物語を読んで いる自分の気持ちに一体化させることを試みた。 具体的には、読んでいる対象の立場に読み手で ある子どもたちが立ち、自分たちの側から対象を · What did Della say? ·

Wow! How nice it is! They are thing what I've wanted for a long time I'm glad for your love. Thank yo But sorry, I lost my hair. S. can't use them

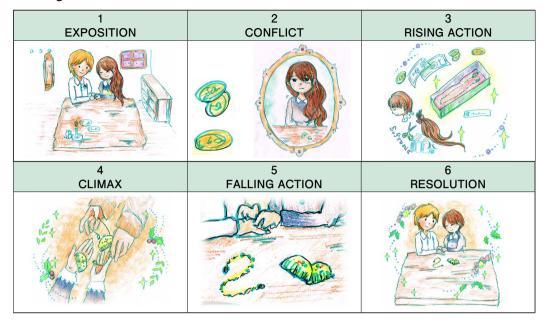


a Thork you for giving me gift 3 I've wonted them for along time. I'm sorry for moting you sad."

客観的に見る活動である。(工夫①) 作品を6つ の場面に分割したプロットダイアグラムを作成 し、各場面を表している授業者が描いた挿絵と キーワードをもとに、自分のことば (英語)で作品 の流れを説明する活動を、帯活動として毎時間 取り入れた。指導手順は、[1] 挿絵のみを見 て、その場面を英語で説明する。その後、[2] キーワードを用いて英語で場面説明を行う。最 後に、「3]場面描写の模範英文の提示を行い、 模範英文を口頭練習するという流れで帯活動を 7日間、行った。後半の4日間は、[1] 挿絵の みによる口頭練習を帯活動とした。母語とは異な り、外国語の学習は、表象を意識して自覚的に 随意的に操作しなければならない。この活動は、 読みを深めるだけでなく、「言語的思考」を促すこ とにも寄与している。以下はその教材である。

■【ペア学習で使用した絵カード】※実際には6枚のカードになっている。

Plot Diagram



6つの場面の内訳は、「1 EXPOSITION: 物語の基本となる解説、2 CONFLICT: 問題 に直面、そして葛藤・苦悩、3 RISING ACT ION: 問題解決に向けた勇気と行動、4 CLIM AX:物語のクライマックス(見せ場)、5 FALL ING ACTION:冷静な判断、6 RESOLUTI ON:解決」として提示した。以下の写真はキーワードを示している板書である。

■【キーワードの板書】



毎時間の冒頭で、授業者が復習としてストーリーに関する質問をしており、その時の生徒の答えをキーワードとして黒板に提示している。その後、

ペアで6つの場面の挿絵を表す英文を互いに言い合う活動を取り入れた。

第1次世界大戦以前の裕福な国とは言えない

アメリカで質素な生活を送る若い夫婦ジムとデラ を理解した上で、自分が彼らに寄り添って考える ことにつながる活動となっている。何度も何度も 繰り返して読むことだけでなく、何度も何度も繰 り返して自分のことばで物語を語ること(工夫①)によって、最初は気が付かなかった細かい表現 や登場人物の心の動きが見えてくるようになり、 この作品の描写の特徴である「具体的な数字と 色彩」をつかむことを可能にした。教材は、ただ 単に「貧乏だった」というような書き方ではなく、 具体的な数字が繰り返される。時間や時刻につ いても具体的な数値で表されている。また、読 む人がイメージを描き易く、しかもその場の雰囲 気もよく分かるような色彩を効果的に用いた表 現がいくつか見られる。そのひとつに、She sees a gray cat which has large gray eyes. It is walking on the gray wall.という表 現があげられる。この一文から子どもたちは何を 読み取ればよいのか、察しがつく。自分のことば でThe Gift of the Magiを語る活動を重ね ながら、登場人物であるジムとデラに対してより 一体感を持ち、その一体化を自分に引き寄せて 考えているために、自分の疑問と作者オー・ヘン リーが提示したアイロニーの自分なりの解釈が 全面に出てくるのである。 つまり、 登場人物 (読

んでいる対象)への単純な感情移入ではなく、自分の方へ引き寄せて一体化する場合があり、意識において登場人物の状況設定に納得することによって対象への一体化ができることもあり、そして自分の状況とはまったく別の物語の状況を理解しながら、気持ちを寄せる対象への一体化があるということである。このように、読み手としての意識が働いている状態になったところで、「評価発問」を投げかけることに意味があり、それについて他者と対話する中で子どもたちを深い読みへと導くのである。(工夫①、②、③)

子どもたちは、教室の中の話し合いを通して自己の「読み」を深め、あるいは修正を加えていた。物語を読み進めることは、読者の独自の解釈と意味の構築作業である。作者の声を自分の中に引き入れ、次のあらたな自分の声として出していく創造的な活動である。そのような活動の中に教育課程の基礎であるべき情動的反応が生じるのである。The Gift of the Magiを協同で読み進める活動が、子ども達に情動的痕跡を残す経験となり、人格形成の契機につながったということを最終課題「問2. ジムとデラにとっての"special gifts"の意味と彼らが"Magi"である理由を考えなさい。」に関する子どもたちの話し合いのメモが示している。

1班

The special gift is selfless Love.

บริเวา They feel happy when their partner is happy. Their life is full of love.

うの:They can find their happiness by living together even though they're poor.

いいの: Both of them can sacrifice everything for their love.

Money is important, but sharing happiness is the most precious.

Therefore, Della and Jim are the wisest of all anywhere.

2班

The special gift is unconditional Love.

Nothing is more important than their partner's smile.

They make sacrifices to keep (make) their partner happy.

Therefore, Della and Jim are the wisest of all anywhere.

3班

Special gift is Kindness.

They always think of each other.

For example, Jim works very hard for Della.

And Della always encourages Jim who is tired.

It's important to understand each other.

Therefore, they are the wisest of all.

4班

The special gift is compassion.

Devotion is when they think about the other more than themselves.

The true gift is a feeling to wish for the other person's happiness.

Therefore, Della and Jim are the wisest of all anywhere.

5班

The special gift is great love.

くどう Their own partner is more important than themselves.

うりゅう Always both of them want to make the other happy and they will do anything for your partner's happiness.

いとかわ They can sacrifice themselves for partner's smile.

Being together is very valuable for them.

Therefore, Della and Jim are the wisest of all anywhere.

6班

The special gift is pure love.

They always think about their partner more than themselves.

Both of them want the other to be happy.

Happiness is felt by making other people happy.

Therefore, Della and Jim are the wisest of all anvwhere.

結果 3

「教師は、あれこれの知識を伝える前に、生 徒にしかるべき情動を引き起こし、この情動が、 新しい知識と関係づけられるように心がけねば なりません。生徒の感情を経由した知識のみが 定着できるのです。」(ヴィゴツキー、2005)子ど もの人格形成の契機となるような情動的に色づ けされた授業を展開することが英語科教育の真 の姿にほかならない。よって、情動的で、子ども に強い鮮明な感情を目覚めさせ、それを意識さ せるような言語活動が英語科教育には求められ るのである。

The Gift of the Magi、全8時間の授 業を終えた子どもたちのことばを本レポートの結 語とする。

「ジムとデラの心情を読み解いていく内 に、物語に込められた多くの大切なことを学 ぶことができた。心の底から相手のことを思 って買った物はプレゼントであること以上に



「愛の証」という大きな意味があり、その互 いの気持ちがジムとデラを幸せにした。本当 に大切なものは目に見えるものではなく、人 の心にある「あたたかい気持ち」「思いやり」 であると感じた。英語の授業で学んだことを 心に留め、どんな時も「思いやり」のある行 動を大切にしたい。」(男子)

「始めて読んだとき、かわいそうとしか思 わなかった。くり返し読んだり、ペアでスト ーリーの説明をしたりするうちにジムとデラの 「幸せ」がわかった。高価なプレゼントその 物よりも、その時の相手を思う気持ちや互い の愛情を感じたことが嬉しかったことがわか った。」(男子)

「互いの宝物を失い残念な話だと思ったけれど、何度も何度も読んでいく内に、残念な出来事があったからこそさらに愛が深まり、お互いのことをさらに理解できた。この物語はジムとデラの愛情が描かれているだけでなく、相手を思いやる気持ちが幸せを生むということを伝えていた。」(女子)

「ヘンリーの小説どころか、外国文学に触れたことがありませんでした。素直に感動しました。この小説が伝えたかったことのひとつとしてジムとデラの崇高な「自己犠牲」の精神があります。この学習を終えて、他人のために損得抜きで行動できる人間になりたいと思いました。」(女子)

「2人共がどうにかして相手を喜ばせようと努力したことが素敵だと思った。ジムが帰ってきて、髪が短くなったデラを見て、呆然とする場面ではハラハラしたが、その裏には理由があったことがわかり、読み終わった後とてもハッピーな気持ちになれた。」(男子)

「貧乏でもお互いに愛し合うことができると、幸せになることができます。そして、お互いのために、自分の大切な物を犠牲にしてでも、相手を笑顔にしたい気持ちが、お互いをさらに幸せにします。プレゼントはお金で買うことができても、「思いやりの気持ち」はお金で買うことはできません。お金よりも「思いやりの気持ち」の方が本当に大切なものだと思いました。」(女子)

参考文献

- Henry, O. (2008). The Gift of the Magi and Other Stories, Essex: Pearson Educ ation Ltd
- ◆ 土井捷三(2016).『ヴィゴツキー「思考と言語」入門』大津:三学出版
- ・ ヴィゴツキー,L.S.(2012).『人格発達の理論』土井捷三・神谷栄司(監訳)大津:三学出版
- ヴィゴツキー,L.S. (2005).『ヴィゴツキー教育 心理学講義』柴田義松・宮坂琇子(訳)東京: 新読書社
- ヴィゴツキー,L.S.(1983).『精神発達の理論』柴田義松(訳)東京:明治図書
- Vygotsky, L.S. (1987). Thinking and Speech. In R.W. Rieber & A.S. Carton(Eds.), *The collected works of L.S. Vygots ky, vol.1: Problems of general psychology* (pp.37-285). New York: Plenum Press. [柴田義松(訳)(2001)『思考と言語』東京:新読書社]

謝辞

本実践報告の執筆にあたって、京都教育大学 附属京都小中学校69期生(現高校2年生)83 名の授業記録が貴重な資料となりました。彼、 彼女たちと出会い、ともに学ぶことができたことに 感謝するとともに、83名の生徒たちを心より誇り に思います。附属京都小中学校69期生の中学 校生活3年間を通して、学級担任、及び英語科 担当教員として、教科授業だけでなく、道徳、 学活、行事、部活動、そして日々の学校生活を ともに過ごす中で生まれたのが卒業年次のThe Gift of the Magiの、全8時間の授業でした。 この授業に至るまでの2年9か月の子ども達の 英語学習における努力は相当なものであり、感服 しています。また、保護者の皆様には、私の教 育活動を理解していただき、深く感謝いたしま す。授業者と生徒たち、そして保護者の皆様と の間に育まれた信頼関係があったからこそ、3年

間、週4時間の英語学習が実りある時間になったと確信しております。

教育という営みには、また教育に携わる人間には、認識論的な問い(epistemological inquiry)と存在論的な問い(ontological inquiry)が必要であることを教えてくださったのは、京都教育大学英文学科教授の西本有逸先生(英語教育学・ヴィゴツキー学・バフチン研究)でした。外国語としての英語の理解や産出を扱う認識論だけでなく、人間の存在や人格発達に英語科教育がどのような貢献を為し得るのかを身体・言語・情動・人格を基軸に質的に考究することの必要性に目を開かせてくださった西本有逸教授に感謝の念を表明させていただきます。

2018年9月 内貴 真美子

チームで挑む! 高校における授業改善





福井県立武生高等学校「授業改善プロジェクトチーム」代表 武生高等学校 教諭

つじさきちひろ辻崎千尋

1975年生まれ。1998年3月京都女子大学文学部国文学科卒業。1998年4月福井県立羽水高等学校勤務(非常勤講師)、1999年4月福井県立敦賀高等学校勤務、2002年4月福井県立鯖江高等学校勤務、2012年4月福井県立武生高等学校勤務。2018年4月より福井大学連合教職大学院ミドルリーダー養成コース在学中。現在に至る。連絡は福井県越前市八幡1-25-15の同校まで。

第67回 読売教育賞から

【カリキュラム・学校づくり】



生徒と議論する古文の河崎 教諭(中央左寄り)と、地 学の奥村教諭(中央奥)(7 日、福井県立武生高で)

福井県立武生高校で11月上旬、「古文に見る地学現象」と題した「古文に見る地学現象」と題した「古文に見る地学現象」とをば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」を取り上げ、古文をば知りける」と地学の奥村貢かったんだろう」と地学の奥村貢かったんだろう」と地学の奥村貢かったんだろう」と地学の奥村貢が、古文に関する。

カリキュラム·学校づくり 最優秀賞 福井県立武生高校授業改善プロジェクトチーム

の枠を超えた交流が魅力的なアイ

代表の辻崎千尋教諭(名)は、「科目に参加していた」 と話し、 チーム言が少ない生徒が生き生きと議論

デアを生んでいる」と胸を張った。

た実例としても高く評価できる」と実例としても、生徒の学びの改革を実現しりても、生徒の学びの改革を実現しりても、生徒の学びの改革を実現しても、教科の枠を超えベテ事例の一つだ。教科の枠を超えベテ事例の一つだ。教科の枠を超えベテをの授業改革における卓越した実践校の授業改革における卓越した実践をの機能がある。

まさご用がこせました。 2017年2月、授業での取り楽しい」と笑顔を見せた。 (17)は「いろんな知識が得られて

教科

の枠超えた授業

2017年2月、授業での取り 2017年2月、授業での取り

【最優秀賞選評】

佐藤 学 学習院大学特任教授

「高校の授業改革における卓越した 実践事例の一つだ。教科の枠を超え ベテランと若手が学び合う教師の研 修としても、生徒の学びの改革を実現 した実例としても高く評価できる」

はじめに ~『2020年の大学入試問題』~

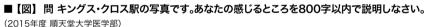
おそらく、「変わらないといけない」と漠然と私 が思い始めたのは平成28年の4月だったかと思 う。きっかけは地歴公民科のA先生との雑談だ った。A先生から『2020年の大学入試問題』(石 川一郎 著、講談社現代新書)という本を紹介 していただいた。2015年度順天堂大学医学部 で出題された小論文の問題 (下図) が刺激的で 「これをどうやって指導するのか?」と2人で盛り 上がった。課題文やグラフを読み解くのではな く、1枚の写真や絵を見て、知識や論理性はもと より、発想の豊かさや独創性を求められ、ひいて は論の着地点まで委ねられる。出題の変化にと もない指導も変化すべき、ということでA先生は 現代社会の授業 (1年生) で、私は国語総合の 授業(1年生)でそれぞれ時事問題を扱うという チャレンジをすることになる。これが私の授業改 善の第一歩だった。

それでも当時は、「2020年なんてまだ先のこ と「新テスト(=『大学入学共通テスト』当時はま だ仮称であった。) なんてまだ何も決まってない し。」というぐらいにしか思っていなかった。しか し、時を同じくして小論文をはじめ、国公立大学 入試の二次試験で新傾向の問題がちらほら話 題に上がり始めた。

それらのほとんどは知識や表面的な理解だけ で得点できるものではなく、自分の考えを論理的 に説明する記述力を求めている問いであった。

「授業改善プロジェクトチーム」

平成29年2月に「授業改善プロジェクトチー ム」(以下、PT)を有志で立ち上げた。大学入試 センター試験の内容が変わること、高校の指導 要領が変わることが発表されたこと、本校のSSH (Super Science High school) O 第3期申請の時期が重なったこともあり、メンバ





ーと役割も決め管理職にもプレゼンし、了承を得 た。当時はこれからの高校教育がどう変化してい くのか、という不安といままでの授業の方法では だめだという危機感しかなかった。

すでに校内には若手を中心としたチーム(通称 「B活」:Bは「武生高校」の通称「ぶこう」のB。 授業のことや学校生活における悩みなどを話し 合う活動。)が存在しており、そこを母体として、 リーダーの私 (国語科・40代)、顧問のA先生 (地歴公民科・50代)、アドバイザーのT先生(地 歴公民科・40代)と「B活」メンバー12名の総 勢15名でスタートを切った。メンバーの内訳は 50代2名、40代が2名、30代が4名、20代が 7名である。教科は国語、地歴公民、数学、英 語、理科、保健体育、家庭科であった。

主な活動目的は、大学入学共通テストや新指 導要領に対応した教師の学力観、第3期SSH を見据えた新たな学力観の育成である。具体的 には「アクティブ・ラーニングの導入・研究」「ICT を活用した授業実践「教科横断型授業の実践・ 研究」に取り組む。主な活動内容としては次の4 つである。

- 毎月1回のPT会議にて授業実践報告 や自主研修を行う。(放課後1時間程度)
- 2 毎月の職員会議で5分いただき、授業実 践報告を行う。
- 3 授業実践を公開することで、新たに指導 力・指導観を養う。
- 4] 年間の取り組みをまとめ、活動記録を 作成する。(資料①)

ちなみに、本校は福井県のほぼ中央に位置し、 生徒数が1学年約320名で毎年国公立大学合 格者数がほぼ200名を超える県内有数の進学 校で、平成30年度には創立120年を迎える。 これまでの諸先輩方が、私たちの想像をはるか に超える教材研究と熱意で挙げられてきた圧倒 的な実績を見て、今までの教授法を否定しような ど微塵も思っていない。そのノウハウも継承しつ つ、これからの大学入試がひいては日本社会が 求める資質・能力を生徒に身につけさせるために はどうしたらよいか、ということをチームで考える のである。私たちは、「アクティブ・ラーニング」= 「話し合い活動をさせればよい」とか、「ICT機器 を利用した授業」=「パワーポイントを作ればよ い」という考えが授業改善につながるとは思って いない。「どのような問いが生徒の深い学びにつ ながるか」、「考えるとはどういうことか」を授業で 追究している。また、この授業改善は、教師の 自己満足に終わるものではなく、生徒の進路実現 を支えるものでなくてはならない。そして、将来 にわたり自ら学び、思考し表現するためのもので なくてはならない。活動の根底にあるものは、教 師の意識の変革を授業改善につなげ、最終的に は生徒の資質・能力に環元することである。この 点については、チームの中で共通認識として共有 されている。

教師たちの輝き

~1年目(平成29年度)~

〈若手教師たちの意欲と変容〉

立ち上げた当時を思い起こすと、今までそんな に深く関わってこなかった40歳を過ぎた女性教 師が、いきなり若手教師たちを集めて、「これから こんなチームを作るから」と宣言するのである。若 手教師たちにしてみれば、「そんなこと急に言わ れても」となるのが当然だ。しかし、わけもわから ないまま巻き込まれた若手教師集団は、その後 その能力をいかんなく発揮することとなる。

平成29年5月のPT会議の研修テーマは「教 科横断型授業について考える!」であった。教育 関係の研修や雑誌などで「教科横断型」の実践 事例を目にする機会が増えたが、なかなか普段 考えないことなので、ざっくばらんにグループワ ークを用いて話し合ってもらった。「地学の環境 問題と現代社会のコラボで環境問題が及ぼす 社会的影響の理解を深められないか」や「生物 の遺伝子操作と化学物質、そこに家庭科をから められないか」というような話題が挙がった。そこ で物理教師・〇先生と世界史教師M先生、〇先 生と数学教師・I先生の20代トリオが動く。ロー マ時代の建築物をテーマに物理と世界史で、微 分積分に関する内容で物理と数学で教科横断 型の授業実践をやってのけたのである! 彼ら は題材選びに苦労していたが、臆せず新しいこと にチャレンジする姿勢は貴く頼もしい。そして、こ のトリオの挑戦は次年度も続くことになる。

この教科横断型授業を実践した後、物理の〇 先生は、生徒の深い学びについて、いろいろな 手法を試していくようになる。何か新しいことがわ かると、私に報告してくれる。「先生、今度、PT で実践報告していいですか?」「先生、生徒がこ んなふうに反応したんですよ」「先生、感覚で問 題が解ける生徒と、パターンにはめないと解けな い生徒の違いはなんですかね。」など。彼の新し いチャレンジや、試行錯誤の様子、うまくいった ときの喜びを共有できる「場」がこのチームであり たいと思う。

国語科のK先生は、3年目の女性教師であ る。彼女が、3学期に前出の地歴公民科のA先 生の公開授業を参観した。「性善説VS性悪説」 について生徒に討論させる授業だったのだが、 それを見た彼女はすぐに自身の担任するクラス で、討論の授業を行ったのである。「ああいう授 業したい」と思いながらもなかなか実践できずに

終わる、というのはよくあることだが、すばやく実 践した行動力は素晴らしい。

保健体育科のM先生は、1学期の終わり頃か ら、チームに加入してくれた。ちょうど中堅教員 研修の年であり、「何かしないといけないので」と 自主的な参加であった。3年担任という多忙な 時期であるにもかかわらず、7月に県内の女性体 育教員を本校に招いて、普段の授業について話 し合う機会を設けるなど精力的に活動した。

家庭科のK先生は、授業にいちはやくICT機 器を取り入れた教師の1人である。校外に向け た公開授業の経験もあり、ICT機器の効果的な 使用方法をPT会議のときに教えてくれる。機器 に弱い先生方(私を含め)のフォローを自ら買っ てでてくれた。PT会議や職員会議での報告で要 領よく進行できるのは、彼のおかげである。

採用1年目の英語科のS先生と理科(化学)の T先生も積極的である。英語のS先生は7月の PTで、化学のT先生は9月のPTで1年目なが ら、自主的に授業実践報告をしてくれた。先輩 たちを前に、緊張したと思うが、気持ちのこもっ た報告と、そのあとの質疑応答も誠実にこなして いた。十分称賛に値する。

〈ベテラン教師からの学び〉

若手だけではない。40代・50代のベテラン教 師の存在はこのPTには欠かせない存在となっ た。

地歴公民科のA先生は、チームの立ち上げ時 に大変お世話になった。「自由にやればいいよ。 何かあったら、一緒に頭さげるから。」と言ってく ださった。また「何か新しいことをやりだすときは ドキドキするね。」という言葉をかけてくださった のだが、その言葉が私の背中を押し、チームを 立ち上げるという大きな一歩を踏み出すきっかけ となるのである。そういう経緯もあり、顧問をお 願いしたら即決・快諾してくださった。A先生は この年、だれよりも多くの公開授業を実施するこ ととなる(計8回)。

また国語科のT先生は博識で、大学入試問題にも精通しておられる。その先生が、何回目かのPT会議でこうおっしゃった。「出たくない会議(=重要性を感じない会議)はたくさんあるけれど、授業に関するこの会議は一番大事だと思っている。」お忙しいにもかかわらず、非公式のこのPTに出席してくださり、穏やかながらも鋭い視点で、私たちが誤った方向にいかないように見守ってくださっている。平成29年4月のPTで私が授業実践報告をしたときのことである。「生徒が解きたいと思う問題は、まだ自分には答えが解らない問題で、それでいて解りたいと思える問題だ。」というアドバイスをいただいた。つまり、生徒は自分がすでに理解済みの問題や、あまり関心がない問題

を与えられたりしても、考える意欲を持たないということである。それがきっかけで、6月のPTの研修で『生徒が深く考える「問い」について考える』をテーマにしてメンバーで議論した。あのPT会議から、「PT会議」という「場」が、大事なことをみんなで再確認できる「場」となったと感じている。

アドバイザーをお願いした世界史のT先生には、1年間通して「BUKO Active News」(下写真、資料②)を作成していただいた。公開授業があれば、カメラ持参で授業を参観し、新聞記者よろしく記事を書き、PT会議の内容と写真は会議が終わると同時に出来上がっている。この通信を校外の人に見せると必ずお褒めいただける。授業を見ていない他者に、授業の内容をどう伝えるか、という見本を私たちは教えていただいた。なお、この通信は校内メールで配信し、本校HPに掲載している。



この年の11月、チームのメンバーはほぼ全員 が、「公開授業・研究協議会」に果敢に挑戦し、 (資料③) それまでの取り組みの成果を発揮し、反省し、

再びさらなる高みを目指すことになる。

■ 平成29年度 授業実践報告内容

月	実践した授業(※は公開授業)	教科(科目)	学年	授業者	<u>:</u>
4	傍線部をつくって解説	現代文	2	辻﨑	千尋
	コミュ英でICT活用	コミュ英	1	磯野	和之
5	ちょっとだけActiveな授業	数学	2	今川	大輔
	生徒が教壇に立つ古文の授業	古典	3	前川	法央
6	原子とイオンの半径	物理	1	小原	崇裕
7	学んだことを手紙で表現 ~ビデオレターを使って~	英語	1	鈴木	和尭
9	遠隔システムを用いて	物理	3	小原	崇裕
	濃度計算を調整の実験に生かす	化学	1	谷口	渓
10	人はなぜ戦争をするのか	現代文	2	辻﨑	千尋
	主体的で、思考を深める実験	化学	3	谷口	渓
11	建築史と物理学	物理	2	小原	崇裕
	连宋文 2 彻 连子	世界史		室井	浩貴
	微分積分を考える	物理	2	小原	崇裕
	図が慣りで考える	数学		今川 :	大輔
1	性善説VS性悪説※	現代社会	1	相道	孝志
	小論文指導※	現代文	2	辻﨑	千尋
2	今回の豪雪を教材にして	現代文	2	辻﨑	千尋
	生徒会会計での運動部予算の決め方※	現代社会	1	相道	孝志
3	評価について考えてみる	現代文	2	辻﨑	千尋
	未来年表をみて2050年のマニフェストをつくる**	現代社会	1	相道	孝志

■ 平成29年度 PT会議研修内容

月	研修内容
4	生徒に身につけたい力は?
5	教科横断型授業について考える!
6	生徒が深く考える「問い」について考える
7	1学期を終えて
9	ICT機器講習会
10	金沢大学入試問題例検討
11	(公開授業のためおやすみ)
12	「大学入学共通試験」試行問題の分析
1	2018年度大学入試センター試験の傾向
2	変化する大学入試に備えた指導について
3	今年度の取り組みの反省

■ PT会議での授業実践報告の様子



■ PT会議での研修の様子



教師たちの変容 ~2年目(平成30年度)~

〈若手教師の成長と熱意〉

昨年、物理×世界史、物理×数学の教科横 断型の授業実践をしたトリオのうち、物理×世界 史ペアが、今年度1学期末に授業を公開した。 世界史のM先生の授業を参観させていただい たが、昨年とは比べ物にならないほどの成長を 遂げていた。説明の仕方にも余裕が感じられ、 適度な間も聞き手を安心させる。M先生も終始 笑顔で、生徒とのやりとりもスムーズに行われて いた。私自身が、授業を公開したことで大変勉 強になったという経験をした。授業の公開・参 観による「若手育成」が、うまく機能するとよいと 思う。

数学のT先生は、芯のある根気強い女性教師 である。平日の朝や放課後、特に考査前になる と生徒につきっきりで数学の問題を教えている。 今年6月の「BUKO Active News」作成 担当をお願いした。(今年から通信は担当を決め て作成している。) 6月は数学のN先生が2年生 の2クラスで公開授業をしてくださった。通信担 当はT先生を含め4人だったが、他の先生方は 自分の授業等で参観できなかった。「2時間とも 参観できたのは私だけなので、記事は私が書き ますね。」と言いながらビデオ撮影・写真なども含 め、意欲的に通信作成に携わってくれた。生徒 に接するのと同様、真摯な姿勢だと感じた。

地学の若手教師・H先生は、向上心あふれる 努力家である。地学という科目の特性もあり、授 業における「深い学び」について常に考えをめぐ らせていた。今年2月、福井県は約30年ぶりの 大雪に見舞われた。また、6月には大阪北部地 震、7月には西日本で豪雨災害があった。その 経験から、「災害」をテーマに授業を組み立てよう と自治体から資料を集めたり、生徒にアンケート をとったり意欲的な活動を行っている。何より彼 女は、常に授業について先輩教師と意見を交換 しながら進めている。見習うべき姿勢だ。

〈ベテラン教師に支えられる意義〉

今年度より顧問をお願いした地学のベテラン 教師、〇先生は、常々、古文と地学の教科横断 型授業を実践したいと考えておられ、今年とうと う実現した。古文 (『明月記』 『枕草子』) の天文 学に関する記述内容を地学で既習した内容から 考えさせるというものだった。

授業実践後のPT会議で穏やかな笑顔で「長 年の夢がかなった」とおっしゃった〇先生。その 日のPT会議では、教科横断型授業の話題で盛 り上がった。地歴公民のA先生も触発され、「誰 かとやりたいな」とつぶやかれた。このように、若 手も中堅もベテランもみんなが刺激しあうチーム でありつづけたい。

O先生をはじめ、ベテランの先生方に支えられ て、有意義な活動ができていると感じている。私 たちは、まだまだベテランの先生方の技術や熱意 から学ぶことは多い。

実践と理論から学ぶこと

そもそも、高校の教育現場は小・中学校と比 較すると校内における授業研究会も校外の研修 を受ける機会も少ないと思われる。福井県に限っ たことかもしれないが、「高校」という文化は専門 性が高くなるからか、良く言えば授業は教師個人 の能力に委ねられるという点で自由度が高く、悪 く言えば他人の授業には全く関与しないという点 で閉鎖的である。高校で同じ教科であれ他教科 であれ、お互いの授業を参観しあう、ということ

がないわけではない。しかし、自主的に効果的 に行われてきたか、と問われると私は今までの教 師生活を振り返って、肯定しかねる。

そのような状況にあり、わたしたちの活動を他 校の先生に話すと、まずはびっくりされることが 多い。また、本校の教頭に「このような活動を継 続できる秘訣みたいなものがわかって、うまくまと められるといいね。」と言われたことがあったが、 その時は、秘訣など思いつかなった。

しかし、ここで1冊の本と出合う。『コミュニテ ィ・オブ・プラクティス』(翔泳社 エティエンヌ・ ウェンガー、リチャード・マクダーモット、ウィリ アム・M・スナイダー 著、櫻井祐子 訳) とい う世界トップクラスの企業経営者たちが薦める 「コミュニティ」の存在や役割の重要性を説いた 書籍だ。

以下、『コミュニティ・オブ・プラクティス』の第 2章「実践コミュニティとその構成要素」、第3章 「実践コミュニティ育成の七原則」と本校の「授 業改善プロジェクトチーム」の実態とを照らし合 わせて考えてみたい。

まず、本書の第2章では「実践コミュニティ」 について次のように著している。「実践コミュニテ ィには多様な形態があるが、基本的な構造は同 じである。実践コミュニティは、次の三つの基本 要素のユニークな組み合わせである。一連の問 題を定義する知識の領域、この領域に関心を持 つ人々のコミュニティ、そして彼らがこの領域内 で効果的に仕事をするために生み出す共通の実 践である。」私たちのPTをこの「実践コミュニテ ィ」にあてはめると、「授業改善に関わる方法・技 術・知識など」が「領域」となり、PTのメンバー が集まる場が「コミュニティ」となり、授業実践が 「実践」となる。その「コミュニティ」が活気を持 つためには、第3章では「一連の設計原則が必 要」であり、『定義上、自然発生的で自発的で自 律的なものであるはずの「人間の作った機関」を 設計する、とはどういうことなのか。そのような特 性をもった機関に、自らの能力を体現させ、「生 命」を持たせるように導くにはどうすればいいの だろうか。われわれは経験から次の七原則を引 き出した』と説いている。(以下、太ゴシック体は、 『コミュニティ・オブ・プラクティス』からの引用 である。)

1. 進化を前提とした設計を行う。

「コミュニティは発展を遂げるために、メン バーが以前から持っていた個人的な人脈を 活用することが多い」

もともと、本校には若手中心の勉強会(学期に 数回集まり、授業のことや、学校生活での悩み ごとを話す会)が存在していた。これとはまた別 のチームを立ち上げると、何かと面倒で多忙化に もつながりかねない。母体は若手中心のチーム に、私たち中堅やベテランが加入する、という形 をとった。

「コミュニティが成長するにつれて、新しいメ ンバーが新しい関心を持ち込み、コミュニテ ィの焦点をそれまでとは異なる方向に向け て引っ張ることがある」

1年目と2年目では、メンバーは変化している。 若手を中心にもともと本校に在籍していた教師 にも声かけし、異動してきた教師にも声かけし た。全国発表や県の発表を控えていたり、経年 研修等でレポートを書いたり、話題の提供を求め られたりする中で、何かの一助になればよいとも 考えている。平成30年度は、新メンバーが5・ 6月に公開授業をし、早速新しい刺激を与えてく れた。

2. 内部と外部それぞれの視点を取り入れる

「優れたコミュニティを設計するためには、コミュニティの本質を見抜くことができる、部内者の観点が不可欠だ」

国語科・T先生の存在は大きい。それぞれの授業実践報告について必ず質問をし、意見を出すことで、PT会議の議論が活発になり、議論の的が絞られる。決して感情的になられたり批判的な発言をされないので、若手の教師も委縮せず発言できる。

「優れたコミュニティ設計を行うためには、知識を開発し世話する潜在能力がコミュニティにどれほどあるかを理解することが大事だ。 メンバーがこの可能性を理解するためには、部外者の視点を取り入れなくてはならない」

この「部外者」の定義が、私には判断しかねるところである。おそらく、自分たちのチームや活動内容を客観的に見ることができる視点、ということなのだろう。現在の教育の問題点がどういうもので、日本の教育がどこに向かおうとしているのか、日本や世界の情勢がどんな状態で、今、何を欲しているのか、ということに通じた方の視点を取り入れる必要性は強く感じる。校外の方とのつながり、という点においては、PTに限らず、教師個人としても生徒にとっても価値のあることだ。今後の検討課題である。

3. さまざまなレベルの参加を奨励する

「第一はコミュニティの公のフォーラムで行われる議論に積極的に参加する、少人数の 『コア・グループ』に属する人々」

今年度の本校のPTでいうと、リーダー(2

名)、顧問(2名)にあてはまる。

「次のレベルには『アクティブ・グループ』がいる。このグループに属する人々は定期的に会合に出席し、コミュニティのフォーラムにも時折参加するが、コア・グループほど規則正しく熱心に参加するわけではない」

リーダーと顧問を除いた17名のメンバーになるが、本校のPTは基本的に出入り自由なので、会議の時に都合が悪ければ欠席してもかまわないし、メンバー以外でも、飛び入り参加ができる。実際にそうやって参加してくださる先生方もおられる。

「コミュニティの大部分は『周辺メンバー』で めったに参加しない。彼らは傍観者に徹し、 コア、アクティブ・メンバーたちの交流を見 守っている」

本校では、PT会議の内容を毎月1回職員会議で報告している。職員会議の聞き手となってくださっている教師が周辺メンバーになる。ちなみに、管理職の先生方は都合のつく限り、公開授業は参観してくださる。教頭はPT会議にも参加してくださった。

4. 公と私それぞれのコミュニティ空間を 作る

「活力に満ちた実践コミュニティでは、地域コミュニティと同じように、メンバーが集う公共空間(会合、ウェブサイトなど)と私的空間(メンバーの一対一の人脈)の両方でさまざまな交流が行われている」

本校PTの内部でも行われている。それができていなければ、教科横断型授業の実践は成立しえない。また、志を同じくする他校の先生とのつ

ながりもうまれ、授業実践や校内におけるコミュ ニティについて学びあう機会も増えた。

5. 価値に焦点を当てる

「コミュニティが繁栄するのは、組織や、メンバーが、属するチーム、そしてメンバー自身に、価値をもたらすからだ」

「価値」の有無を判断するのは難しい。現段階では平成29年度にメンバーが作成した活動報告書の「1年間の振り返り」から、推察するしかない。

「授業改善については不十分であったが、教 科の垣根を越えて様々な授業実践や考え方 に触れることが大きな収穫だった。同じ教科 の方と話しているだけでは出てこないような 視点があり参考になった。また、普段は各自 の仕事に忙しく学びについて深く考える機会 があまりないので、この会議で改めて考える ことができて良かった。」

(数学・| 先生)

「新しいことも学ぶことができたというのも大きな収穫だが、最も大きな収穫はたくさんの先生 方とともに学び考える時間が増えたことだろう。」 (物理・〇先生)

「PT参加者と授業方法について学び合うことで、刺激をもらった。自分の凝り固まったスタイルを見直すきっかけとなったし、今後の授業の在り方について大変考えさせられた。これからも失敗を恐れず、学び続ける姿

勢を大切にしていきたい。」

(家庭科・K先生)

「PT会議に毎回参加する中で、メンバーが 取り組む試みを知り、常に刺激を受けてき た。そのことは少なからず普段の授業に良い 影響をもたらしてくれていた。」

(世界史・T先生)

「ベテランの先生方の積極的な取り組みが 刺激になった。」

(地理・K先生)

「この1年間PTに参加させてもらい、たくさんの刺激を受け、改めてどのように授業をすべきか、授業で何をどのように教えるかを考える機会となった。」

(保健体育・M 先生)

「授業改善について、研修等で違う学校の方たちと話し合う機会はあったが、同じ学校の 先生方と話す機会はあまりなかったので、とても充実した時間だったと感じた。」

(数学・T先生)

「多くの先生方の授業での工夫を発見し、自分 の授業に反映させていきたいと考えている。」

(地学・H先生)

PT会議が、教師と教師をつなぎ、お互い(ベ

テラン⇔若手)からの刺激を受け、授業について 「考える場」となっているのなら、それだけでも「価値はある」とみなしてよいと思う。

6. 親近感と刺激を組み合わせる

「活気にあふれたコミュニティは、おなじみのイベントと刺激的なイベントを組み合わせて、人脈を広げるために必要な人間関係を築き、また十分な刺激を生み出してメンバーの関心を引きつけている」

「刺激的なイベント」とは何か。11月に公開授 業を実施するが、それは刺激的ではなく、プレッ シャーを感じるものとして捉えられるだろう。「刺 激的なイベント」についてはまだ考えが及ばな い。教師の知的好奇心が揺さぶられるような、そ して「PT会議に参加してよかった!」と言われるよ うな「刺激的イベント」をぜひ企画したい。「刺激」 という点では、校外とのつながりも大事にしたい 視点である。実は、今年度に入り、私たちの活 動に興味を持たれ、福井大学教職大学院の先 生方や県内の高校 (北陸高校と金津高校) の先 生方がPT会議を参観されたり、学校訪問をして くださった。県内の各高校でも授業改善について の動きがある。近い将来、学校同士の情報交換 などが活発に行えるようになると、教師の学びに つながり、活動はもっと楽しいものになるはずだ。

7. コミュニティのリズムを生み出す

「コミュニティの中核をなすのは、メンバー 同士の息の長い関係のつながり合いだが、 彼らの交流のテンポは、コミュニティのイベ ントのリズムに大きく左右される」 本校のPTの活動は、4月当初に予定をたて、メンバーに配布している。基本的には毎月1回のPT会議と毎月の職員会議での報告が主である。11月に公開授業を行うため、11月の職員会議報告はしない。1・2月は高校の推薦入試、一般入試や大学入試の個人指導が入ってくるのでPT会議は行うが、職員会議での実践報告はしない。3月の職員会議で最後の実践報告をして活動終了となる。しかし「リズム」という観点からではなく、「多忙なときは無理をしない」という意図が働いて予定をたてたので、これからは「リズム」という観点も大事にしていきたい。

以上、『コミュニティ・オブ・プラクティス』の第3章の理論に照らし合わせてみるとチームの活動内容と偶然に一致するところと、全く考えが及ばなかったところがある。チームの継続・拡大を促すためにも、やはり思考することは大事であると痛感した。

6 これまでの成果

教育に関わる成果を明確にすることは難しい。 よってここでは、教師は「変容」、生徒は「気づき」という観点で成果について考えてみようと思う。

まず、教師に対する効果であるが、以下の3点が挙げられる。

- 1年目よりメンバーが増加した。
- ② 1年目より授業実践報告に関わる教師 が増加した。
- 3 1年目より教科横断型授業の実践が増加した。

●については、1年目は15名だったのが、2 年目は21名になった。それは、今まで本校にい た教師はもちろん、異動されてきた教師にも積極 的に声かけし、メンバーに入っていただいたとい う経緯がある。みなさんができる範囲で自主的に 参加してくださっていることが、チームの継続や 活性化につながっている。

②・③については、前出の〈平成29年度 授 業実践報告内容〉と以下の〈平成30年度 授 業実践報告〉を比較するとわかりやすいかと思

う。平成29年度は「授業実践報告」をする教師 に偏りが見えたが、平成30年度はまだ1学期だ けだが、すでにバラエティに富んでいる。また、 教科横断型授業の実践が2回だったのに対し、 今年度は1学期にすでに3回の実践がおこなわ れている。また、2学期にも実施予定の授業が 控えている。このことから、教師の意識変革、授 業実践に対する自主性と意欲向上につながって いると言えるのではないか。

■ 平成30年度 授業実践報告(1学期末現在)

月	実践した授業(※は公開授業)	教科(科目)	学年	授業者	
4	思考するということ※	国語総合	1	辻﨑 千尋	
5	4技能を育成する取り組み※	英語	1	山﨑 泰代	
6	ジグソー法とICTの取り組み※	数学	2	野村 幸史	
	身近な事象を考える~クイズから公式~	物理	2	小原 崇裕	
7	古典に見る天文現象※	古文 地学	3	辻﨑 千尋 奥村 貢	
	豆腐に見る身近な化学※	化学 家庭	2	谷口 渓 角正 康弘	
	建築史と物理※	物理 世界史	3	小原 崇裕 室井 浩貴	
	ギターの弾き語りライブ※	音楽	1	宇野 智子	
	君たちはどう生きるか※	現代社会	1	相道 孝志	

■ 平成30年度 PT会議研修内容(1学期末現在)

月	研修内容
4	「自己管理スケジュール帳」の活用
5	あなたが探究科で授業をするなら?
6	パソコン室を改装するなら?
7	1学期の授業で挑戦できたこと、 2学期の授業で挑戦したいこと

■ 職員会議で実践報告を行う様子



次に、生徒の効果を「気づき」という観点から 考えてみる。

「今回の授業はアーチ構造について多くの 学びがありました。また、世界史の知識も増え ました。最後にあった自分で橋を作る作業は、 班で協力することができ、丈夫な橋を作ること ができました。今後、より強度のある構造を学 びたいと思いました。今回の授業はとても興味 深く、歴史的建造物への関心が高まりました。」

「とても興味深い授業でした。こういう授業を受けると、なかなかアイデアが出なかったりして自分の物理力不足を感じます。 いろいろな見方で物事を見る能力がまだまだ足りないことがこの授業でわかりました。日々の勉強では、その問いの性質をしっかり見極めていき、力を伸ばしていきたいと思います。」

「考えたことのなかった大聖堂の作りに驚きを感じました。最初はロマネスクもゴシックも同じだろうと思っていましたが、昔の人の知恵を聞いて、違いがわかり、とても感心しました。世の中には昔の人の隠された知恵がまだまだ眠っていると思うので、それをどんどん調べてみたいです。」

(以上、平成30年度 物理×世界史 教科横断型授業 生徒感想より抜粋)

「今回の授業では、授業で習ったことを他 の教科で活かしたり、プラスαのことを学べた りして面白かった。もっと今回のように他の教 科同士でコラボして授業をやっていけば、皆 がより教科や授業に対して関心をいだける のではないかと思う。」

「質問された以外は楽しく感じました。もっ と自信をもてるように勉強します。」

「古典と地学の知識が同時に身について 良かった。みんなで間について考えるのは楽 しかった。古典と地学がつながっていること に感動したし、これから出くわす古文にもいろ いろな知識を使って解いてみたいと思った。」

「物事の見方の切り口は均一なものではなく、無数にある。」

(以上、平成30年度 古文×地学 教科横断 型授業 生徒感想より抜粋)

このように、授業における内容の理解にとどまらず、学習意欲を喚起させているという点では、 効果があるといえるのではないだろうか。

これまでの振り返りと 今後の課題

これまでの活動を振り返り、まず、リーダーという立場からすると「ゆるくやる」という言葉に逃げていたような感じもする。「できることから」「ゆるく」という言葉は、メンバーにとっては聞こえがいい。しかし、別の視点から見るとそれはまった

くの無計画を意味し、チームを無目的な活動に 導きかねない。そもそもリーダーが「思考」してい ない。チームの活動を深めるためにも、例えば、 今回出合った『コミュニティ・オブ・プラクティス』 の第3章にあった「実践コミュニティ育成の七原 則」を参考に、適度な親近感と刺激を与えるよう な仕掛けを、コア・メンバーを中心に「思考」し ながら編み出すことが今後の課題となってくる。 また、自己中心的でも、自己満足でも、刺激が ありすぎても、縄張り意識が強すぎても、誰かに 依存しすぎても、つながりが薄くても強くても、 平和すぎるのもだめだと書いてある。何事も「ほ どよい距離」「そこそこの関係」つまりバランスの 良さが求められるのである。もちろん、どのあた りが「良いバランス」なのかは、実践してみなけれ ばわからない。現段階で私が考える「よいコミュ ニティ」とは、「メンバーそれぞれが適度に役割を 分担し、その仕事に責任を持ち、自分やチーム の置かれている状況を自身で考えて実践をし、 省察する。」という結論に落ち着いている。

誕生したばかりのチームである。成果という名の花を咲かすまでにはもうしばらく時間を要する。しかし、11月には公開授業も控えており、2 学期のモチベーションの維持・向上を十分に図り、試行錯誤を繰り返しながらチームの活動をさらに有意義なものにしたい。

参考資料

- 資料① 平成29年度 武生高等学校授業 改善PT活動報告書
- 資料② 「BUKO Active News」通信 (平成29年度vol. 1~13、平成30年度 vol. 1~4)
- 資料③ 平成29年度公開授業·研究協議会 冊子

アジアと地域の支え合いを生み、 若者が変わる 社会参画の教育実践





茨城県立取手第一高等学校 教諭

大滝 修

1960年北海道生まれ。2005年茨城大学人文学研究科修了。1983年北海道利尻高等学校勤務。1986年北海道浦河高等学校勤務。1993年北海道函館西高等学校勤務。1995年北海道札幌真栄高等学校勤務。1999年茨城県立松丘高等学校勤務。2004年取手松陽高等学校勤務。2013年年茨城県立取手第一高等学校勤務。現在に至る。ウナロムプロジェクト代表。水戸生涯学習センターボランティア推進委員。東京経済大学・日本社会事業大学非常勤講師。連絡は、茨城県取手市台宿2-4-1の取手第一高まで。

第67回 読売教育賞から

【地域社会教育活動】



ツアー参加者と思い出を語る 大滝教諭 (右から 2 人目) (10 月27日、取手第一高校で)

総を描いたりして交流。帰国後も、 を描いたりして交流。帰国後も、 を描いたりして交流。帰国後も、 を描いたりして交流。帰国後も、 の子供とダンスをしたり、一緒に の子供とダンスをしたり、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供となった。 の子供となった。 の子供となった。 の子供となった。 の子供となった。 の子供とが、 の子供となった。 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供とが、 の子供となった。 の子供となった。 の子供となった。 の子供となった。 の子供とが、 の子に、 のった。 の子に、 の子に、 の子に、 の子に、 の子に、 のった。 のっ

地域社会教育活動 最優秀賞

体験を報告する。参加者は自己の作文コンクールや弁論大会などで

茨城県立取手第一高校 大滝修教諭 58

いる。ツアーで出会った現地の子験のある人にも参加を呼びかけて

わっているケースも。「ともにこ供が現在、日本で高齢者介護に携

れからも成長してほしい」と目を

(中瀬邦雄)

引きこもりや不登校の子供が通う

施設関係者を通じて、そうした経

の生徒だけだったが、15年からは

当初、参加していたのは勤務校

の意味を深く問いかけている」の意味を深く問いかけている」の意味を深く問いかけている。社会参加型学習客り添っての実践。社会参加型学習客り添っての実践組織と連携し、苦しみを持つ元支援組織と連携し、苦しみを持つ元支援組織と連携し、苦しみを持つ元支援組織と連携し、苦しみを持つ元支援組織と連携し、

ソアーに参加してある文生でした育んでいく。

カンボジアへの旅

を育んていく。 ツアーに参加したある女性(21) ツアーに参加したある女性(21) は、小学校時代からの引きこもりは、小学校時代からの引きこもりは、小学校時代からの引きこもりは、小学校時代からの引きこもりは、小学校時代からの引きこもりなった。女の子との書きない。

【最優秀賞選評】

佐藤一子 東京大学名誉教授

「地元支援組織と連携し、苦しみを持つ若者たちが心を開き、福祉の対象から地域の担い手へと自立する過程に寄り添っての実践。社会参加型学習の意味を深く問いかけている」

はじめに

1. 本実践の概要

本実践は、地域の社会人の支援を受けてスタ ディツアーに参加した若者がカンボジアの子ども と地域社会の支え合いを創造し、社会参画を通 じて若者自身が変容する実践を報告します。母 子家庭・非正規労働・奨学金返済等による相 対的貧困にある若者は海外体験など社会参加 をあきらめる傾向があります。不登校・引きこも り経験の若者は自己肯定感が乏しく強い対人不 安感があります。本実践は、多様な地域の経済 的援助や支援によって経済的困難にある若者 や障害・不登校・引きこもり若者など学校の枠 を越えたスタディツアーを実現しています。現地 の子どもの課題を踏まえ、交流やボランティア内 容を学習会で若者と企画・準備・練習します。 特技や好きなことを生かした交流ワークショップ を現地で試み、孤児らの笑顔と感謝を受けて若 者は大きな達成感や、言葉を越えた強い心のつ ながりを得ます。帰国報告会、現地リポート作 成、チャリティ、イベント開催などの発信活動を 通し、ボランティアの機会を与えてくれた地域に 感謝を表し、現地の人びとの声や課題を伝えて います。多様な発信活動を繰り返す中で、若者 は体験の意味を問い直し、自己の価値や可能性 を発見し、自己肯定感と社会的有効感を高めて います。

22年の実践の発展を概観し、若者の社会参 画体験を地域の公共財と位置づけ、地域社会の スタディツアーや学習支援への助成が若者の可 能性を顕在化する事例を報告し、あたらしい人 権として公費による「若者の社会体験」保障を提 案します。

2. 問題の所在と仮説

現在日本の相対的貧困率はOECD加盟国中 最も高い水準です。全国的に学習支援活動や子 ども食堂の必要性が高まるほど、経済的に困窮 する家庭と子どもが増えています。しかし、対 GDP比教育支出率はOECDで最低水準であ り、社会保障費に占める高齢者:若者の比率は 5:1です。教育費高騰と私費負担を当然視す る風潮により、母子家庭世帯や非正規労働世帯 の子どもは教育権や生存権が脅かされていない でしょうか。21世紀のグローバル社会にはコミュ ニケーション力、異文化理解力、創造性、問題 発見・解決力が必要だといわれます。社会と関 わる子どもの主体的な学びの体験の積み重ねが 重要だと考えられます。相対的貧困の子どもは、 社会参加の機会をあきらめる傾向があります。海 外留学について、生活程度が上位の中学生は 36%が「したい」と答え、下位では16%と半減 します。逆に「留学したくない」との答えは上位で は44%ですが、下位では71%にも達しています (『NHK放送文化研究所『中学・高校生の生活 と意識調査2012年』2013年)。 高校対象の 文科省「トビタテ留学JAPAN」「スーパーグロ ーバルハイスクール」事業の応募には海外経験 や語学の実績が必要であり、経済的困難を抱え る子ども・若者には応募は難しく、体験格差につ ながることを懸念します。子どもの頃の地域活動 体験の豊かさは、将来の意欲・関心等へ長期に わたり影響を及ぼし(『2016年版子供・若者白 書』25p文部科学省)、地域の担い手の格差要 因ともなります。相対的貧困率9%の最も低い静 岡県では中学生の地域行事参加率が過半数の 62%であるのに対し、相対的貧困率29%と最 も高い県の地域行事参加率は33%にとどまりま す(小林良彰『子どもの幸福度』ぎょうせい2015

年)。相対的貧困の深刻化が地域の「つながり 格差」に影響を及ぼしています。

子ども・若者の社会体験に公共性があると捉 え、「未来への投資」としての公的支援の仕組み が必要だと考えます。グローカルな社会参画体 験が、子ども・若者にとって「人生前半の社会 保障」(広井良典『持続可能な福祉社会』ちくま 新書2006年)になります。同時に、社会人が 若者への所得の世代間再配分を行い、社会間 題への周辺的参加の機会を若者に保障し、異世 代が協働して問題発見・解決能力の経験値が地 域内に蓄積します。グローカルな社会的紐帯(ソ ーシャルキャピタル)を培い、子ども・若者が創 造を試みる「公共の場」が可能となるという仮説 をたて実践を通じ検証に努めています。

実践の契機と発展

1. 1995~2003年 「ウナロムプロジェクト」の スタートと挫折

1983年社会科教員に採用されて以来、「戦争 をどう教えるか」や「平和をつくる授業」を模索 し、国内外への「取材旅行」を試みています。併 せて教科通信「みねるぶぁ」を刊行して生徒に伝 える「語りべ」授業に取り組みます。「歴史とは死 者の声を蘇らせること」(佐藤学『学びその死と再 生』太郎次郎社1995年) に触発され、当事者 や家族の証言を伝え、生徒の応答を引き出し、 取材相手に返します。1995年夏季休業後、あ る生徒が「ベトナム戦争と二重胎児・ベトとドク」 について新聞を作成しました。授業で配布したと ころ、「二人は今どうしているのか」という質問が あり、その問いに応える取材旅行を計画します。 その準備中、カンボジアの日本人僧侶が著した

■ 本・教材の寄贈運動を開始した高校生



『素顔のカンボジア』(渋井修1993年)を知りま す。渋井氏は内戦犠牲者を弔い、「ウナロム日本 語学校」を開設して子どもの日本語教育を行っ ています。ウナロム寺院に渋井氏を訪ね、カンボ ジア内戦と心の復興について伺いました。

帰国後、「政治経済」の授業で伝えたところ、 十数名の生徒が渋井氏の活動に共感し、本の寄 贈を提案します。活動を「ウナロムプロジェクト」 (以下U·P)と名付け、校内で本の募集を呼び かけ、文化祭チャリティやフリマなどで船便送料 を集めました。プロジェクトは部活動に昇格し、 後輩へ引き継がれました。手作りの50音表や紙 芝居の教材もつくり、贈りました。カンボジアか ら、子どもたちの学びのようすや、声が届きます。

1999年茨城県立高校の教諭へ転職し、来日 した渋井氏を講師に招き図書委員会での講演 が実現。貧困家庭の子どもへの日本語教育に加 え、渋井氏は植林による環境復興、手漕ぎ自転 車を制作し地雷被災者の社会復帰の支援活動 に着手したこと、さらに大きな資金が必要となっ ていると語りました。教職員が協力を申し出て、 2000年U・Pは高校生と社会人が協同するボラ ンティアに広がり、職員の募金で、教員1名をウ ナロム寺院に派遣し、現地リポートをもとに空き 缶リサイクル・募金をしました。2000年洪水に 襲われたモザンビーク「太陽中高校」へ、失った 貸与用の教科書購入を支援しました。翌2001 年アフガニスタン戦争が勃発。国内被災民の食 糧用小麦資金として『命の基金』(ペシャワール 会・代表中村哲医師) に募金を行いました。激 しい空爆と冬季の深刻な食糧不足に見舞われる 国内被災民が連日報じられた頃、募金の協力者 数と金額は予想を上回るものでした。タリバン政 権が崩壊して戦闘終息に向かい報道量が減少 すると、募金額も減少してゆきました。支援運動 は金銭面に終始し、困難な状況にある現地の人 びとの声や、支援に当たる「ペシャワール会」職 員の活動や声を届けておらず、人々の出会いや つながりを促す機会をつくらず、報道機関の情 報に依拠する物的支援に終始したことを痛感し ます。この反省を生かした活動を考えるため、 2003年大学院に入学し「国際社会とコミュニケ ーション」を専攻します。対話の重要性に気づき、 「対話型の地球市民教育」を構想しました。

2.2004年~2007年 新たな出発「対話型の地球市民教育」

2004年茨城県南部の取手松陽高校へ異動 後、「対話型の地球市民教育」のアクション・リサ ーチ研究を開始します。「カンボジアの社会と文 化」を主題として、ワークショップを中心とする体 験型授業を行ったクラスと、現地でカンボジア支 援に関わるゲストを招き対話授業を行ったクラス

で生徒の感情面・意欲・認識面の違いを分析者 察しました。ワークショップ型授業は関心や達成 感・学習意欲を高め、対話型授業は共感・つな がりを求める意識を高めるという知見が得られま した。対話型とワークショップ両授業の特性を生 かすため、2004年から大学生NGO、渋井氏、 NPO「かものはしプロジェクト」(以下「かものは し」) 代表や「幼い難民を考える会」(CYR) 職 員、外交官等を講師に講演と対話ワークショップ を実施しました。2005年東京経済大学「Love &Peace」の学生5名のパネル討論とグループ 対話を行いました。カンボジアの首都郊外のゴミ 山で廃品を拾う子どもと働き、ゴミ山の脇の学校 での職業訓練を映像で紹介。死傷事故の頻発す る過酷な児童労働。1日1~2ドルの現金収入を 十数人で分けるリーダーの姿。わずかな収入か らスマトラ地震の被災者へ寄付する子ども。大学 生はバスで海岸へ子どもを連れてゆき海水浴を 体験させます。はじける笑顔、もらった昼食の弁 当を家族のために残す子ども。視聴後の大学生 との対話を通じ、多くの高校生がカンボジアで子 どもたちと出会いたいと感想に書いています。

3.2007年~2012年 カンボジアスタディツアーと 中高大学協同授業への広まり

2007年NPO「幼い難民を考える会」(CYR) による全校講演会で、カンボジアの絶対的貧困 と栄養不足による高い乳幼児死亡率について CYR職員は語りました。講演会後半は、母親 に縫製の仕事と労賃、子どもに布ボール・布人 形など遊具を提供する体験授業「布チョッキン」 を実施しました。760人の高校生が布を持参し 型紙に合わせて裁断します。労賃を文化祭チャ リティや募金活動で集め寄付しました。3年生数 名が「支援品をカンボジアの子どもに手渡した い」と希望しました。スタディツアーを企画し職員 に提案したところ、「日本国内だって中越地震災 害で困る人が沢山いるじゃないか」「なぜそんな 貧しくて危ない国に生徒を連れていくのか」とい う反対の声もありました。学校長の強い支持によ り、保育園やNPO、ゴミ山を訪問するスタディ ツアーが承認されました。

8月下旬、代表生徒5名は布ボールを保育園 4か所に届け、子どもとの交流、母親に生活の 聴き取りをしました。ゴミ山で廃品拾いを子ども としましたが、悪臭で体調を崩したり、廃品の注 射針が刺さり汚水で長靴の中が汚れるなど、劣 悪な児童労働環境を実感しました。内戦時代の 拷問博物館・キリングフィールド (虐殺現場) も 見学しました。その後、アンコール遺跡群のある シェムリアップ市に移動。空港で出迎えた通訳ガ イドは、「昔、渋井さんというお坊さんを訪ねた方 ではありませんか。僕その時にお茶を出したポー キィーです」と声をかけました。 '95年にウナロム 寺院に訪ねた際、出迎えてくれた少年が私たち の通訳になった偶然に驚きます。渋井氏のもとで 日本語を学び、ツアー会社の守衛から公認ガイ ドとなったそうです。12年前から、本や教材の寄 贈支援を受けたカンボジアの少年が今、日本の 高校生をサポートしていることに感銘を受けまし た。教育は「未来への投資」と実感します。

帰国後、スタディツアー参加者は発信活動に 取り組みました。校内報告会、地元新聞取材、 JICA・大学・新聞社主催の作文コンクール応 募を通じ全国への発信も試みました。拓殖大学 が実施する作文コンクールに応募した作品で石 川瑞恵さんは学びを語ります。

『「国際交流」ときくと「英会話」「異文化理 解」など堅苦しい言葉を連想しがちです。で

も実際は違うとカンボジアの人に教えても らいました。目をあわせて微笑みを交わす。 それだけで「私たちの国へようこそ」とか、 「この国が大好きです。」という、一緒にあな たと過ごしたいという意思表示になります。 笑顔は全世界共通のあいさつといっても、 過言ではないでしょう。 困っている、 心細そ うな人がいたらまずは微笑みかけてみてく ださい。あなたの笑顔が孤独感をほどき、 大きな安心感を与えるはずです。私の心細 さを、クメール・スマイルが拭ってくれたよ うに。心から受け入れている表れです。それ が国境を越えた交流の第一歩であり、道し るべだと、私は確信するようになりました。』

と述べ、優秀賞を受賞しました。加藤千晶さ んは、カンボジア人技術者を育成しながらアンコ ールワット修復に取り組む日本人に感銘を受け、 大学建築学科で遺跡修復を学ぶ決意を述べ、 JICAエッセイコンテストに入賞しました。取手 市立藤代中学校から「総合学習で1年生に語っ てほしい」という「出前授業」の要請がありまし た。筑波大学院生との「協同ゼミナール」が翌 2008年に実現しました。大学院生が「カンボジ ア」授業をスタディツアーの事前学習として実施 し、高校生は調べ学習によって問題発見や仮説 設定を行い、現地のフィールドワークで検証し、 帰国後院生に報告します。協同で中学校の出前 授業の学習プランを立案。高校生が出前授業を 行い院生は授業観察と評価を行います。中学生 はグループ単位で、翌年のツアーで実現したい アイデアを提案します。協同ゼミ最終回は、年間 振り返りと翌年へ提言します。授業は筆者の異 動後も続く地域の共有財産となりました。

高校生の変容について、院生(2010~12

年延べ44名)の評価は、「経験を整理して自分の 言葉で伝える」「自信をもって発言できる」など 36.3%が「発信力・伝達力がついた(16名)」 と指摘しています。次いで、「意味や背景にあるも のを深く考える「意義や何をすべきかを深く考え る」など、27%が「思考力(12名)」と答えていま す。他にも「視野の広がり(6名)」「主体性・創 造性(6名)」「問題意識(4名)」と続きます。

松陽スタディツアーは、訪問先をプノンペン市 の孤児院「希望の家」、脳性麻痺施設、地雷義 足センター、上智大学「アジア人材養成研究セ ンター」、「かものはし」(現SalaSusu)工場と家 庭訪問を加え、多様化しました。

スタディツアー希望者は、「自分を変えたい」と いう不登校経験や欠席の多い生徒の増加傾向 が見られました。帰国後、欠席や保健室登校が 減り、進路希望を明確にする事例も多く見られま した。2012年茨城県高校生国際教育弁論大会 で県議会議長賞を受賞した大橋さとみさんは弁 論の中で、対人不安感の強い高校生の気持ちを 述べています。

「私がカンボジアに魅かれるのは、私が人 によって正面から向き合えないからだと気 づきました。人見知りの私は、自分と逆の性 格の人が怖く、傷つくことを恐れて近づきま せんでした。友人達のカンボジア人に対する ように、私は周囲の人に先入観があったので す。このことに気づき、私は人との接し方を 見直しました。外見で判断せず、関わる勇 気を持つ。いつかカンボジアの人のようにな りたいです。現在、ツアーの仲間と、中学 校・大学など地域でカンボジアの魅力を伝 える活動を行っています。カンボジアと地域 のつながりが生まれればとても嬉しいです。 それが誰かの幸せにつながるように。オーク ンチュライ (どうもありがとう) と笑ってくれ るように。」

大橋さんは大学進学後もカンボジアツアーに 参加、美術教育による子ども支援に取り組みまし た。不登校・長期欠席を卒業する高校生は、カ ンボジア人とのふれあいで力づけ(Empower) られ、自己否定感を見つめ直し、言語化して克 服したと考えられます。

4.2015年 引きこもりの若者の社会参加と ヤングボランティアスタディツアー

2011年東日本大震災が発生し、茨城県の多 くの地域が地震・津波・放射能の被害を受けま した。茨城県は若者のボランティア活動者が少な く、不登校・引きこもり・無業状態の若者の「不 活発人口」の多さが表面化しました。2011年度 「水戸生涯学習センター・ボランティア推進委 員」を茨城県より委嘱され、「ヤングボランティア (以下YV)養成講座」講師を依頼されました。 対話型の地球市民・社会参画実践を基に参加 者の希望を生かした実践に取り組みました。 2012年度茨城県内4か所の生涯学習センター の研修講師に招かれ、各地の高校・大学生らの ボランティア育成に関わるようになりました。

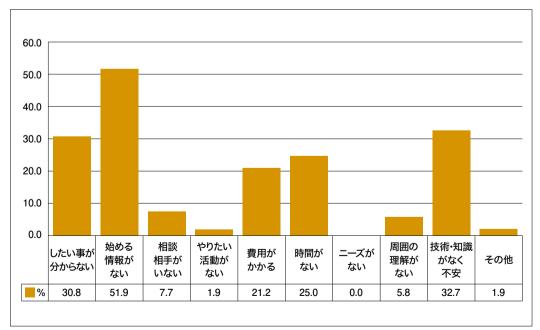
講座の参加者に行った意識調査から、ボラン ティア活動の少なさは、「ボランティアを始める情 報・きっかけがない(55%)「知識や経験・技 能が分からず不安(34%)」「したいボランティア が分からない(31%)」「時間がない(26%)」「費 用がない(20%)」が主な理由でした。「担当の先 生がいない、分からない(52%)」「ボランティア の活動証明がない・分からない(83%)」と、学 校内でボランティアの位置づけの不明確さや、広報不足という課題が推定されました。水戸センター「YV育成指導者研修会」参加者の声から、「新任(異動者)が担当し、1年交替のため情報や経験が蓄積しない」、「社協と学校の担当者の連携が乏しい」「広報・募集案内が掲示されず廃棄される」など、組織内外の連携構築の課題が明確になりました。スタディツアーを例に、中高大・地域・NGO等の協同について、若者が体験報告をし、事例研究を行いました。

YV研修講座は2014年からYVリーダー (YVL)養成講座となり、「ほっておけない社会の問題」を若者がグループで実際に課題改善に取り組む構成にしました。

2013年松陽高校から現在校へ異動となり、 カンボジアスタディツアーから離れました。幾人 かのYVL研修参加者が、「カンボジアスタディツ アーに参加できないですか」と尋ねました。そこ で、U・P主催によるカンボジアスタディツアーを 企画します。リーダー研修参加者に募集を行いました。不登校・引きこもり卒業のためのツアーも検討したところ、就労支援施設「ココカラ」代表を紹介されました。代表のM氏は西アジアの難民支援活動後、若者の自殺防止を目指して就労支援事業を起業し、若者のライフスキル獲得をめざしています。不登校・引きこもり経験者の社会参画の一歩としてのスタディツアー構想をお話しすると、「入所者に推奨したい」と言われました。

2015年8月、5泊7日の「第1回ヤングボランティアスタディツアー(以下YVST)」を実施。参加者は高校生4名、大学生2名、ココカラ職員1名・入所者男性2名、中学生1名・引率1名の11名です。ココカラ入所者2名は精神的な問題を抱え不登校・引きこもりを経験しています。Y君は、コミュニケーション力や注意力が不足でした。K君は睡眠が安定せず、集団(人混み)不安、飛行機の高所・閉所への恐れがあり、ツアー参加にも不安感が強くありました。K君は

■「ボランティアについて困っていること」(YVL研修会2013年)



引率職員と満員電車に乗り、筑波山に登山する 事前トレーニングをしてツアーに臨みました。大 学生Nさんは発達障害のため疲労感やパニック から体調を崩しやすく、対人緊張の軽減のため 1人部屋としました。経済的困難も抱えるNさん のツアー代金が高くなるため、支払えない恐れが 生じました。ツアーの趣旨に賛同する小児科医、 短大教員、コンサルタント(自営)業など地域の 社会人がU・P会員に加入し、会費によってツア ー費用を下げ、Nさんには現地リポート作成と高 校生の引率補助をお願いし、別途ツアー代金の 補助を行いました。一つ一つ若者の抱える課題 を越え、YVSTの地域に果たす目的が徐々に明 確になりました。精神障害・家庭の貧困などの 環境にかかわらず、どの若者も海外での体験学 習ができる「ユニバーサル・デザイン」のスタディ ツアーをめざすこと。自己肯定感・社会的有効 感・社会的関係資本の獲得という「人生前半の 社会保障」となることです。

訪問先の孤児院への支援活動として、5月水 戸市「グローカルフェスタ」や、6月高校文化祭で チャリティと募金を行い、ツアー参加者は文具用 品代・米300kg購入代金を確保し衣服を収集 しました。第1回YVSTは、ほぼ松陽スタディツ アーの日程・訪問先を踏襲したものです。毎晩、 振り返りを行いメンバーの気づきや変化を共有 しました。ツアー後半にK君、Nさんは精神的不 安定から体調を崩し、別行動にして部屋で安静 にしました。全員体調も良好な状態で帰国しまし た。ST報告書でNさんは、変容について述べて います。

「ひと続きの世界で、共に生きてゆくこと」

『国際社会に貢献したい。困難に向き合っ ている人々に向き合いたいという想いが強く なりました。私はウナロムの方々のご支援に よって、今回のツアーに参加することが出来 ました。真剣に考えるメンバーと共に旅をで きたことの喜び。毎晩の振り返りでの、一人 ひとりの確かな言葉。年齢職業もばらばらの メンバーから学んだたこと。脳性マヒのある 男の子達の施設で、彼は何歳ですか?に答 えがなかったこと。「わからない、だいたい捨 てられて」。障害のある子どもが捨てられて しまう、というカンボジアにある現実。希望 の家に、日本の大学に留学する予定の女の 子がいた。「どうして日本で勉強しようと思っ たんですか?」と聞くと、彼女はすぐに「日本 が大好きだから」と、少しだけ恥ずかしそう な、でも嬉しそうな、すてきな笑顔で答えて くれた。日本の人々が、カンボジア、彼女達 のためにしてきたこと、今していることを、 わたしはもっと知りたい、知らなきゃ。あん なに、人を心から抱きしめたことは今までな かった。その子には別れ際、日本で会いまし ょうと伝え、またすてきなその笑顔で、はい、 と応えてくれた。今度行く時は、少しでもク メール語が出来て、日本語を彼らに教えたり できたらいいかも、と思った。日本での何倍 も、わたしは学ぼうと必死になれたし、決し て逃げずに色々な人と繋がろうと出来た』

Nさんは、帰国後精神的不安定から長期入院 しました。回復後、デンマーク国費留学で福祉を 学び、大学派遣でタイ留学を経験。社会福祉士 として途上国支援を模索します。

ココカラのK君は、中学不登校、通信制高校 もスクーリングの欠席が続いたそうです。不安感 で何度もツアー辞退しようと葛藤したK君。海外 体験を次のように振り返ります。

『私はカンボジアで様々な体験をし成長し て帰国しました。出発前に克服すべき課題が ありました。一つ目は、「行く意味」にものすご く悩みました。カンボジアについて調べ、話 しあううちに行きたくなりました。二つ目は飛 行機です。100%安全だと判っていても怖か った。事故よりも5時間も大人しくしていられ るか不安でした。実際は平気で、身構えすぎ でした。一週間に5回も乗ることができまし た。三つ目は、現地での食事です。タイ米が 美味しく、カンボジア料理自体も自分の口に 合っていて美味しかったです。

このツアーに参加して自分の心に変化が 起きました。ツアーの途中で孤児院を訪問 し、(設立者)菊地さんと話すうち、「自分も国 際協力をしたい」と思い始めました。自分が現 地へ行くのではなく、次にこのツアーに参加 する人、参加を迷っている人の背中を押し日 本からお金でお米や教材を買ってあげたい。 裏方から支援したいと思っています。まず自 分が頑張って働いて、そのお金を少しずつ寄 付したいです。9月25日に、募金の責任者と なってココカラでプレゼンをします。まずはお 米代の足しに、と考えています。最後に、こ のツアーでは初めての経験ばっかりでした。 どれも一生の思い出です。自分には、この経 験を他の人に伝える義務があります。それを しっかり全うしたいです。また、思い出だけで はなく、人とのつながりも得ました。』

K君はココカラ内で「おみやげプロジェクト」(ツ アー前に注文を取り、現地で購入して帰国後販 売する)や募金、スタディツアー説明会の体験発 表やアドバイザーとして後進をサポートしていま す。また、「東南アジア史」を学びたいと放送大学 に入学します。K君の中で、「与えられる学習」から 「学びとる学習」へと学習観の転換(プラトンの教 養「パイディア」が「魂の向き換え」であることを想 起します)が静かに進展しています。

5.2016年~2018年 ヤングボランティアスタディツアーと 世代間支援の発展

2016年 第2回ヤングボランティアスタディツ アーの課題と成果

5月、第2回ツアー希望者が、大学生4名・ 高校生3名・ココカラ入所者3名・引率2名の 12名になりました。大学生Sさんは3回目、ココ カラK君は2回目です。高校生Hさん、ココカラ のAさんは母子家庭で経済的困窮にあり、ウナロ ムプロジェクトで半額補助・残りの半額を帰国後 徐々に返済する方法で、保護者の参加同意を得 ました。

ツアー全体の経費を下げ、公益性を高めるた め茨城県「女性・若者支援事業」に応募しまし た。若者・女性の活躍を助成する事業に1件10 万円が補助されます。書類審査の後、6月初旬 県庁でのプレゼン審査に臨みます。団体・ツア -の趣旨説明の後 K 君が体験発表をしました。 不登校・引きこもりから就労支援に至る経緯か ら、ツアーに参加するまでの「自分を変えたい」思 いと恐れとの葛藤、ツアーで目標を発見し放送 大学で歴史を学び、ココカラでチャリティに取り 組んでいると、物おじせず語りました。

筆者は大阪府の試算で、1人の引きこもりは毎 月13.7万円歳出となるが、就労支援から就職 ができれば年間10.9万円税収となることを挙 げ、若者の経験や社会的つながりが人生前半の 社会保障、同時に地域内で世代間の支え合いと なる可能性を説明しました。後日、支援事業事

引きこもり推計値約5万人

(15歳~39歳人口277万人の1.79%と仮定)

● このうち10%が生活保護受給者になった 場合

生活保護費5千人×13万7200円×12ヶ月 =82億3千2百万円

このうち10%が自立して働いた場合 税収5千人×10万9200円※

=5億4千6百万円

合わせて毎年約87億円の損失 ※青少年の平均給与を17万円と仮定した場合、 所得税・市民税10万9200円

ひきこもり青少年支援研修システム構築事業概説書 (2010年 大阪府HP/PDF)より

務局から特別事業補助30万円の決定通知を受 けました。訪問料支援品購入・報告書印刷製本 写真パネル制作に充て、参加者の負担軽減を図 ることができ、経済的困難な参加者2名の費用 をウナロムで補助することが可能になりました。

ココカラAさん(17歳)は学習障害のため小学 校から勉強が苦手で不登校でした。孤児院の交 流に、ココカラで習っている「ダンス」を提案しま した。Hさん(20歳)は父親のDVによる精神不 安定と対人恐怖感が強く見られました。スタディ ツアーでは、全員でのミーティング・食事は困難 で、同性・同年齢に配慮した3・4人ずつのグ ループ単位に分けて行いました。ミーティングの 共有はグループ代表が全体に発表し、不安感を 軽減しました。孤児院「希望の家」の子どもと、 笑顔・まなざし・身体的ふれあいによる交流は2 名の「心のヨロイ」を溶かしました。他のグループ のツアー参加者と徐々に会話も生まれました。ツ アー後半、Hさんは疲労度や精神的落ち込みが 増し、発熱も見られました。ココカラ職員とAさ

んが付き添い安静に努めました。5日目、「かもの はし、工場見学もバス内で休息したHさんでした が、右腕がけいれんを起こしました。従業員宅 への家庭訪問とインタビューを取りやめ、国際病 院へHさんを運びます。検査によっても原因不 明だったため、カンボジア人医師はタイへ搬送を 提案。日本にいる母親に連絡をとり、服用する強 い精神安定剤に原因があるかもしれないと聞き、 帰国後精密検査を受けることになり、点滴をうけ 深夜にけいれんは治まりました。最終日も安静に し、無事帰国しました。

この第2回スタディツアーは、経済的困難を克 服しての参加と、精神障害をともなう「引きこも り」の若者の参加の難しさを痛感する事例となり ました。地域の社会参画補助事業の経済的支え や、異年齢・多様な生育環境の若者のいたわり 合いがあって、克服できました。ツアー後、街頭 イベント、ボランティア研修会、「女性・若者支 援授業」ポスターセッションにAさん、Hさんは進 んで参加するようになりました。振り返りの中で、 Aさんは自分の変化について次のように述べて います。

『"強くなりたい"。これが私のカンボジア に行きたい一番の理由でした。私は13才か ら学校に行っていません。勉強が嫌いだった からです。私には同世代の友達があまりいま せんでした。友達はほしいけど、どうやって 話しかけて良いかが分かりません。カンボジ アという日本とは違う国に行けば、勇気を出 して一歩踏み出せる気がしたので渡航を決 意しました。

今回、様々な場所から参加者が集まり、 知らない人ばかりで正直とても緊張しまし た。しかしみんな私に優しく話かけてくれて、

少しずつ自分からも話かけることができまし た。勇気を出して一歩を踏み出してよかった と思いました。現地の子どもたちと交流して 徐々に仲良くなれて嬉しかったです。特に印 象に残ったことは、現地の子ども達のスキン シップのとり方です。脳性麻痺施設の子ども と触れ合ったとき、私をみて躊躇せずに真っ すぐ抱きついてきました。とびきりの笑顔を 見せて、初対面の私に警戒しない姿に驚き ました。自分から壁を壊せば相手の壁もすぐ に壊れて、仲良くなれることに気がつきまし た。孤児院では、言葉もなかなか通じなく て、最初は上手くとけこめられない場面があ り困っていました。しかし、ダンスを踊ると みんなすぐに笑顔になってくれて、みんなの 輪に入れたように感じました。ダンスは言葉 を超えて人と繋げてくれるということが分か り、とても嬉しい体験になりました。日本に 帰って一人でさみしい思いをしている人がい たら、声をかけて手を差し伸べられる人にな りたいなと思いました。今回、様々な体験を 通じて"少し"は強くなれたかなと思います。 この経験を通じて、同世代の友達もたくさん 作って笑顔の多い毎日を送りたいです。』

Hさんはトラウマとの格闘について述べていま す。

『私は体調を崩しやすい体質でそれが自 分でも本当に嫌でした。日本から遠く離れた 場所で自分をうまくコントロールできるのか とても不安でした。現地で熱を出したり、気 持ちが不安定になり、体調に気をつけるとい う目標を達成できたと言えない代わりに、も

っと自分を理解したい、しなくてはならない という課題が見つかりました。私は過去のい じめのトラウマで人を信じることがとても苦 手です。メンバー(仲間)は優しく声をかけ てくれたので、いつの間にか自然と会話がで きるようになりました。そして、気づいたの は今まで避けていたのは相手ではなく自分 だったということです。人を信じる前にまず 自分を信じられる人間になりたいです。今回 一緒に行けた仲間から人との繋がりを学 び、今は人との会話が以前よりとても楽しく 思えます。私が一番伝えたかった事は、孤 児院の子供達から学んだことです。孤児院 の子供達は常に笑顔でした。私が手を繋げ ば笑顔になり、私がニコッと笑うとその倍の 笑顔になりました。そんな小さなことにとて も喜んでいて、私だったら幸せと思わなかっ た小さな幸せが本当は大きな幸せなのだと 感じました。日本で当たり前だと思っていた ことが「感謝」に変わりました。当たり前を幸 せと感じられる心を子供たちは持っていて、 私は半分分けてもらったような気がします。 たった一日で心の距離をぐんと近くする子 供たちのパワーに、感動しました。またツア 一に参加して会いたいです。そして次参加す る時は、自分にもっと自信がついた状態で参 加したいです。』

Aさん・Hさんは、帰国後の発信活動にすべ て参加しました。見知らぬ若者・社会人に体験 を語ることは難しくても、発信するメンバーに寄り 添い、募金箱を持ち街頭に立つなど、主体的行 動力が高まりました。2018年、Hさんは独学する 韓国語を生かし、母親と韓国旅行を実現しまし た。Aさんはダンスで、Hさんは語学力でグローカ ルな貢献の場を模索しています。ツアー中、グル ープ内でAさん、Hさんをサポートした高校2年 Oさんは、最も厳しい経済環境に育ちました。ツ アー代金は半額を免除、残金を徐々に返済とし てツアーに参加できました。茨城県国際教育弁 論大会で、Oさんは自己の変化を発表しました。

『孤児院のある小学生の女の子が、私に 絶えずスキンシップを求めます。初め戸惑い ましたが、日本語ができない彼女の愛情表 現だと分かり、嬉しくなりました。お揃いの リストバンドを私にくれ、いつまでも手を振 り、別れを惜しみました。言葉や肌・暮ら し・年齢の差を超え、愛情を感じあい友人 になれると、その時初めて知りました。「貧し い途ト国を支援するべき」という傲慢さに気 づき、自分の「心の貧しさ」を痛感しました。 「孤児院での生活は幸せ。夢は日本で働くこ と」と話した女の子は、家族もなくギリギリ の生活の中で、希望を見つけていました。 その姿がとても、まぶしく感じました。私は 母子家庭に育ちました。母親は仕事で夜遅 いことが多く、一人母を待つ時間が寂しかっ たです。時折母が恋人に会いに行ったり、 恋人と口論するのを目にするのも嫌でした。 「普通の家庭がよかった」と心の中で母を責 め、自己嫌悪に陥る日々でした。不安と葛藤 を生活環境のせいにし勉強の意欲や気力も 失い、欠席も増えました。他人の重荷にな ると、相談することも諦めていました。誰か に一言、「寂しい」「聞いて」と言えば変われ たはずなのに。でも担任の先生が「何でもな い」と、強がる私に何度も相談の機会を作っ てくれ、やっと苦しさを打ち明けられました。 先生の授業で、国語の先生になるという希

望までも湧いてきました。ツアーに参加した 「ココカラ」の女性は、家庭や学校の辛い経 験から小学校から高校まで不登校だったと いう困難を抱えていました。ツアー中も、過 去のトラウマから部屋にこもる時もありまし たが、メンバーに寄り添われ、彼女は恐怖 を乗り越えました。「人を信じようと思った」 と言ってくれ、笑顔が戻りました。受け入れ られた喜びで、その言葉は深く心に残ってい ます。カンボジアツアーで私は自分の家庭に 生まれてよかった、と思えるようになりまし た。同じ悩みを抱える子どもの寂しさや、痛 みを感じられると思うからです。寄り添い、 求めるものを共に探し、力づけたい。再び 「希望の家」を訪ねる時は、ボランティアで はなく友として再会したいと思います。私は 自分を変えたいと願い、カンボジアツアーの 参加を決心しました。NGOと茨城県の支援 事業の援助でツアー代金を払えて、とても 感謝しています。日本でもカンボジアでも、 経済的・社会的格差のため、十分に勉強で きず、人と関わることも困難な子どもがいま す。勉強の場がない子どもを、学習で支え たいと強く願うようになりました。まずは取 手市が始める「小学生学習ボランティア」に 取手一高代表として参加します。季節の行 事や遊びも交え、楽しく心地よい場所にした いと思っています。カンボジアの子どものた め私たちに出来ることは、まずその現状を知 ること。同時に身近な茨城の子どもの現状を 知ることも大切だと思います。「思いを聞く」 だけで救われる子どもがいるからです。地域 社会の支えを得て、私はカンボジアと地域 の子どもを結び「未来の守り手」になりたい と願います。』

Oさんの弁論は茨城県教育長賞 (準優勝)を 獲得し、応援に駆け付けたA、Hさんに祝福を受 けました。高校在学中、Oさんは近隣の小学生 4、5年生の学習支援に参加。パート先の変わ った母子世帯のため教育ローンが借りられず、 浪人しました。中学教員志望のOさんは茨城県 土浦市にあるブラジル人学童教室での日本語学 習を支援しています。そのために、ウナロムは〇 さんに交通費と学習指導料を支給しています。 今後増加する外国人労働者の子どもの日本語 習得と高校進学の課題は、地域社会にとって重 要性を増すと考えます。こうした海外支援・交流 体験のある経済的困難(引きこもり・不登校経験 のある) の若者による、外国籍の地域の子どもの 学習支援は多文化共生のコミュニティ活性化の モデル事業となる可能性を感じます。

高校2年I君は学業や運動部の成績不振から 自信を失い、医師志望を諦めかけていました。「義 足センター」で、地雷被害者に新しい義肢を成型 する模様を見学し、世界からの寄付で、労働や生 活を回復したカンボジアの人びとが喜ぶ声を聴き ました。帰国後、振り返りを書き幾度か体験を発 表するうち、「誰のために何をすべきか」が重要だと 気づきます。YVL研修会で「国境なき医師団で活 動したい」と表明しました。地域医療を目指し、努 力が実って今春医科大学に進学を果たしました。

結論 「ボランティア=無償」 の転換と、「寄付=未来の社会 投資」教育の必要性

2017年第3回、2018年第4回スタディツア ーは、訪問先を一部変更しべトナム共和国ホーチ ミン市の「ストリートチルドレン友の会」(FFSC) の子どもに衣服・絵本を届けました。2018年訪 間では、ココカラ入所Mさん(20歳)の提案で絵 本読み聞かせを行いました。Mさんはいじめによ り小・中学校を不登校、不登校生の高校へ進 学。ボランティア部の「読み聞かせ」活動で自己肯 定感を回復。大学に進学後、再び通えなくなり休 学。ココカラへ入所しました。事前学習会では、 質問に小声で答えるだけのMさんでした。読み聞 かせの時には、感情をこめて中高生に「あかずき んちゃん」を明瞭な声で読み、聞き手は引き込ま れました。はつらつとした姿と、日常会話との対比 に驚きます。Mさんはカンボジアでは精神的に落 ち込む時が多く、「かものはし」やタ・プロム遺跡 訪問などはバス内で休息しました。帰国後8月18 日、河合塾横浜校「国際協力オープンキャンパス」 の発信活動に参加し、バザーを担当しました。M さんは現在生活しているシェアハウスの施設長に U・Pのチャリティ・バザー開催を打診していま す。Mさんに、「変わろう」とする静かな闘志を感じ ます。これまで4回のYVSTに、ココカラの若者 延べ10名が参加しました。引率の職員3名に参 加者の変容について分析していただきました。

- できないと決めつけていた事にチャレンジ することができ、自信になった。
- 自分を受け入れ、役割のあるコミュニティ と出会い、貢献したい意欲が向上した。
- 初の海外旅行で視野が広がり、海外と日本 を繋げる仕事をしたいと思っている。
- 支援してくれた親に感謝を感じ、共に自立 について意識する機会となった。
- まわりに心を開く、自分をまわりに表現す るきっかけになった。
- いままでこもっていた自分の殻を破る機会 を与えてくれた。
- ツアーを通して達成感や充実感からの今 後の活動意欲が生まれた。

引きこもり経験や障害を持つ若者が、福祉・ 生活保護の対象から「世界と地域の担い手」へ と変貌する契機になっていることが分かります。 自信を高め、コミュニケーションや社会参加・貢 献意欲の獲得が見られます。その背景に生涯学 習センター、ウナロム社会人会員、茨城県「女 性・若者支援事業」、寄付者、ココカラ社の惜 しみない支援がありました。

ボランティアや社会活動に参加するには交通費 (渡航費)・保険・教材等・登録費・宿泊費滞 在費・訓練費など様々な経費が必要です。多く の場合、その大部分がボランティア自身の個人負 担です。あるNGOインターン大学生の事例で は諸経費(渡航費用除く)が年間10万円を超え ています。奨学金返済の不安を抱え、ヤングケ アラー (障害のある妹・弟を世話する兄姉) など のように、費用や時間の負担が無理な若者がボ ランティア活動から排除される恐れがあります。 その背景に、主催者側の「ボランティア=無償」 を当然視し、ボランティアを無給労働させる実態 がないでしょうか。「若者の誰もが参画できるボラ ンティアのユニバーサル・デザイン環境」を社会 的インフラ(基盤)とする必要があると考えます。 若者らしい提言・アイデア・創造的な活動を「公 共の経験財産」と捉え、コミュニティで実現を支 援します。寄付行為も、「困窮者への憐憫(施 し)」意識を転換し、若者への「(未来の) コミュ ニティを創造する社会投資」という意識が重要だ と考えます。

孤児院「希望の家」から4名が来日し、語学・ 福祉専門学校で学び、2名が介護福祉職の道を 歩んでいます。7名がプノンペンの日本語学校に 通っています。人口減少社会・多文化社会の担 い手になろうとしています。そのため、若者の報 告・発信は、支援者・寄付者が「応援して良か った。寄付を通じて社会に貢献できた」という実 感を伴う「社会的投資への応答」であることが欠 かせません。

2018年7月茨城県ロータリークラブから取手 地区会長RCを通じて、スタディツアー及びブラ ジル人学童の学習支援に資金補助の決定通知 がありました。支援先のベトナム・カンボジアの 子どもの成長や感謝の気持ちを伝える絵手紙、 交流の映像、若者の現地リポートや提案・巡回 スタディツアー展等、定期的な活動報告を通じ て、支援者が寄付行為を通じてコミュニティへの 貢献を実感できるよう尽力しています。YVSTを モデルケースとして、若者と地域の社会人の相 万支援ネットワークづくりの理解と協力の輪を広 げてゆきたいと願っています。

「みんな」のNIE・「みんな」でNIE

~学校の枠を越え広がり、地域と共に高まり合う学校~





熊本県八代市立郡築小学校 代表 郡築小学校 校長

なかのせいき中野聖規

1963年生まれ。1986年熊本大学教育学部心理学科卒業。1986年~2015年八代市、上天草市、天草市の小学校及び上天草市教育委員会に勤務。2016年八代市立郡築小学校赴任。現在に至る。連絡は、熊本県八代市郡築六番町49-1の同校まで。

[NIE]



ノーベル賞受賞が決まった本庶・ 京都大特別教授について語る豊田 教諭(10月16日、郡築小学校で)

多角的に新聞活用 「この人、誰?」「本庶さんで「この人、誰?」「本庶さんです」「何をした人?」「ノーベルす」「何をした人?」「ノーベル第」――。 賞」――。 賞」――。 (40)が、今年のノーベル生理学・ 熊本県八代市立郡築小学校5年 熊本県八代市立郡築小学校5年 熊本県八代市立郡築小学校5年 熊本県八代市立郡築小学校5年 熊本県八代市立郡築小学校5年 大学特別教授の顔写真を見せなが ら、やりとりを続けた。 この後、豊田教諭は本庶さんに この後、豊田教諭は本庶さんに

NIE 最優秀賞

ね」と笑顔を見せた。

(江崎宰)

熊本県八代市立郡築小学校

を分かりやすく伝えているんです

を載せたワークシートを児童に解

関する新聞記事を使った問題など

小原友行・福山大学教授「新聞が小原友行・福山大学教授「新聞がよるのでなくなってきている。NIEを『みんな化』するこの取り組みは、今日的な課題に応える取り組みは、今日的な課題に応える

が な取り組みの数々が目を引く。 間がかかりますから」と豊田教諭。 さん(11)は「新聞は世の中のこと NIE新聞」発行など、ユニーク 見出しなど紙面の言葉をつなぎ合 合わせて元に戻す「新聞パズル」、 は多彩だ。一度破った新聞を組み 聞から学んだことを発信する活動 を進めたことが認められ最優秀賞 ってNIEに取り組む「みんな化」 事を地域に知らせる「郡築子ども わせて作る「新聞俳句」、校内行 に輝いた。 新聞に関心を持ち、 新 この日、授業を受けた平田萌衣 同校は、家庭や地域が一体とな 番。教科書に載るまでには時 最新の情報は新聞から学ぶの

小原友行 福山大学教授

「新聞が子どものみならず、教師や保護者にも身近なものでなくなってきている。NIEを『みんな化』するこの取り組みは、今日的な課題に応える貴重な実践だ」

【最優秀賞選評】

実践していくため

八代市立郡築小学校は、熊本県の南部、八 代市の公立小学校である。110年の歴史を持 ち、郡築の土地は、先人が干拓によって開いた 開拓魂の根付く土地である。現在は農業を中心 に栄えており、特にトマトは全国有数の生産量を 誇る農業地帯である。

本校は平成28・29年度NIE実践指定校となり2年間の研究を行った。初年度の4月当初は手探りの状態であったが、NIE全国大会等、先進校の実践に学びながら、職員全体で本校独自の実践を一つ一つ創り出してきた。校長を中心として職員全体で話し合い確認したことは職員「みんな」の取り組みにしようということだった。

新聞は「公共財」である。すべての人々が何らかの関わりを持ち、一人一人が、その人なりの関わりを持っている。それが新聞である。

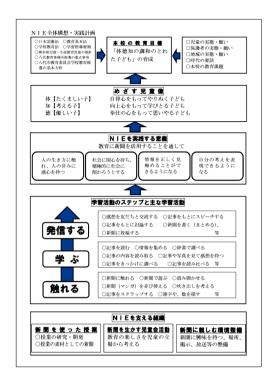
そこで、本校のNIEの研究が、学校の中だけに収まらず、学校の教育に関わる「みんな」が新聞に関心を持ち、一人一人の新聞との関わりを深めるような実践にしていこうと考えた。そして、どのようにすれば、実践が「みんな」のものとなっていくのか。そのことを試行錯誤しながら模索し、実践を積み重ねていった。

本論文はその取り組みの概要をまとめたものである。

新聞の「みんな化」の取り組み

1 学校のNIE

NIEがみんなのものとなるためには、まずその 中心である学校のNIEの環境を整えなければな らない。そのために、全体構想図、計画案等、 実践していくための、枠組みを作ることから始めた。



(1) NIE全体構想図の作成

NIEの実践がどのように、学校の教育目標に繋がるのかを明確にするため、職員で協議し全体構想図を作成した。全体構想図を作ったことで、本校のNIE実践がどのような力を育てることを目指しているのか、そしてその力をどのような過程で育てていくのか、その力はどのような場で育てられるのか等が明確になった。

(2) NIE計画案の作成

NIEの取り組みが始まった当初は、職員全員がどのような場で、新聞を活用することが効果的なのかわからずにいた。そこで、熊本県NIE推進協議会が発行しているNIE実践報告書やNIEの公式ホームページ等から実践を学び、それを計画表として整理することにした。この計画表があることで、どの単元で新聞を活用するのか

3

事前に見通しが立つようになり、準備もスムーズ にできるようになった。

学年	教科	単元名	活動	触れる	学ぶ	発信す
1	国語	みだしクイズ	写真に題や文をつける。	0		
1	国語	みだしをつけよう	写真に題や文をつける。	0		
1	国語	あなたはどっち	記事をもとにスピーチする。			0
1	国語	しゃしんをよくみてかこう	写真に題や文をつける。	0		
1	国語	かたかなのかたち	言葉や漢字、数を探す。	0		
1	国語	これはなんでしょう	記事を読む。		0	
1	国語	あさがおしんぶんをつくろう	自分の伝えたいことを新聞にする。			0
1		しんぶんしでへんしん	新聞で物を作る。	0		
1	体育	しんぶんであそぼう	新聞を使って遊ぶ。	0		
1.2		おはなしよんで	童話(新聞)の読み聞かせ。		0	
1.2		あきまつり	新聞でかざりを作る。	8		
1.2	学活	しんぶんしでへんしんあそぼう	漫画を並び替える・漫画の吹き出しを考える等	0		
1.2	学活	みてみてしんぶんコーナー	お気に入りのコーナーを見つけ発表する。		0	8
2	图語	今週のニュース	新聞を読む・感想を発表する。		0	0
2	国語	お話のさくしゃになろう	漫画を並び替える・写真に顕や文をつける。	0		
2	国語	ことばであそぼう	言葉や漢字、数を探す。	0		
2	生活	やさいをそだてよう	自分の考えや伝えたいことを新聞に表す。			8
2	生活	わらびしまたんけん	新聞作りの取材をする。新聞に表す。			0
2	図工	まちをつくろう	新聞で物を作る。新聞で遊ぶ。	0		
中学	年		•			
学年	教科	単元名	活動	触れる	学ぶ	発信す
3	国語	国話辞典のつかい方	記事をきっかけに顕べる。		0	
3	国語	話し合って決めよう	新聞の構成を学び、取材をして新聞を作る。		0	8
3	国語	説明の仕方を考えよう	新聞の構成を学び、取材をして新聞を作る。		Ö	0
3	国語	賃料から分かったことを発表しよう。	記事や写真を見て感想を交流する。		ŏ	
3	(K) 2.5	かるたについて知ろう	新聞の構成を学び、取材をして新聞を作る。		Õ	0
3	一田社		新聞の様成を学び 新聞を作る		~~	

(3) NIEでつける力を明確にする

学校でNIEに取り組むことで児童にどのような力を育むのかを明確にするために、「郡築小NIE 7」という7つの力を定義した。このことにより、NIEでどのような力を育てるのか、具体的に教職員で共通理解することができるようになった。



(4) NIE通信の発行

NIE担当は実践を推進するために、「NIE通信」を発行するようにした。通信の内容は、「各学年の実践の紹介」「これから学校全体で取り組んでいく内容」「文部科学省の指針について」「新しい実践のアイデア」等、様々である。その時々必要と考えられるものを考えて、発行するようにした。



(5)朝のNIEタイム

週に一度の朝の学力充実タイムの時間に、全 校で新聞を活用した学習を行った。使用した教 材は、読売新聞社が毎週発行している「読売ワ

ークシート通信」

である。この通信 に3つのステップ で取り組むように

した。



■ 知る(10分)

児童がワークを解く

2 深める(2分)

(教師の解説で)児童の学びを深める

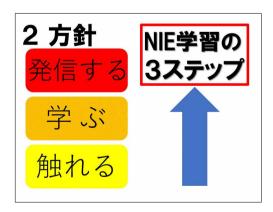
3 広げる(3分)

児童が感想を発表する

この取り組みで最も重要視した点は、児童に自 分なりの考えを持たせるということである。単に読 み取りの指導をするのではなく、児童に新しい物事 を知り、どのように考え、今後どのようなことを学ん でいきたいのかを考えさせた。新聞ワークシートを 使って互いに語り合う活動を全校で行ったのであ る。このような学校全体の取り組みを経て、NIE に「みんな」で取り組む土壌を作ることができた。

教師とNIE

本校のNIE実践は、「触れる」「学ぶ」「発信す る」という3段階で構成されている。よってこの実 践紹介も、その段階にそって紹介していく。



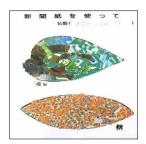
(1)新聞に「触れる」実践

■季節の葉っぱを作ろう(3年生)

新聞の色刷りの部分を使って季節の葉っぱを

作る取り組みを行った。教師が葉っぱの枠を印 刷した画用紙を児童に配り、その枠の中に色の ついた新聞を切り取ってちぎり絵のように貼って

いく取り組みであ る。簡単にできる 取り組みである が、出来栄えはと ても素晴らしく、一 人一人の葉っぱも 個性が出ていた。



■世界に一つだけの花を贈ろう(6年生)

6年生は卒業式の保護者へのプレゼントとし て、新聞で作る、コサージュを作成した。作成の 際には八代市立図書館の小出館長に制作方法 を指導していただいた。材料の新聞の色が一つ

上がった花は一つ 一つが全く違う花 となった。児童の心 がこもった贈り物に なり、保護者の方々

もとても喜ばれた。

一つ違うため、出来



(2) 新聞に「学ぶ」 実践例



■カタカナことばをさがそう(2年生)

教科書でカタカナの由来などを学習した後、

新聞の中からカタカナを探す学習を行った。基本 (カタカナについて)を学び、その学びを応用する (調べる)際に新聞を使うことで、とても効果的な 学習をすることができた。新聞からカタカナを探 すことで、私たちの身の回りには、外国から伝わっている言葉がとても多くあるということを実感 することができた。

■新聞スクラップをしよう(5年生)

新聞には、様々な興味深い記事がある。どの 記事に興味を持つのかは、児童一人一人様々で ある。自分が興味を持った記事をスクラップさせ ることで児童の社会への興味関心が広がると考 えた。



新聞スクラップは3つのステップで高めていった。

(ア)ステップ1:新聞を切り取る

(イ)ステップ2:切り取った新聞に感想を

書く

(ウ)ステップ3:切り取った新聞を自分なり

にまとめる

新聞の記事を簡潔にまとめ、自分なりの考えを 表現できるように、「イラストや見出し」を入れて まとめるようにさせた。このようにすると、自分の 思いや考えが更にはっきりするようになった。ま たスクラップを楽しむ児童が多くなり、お互いの スクラップを見て楽しむ児童も増えていった。

■私たちの生活の危機に気づく取り組み(6年生)



熊本日日新聞社「くまさん倶楽部の記事」

新聞の中には、しばしば私たちの生活の中の危険性が取り上げられている。スマートフォンとの関わり方は、特に私たちの生活に直接影響する課題である。校区の中学生の提案と、新聞で取り上げられていた特集を参考にして、「歩きスマホ」の危険性を考えた。この学習では単に新聞を読み取るだけでなく、新聞から学んだことを生かし、どのようにスマートフォンの使い方を変えていくのか。そのルールを児童自身に考えさせた。その様子は「くまさん倶楽部(熊本日日新聞購読者に配布される地域限定の冊子)」「熊本日日新聞」にも紹介された。

(3) 新聞から学んだことを「発信する」 実践

■体育館の壁を新聞でいっぱいにしよう(全校)

11月の学習発表会では、「体育館の壁を新聞でいっぱいにしよう」という取り組みを全校で行った。新



聞の内容は学年によって様々である。新聞の紙は理想教育財団から提供していただいたものを使用し、児童全員が体育館に自分の新聞を掲示した。学習発表会の際には、保護者の方だけでなく、児童も他の学年の作品を見るなど、情報発信の貴重な場となった。

■環境新聞づくりをしよう(5年生)

5年生は環境を守る大切さを学ぶために、「水 俣に学ぶ肥後っ子教室」に参加する。この教室 は単に学ぶだけではなく、学びを「発信」すること も重要な学習内容として位置付けられている。事 前学習として熊本日日新聞社が特集している 「水俣病の60年」を扱った。この新聞は、児童 向けに書かれたものである。児童はこの内容を熟 読・整理し、当日の肥後っ子教室に参加した。 事前学習を行っていたことで、児童は語り部の方 の話を深く理解することができていた。新聞記事



からの学び、現地での学びを踏まえたうえで児童 には自分の学びを新聞にまとめさせた。出来上が った新聞は、学習発表会で体育館に掲示し、保 護者・地域の方々に発信した。

■3分NIEパンフレットの作成(教職員)



発信したのは児童だけではない。教師も自分たちのNIEの取り組みをまとめて、近隣校の先生方や来校される先生方に発信するようにした。発信した内容はできるだけ簡単で、すぐに学級で実践できるものにし



ぼった。コンセプトは「3分で理解できるNIEの 入り口」である。NIEは単に一部の学校だけが実 践していても深まりはない。自分たちの取り組み を発信し、互いの実践を交流し合うからこそ、深 みのある取り組みが生れていくのだと考えている。

3 児童とNIE

(1) 新聞コーナーの設置(児童会)

新聞コーナーを設置し、毎日届く新聞の一面

を掲示するように した。新聞コーナ ーは昇降口前に 設置されており、 全校児童が常に 目にすることがで



きる状態にしている。特に、オリンピックなど、大きなイベントの際には、切り抜き記事なども掲載し、児童が新聞に興味を持つような工夫をした。

(2) 毎週水曜日は新聞クイズの日(児童会)

児童が新聞に 関心を持つよう になる工夫の一 つとして、NIE委 員会の児童が毎 週水曜日に校内



放送を行った。校内放送の内容は新聞に関係するクイズである。新聞コーナーに掲示した一週間分の記事からクイズを出題した。掲示してある新聞を読む必然性も生まれ、効果的な取り組みの一つになっている。

(3) 新聞輪投げ大会(1年生・児童会)

1年生と児童 会が共同企画を し、新聞輪投げ 大会を行った。 新聞は読むだけ の活用ではなく、



様々な使用の仕方があるのだということを知るための取り組みである。低学年から新聞に触れて、新聞を好きになってもらうことも意図している。輪投げ大会が終わった後は、新聞で作られた輪は1年生にプレゼントされた。大切に持ち帰る1年生の姿が見られた。

(4) NIE子ども新聞(児童会)

児童は、日々の 生活の中での思 いや願いを表現 する手段として、 児童会を中心と して「子ども新



聞」を作成し配るようになった。新聞を作成するために取材活動をし、「著説」という形で自分の考えや思いを表現した。発刊当初はなかなか読み手からの反応が返ってこなかったため、児童が戸惑うこともあった。しかし、行事に合わせて新聞を発行するなど、工夫を加えることで、新聞の感想を直接話してもらえるようになった。そのことが、児童の意欲にもつながり、現在までに約30号の児童新聞を作成することができた。この新聞は、本校の取り組みを児童目線で発信する重要な手段となっている。



(5) 新聞啓発PRビデオを作ろう(5年生)



秋の学習発表会では、児童が新聞をPRする ビデオも作成し、発信した。そのシナリオの内容 は児童と教師が一緒に考えた。話し合いの中で 最も時間をかけたのは「児童、保護者、地域の 方々が新聞をもっと読むようにするために何を伝 えるか」ということだった。児童から出された意見 は、「毎日少しずつ読むと、信じられないほど物知 りになれる」「物知りになると勉強がとても楽しく なる」ということだった。これは、児童が新聞に 触れてきて実感してきたことでもあった。この二 つの伝えたいことを、シナリオにまとめ、PRビデ オとして発表した。面白おかしく作られたPRビデ オは、当日とても好評を得ることができた。

(6) 新聞に投稿しよう(全校)

児童が学校で感じている思いや感動を是非社会に発信しようということで、児童が新聞投稿を行うようにもなった。毎月のように応募があり、月に一度は新聞社の投稿欄に児童の投稿が載せられるようになった。新聞投稿は反響がとても大きく、地域の方々から多くの激励や感謝の言葉が寄せられた。

4

保護者とNIE

(1) 新聞コーナーの設置(児童会)



6年生のみんなで毎日ボ ランティア活動をしてい ボランティア活動だ。今 て、笑顔を忘れてしまう。 とつい下ばかりを向い ているが、集中しすぎる いる。一生懸命に頑張っ ながらの取り組みだ。 手で良くしよう」と考え 長を遂げた。きっかけは してくれても、無視して 4年生が元気にあいさつ 学校にしたい 私は靴箱の掃除をして 福澤真羽12-小学生 「学校を自分たちの 私は大きな成 さん成長していきたい とができるように、たく 行動し、自分で考えるこ いる。これからも自分で 思えるようになったのも なっていけばいいなと思 私はちょっとずつの努力 ときは最高にうれしい。 成長したからだと思って ボランティア活動をして っている。そんなことを が笑顔いっぱいの学校に が積み重なって、 のあいさつが返ってきた 心がけるようにした。 気よくあいさつしようと 学校のみんなから笑顔 みんなに笑顔で元 今は掃除をする最

運動会等の行事に保護者も主体的に参加できる企画の一つとして、PTAと児童会の連携で郡築大人新聞という企画を行った。枠だけを書いた大きな新聞を運動場に運び込んだ黒板に貼り、保護者の方々に付箋で感想や意見を書き込んでもらうという企画だった。とても好評であり、運動会の日には約50人近くの感想が寄せられた。それを児童が取捨選択し、「大人新聞」という形でまとめた。

■新聞俳句を作ろう

国語では、季節の変わり目ごとに季節を味わう単元が設定されている。その単元で、保護者が参加しての「新聞俳句」の実践を行った。新聞俳句の条件は「言葉を



新聞から選ぶこと」である。この条件を付けることで、日頃使わない言葉にも目を向け、児童の表現の幅を広げることに繋がったと考えている。また、保護者は我が子と協力して、五七五の言葉選びをするなど日常とは違う、コミュニケーションの機会を持つことができ、俳句作りの時には笑顔があふれていた。



また、コンテストの賞を選ぶ際には、俳句に造 詣の深い児童の祖父に協力してもらい、表彰ま でしてもらうことができた。

5

地域とNIE

(1) 市政協力員さんとのふれあい給食会

児童が住む郡築は、干拓によって作られた。 この地に住む人々は、干拓の大変さとありがたさ を語り継いできている。学校でも、郷土の歴史を 受け継ぎ、郷土を発展させていこうとする心を育 む取り組みができないかと考えていたところ、市 政協力員の方々に、ふれあい給食会を開き、そ の中で干拓の話をしていただけることになった。 児童にとっては、自分の恵まれたくらしのありが たさを実感する非常に学びの多い時間となった。





郡築コミュニティーセンターだより 平成30年4月号より

「伝統を学んだふれあい給食」

先日、郡築校区の澤村校区長さまをはじめ、市政協力員の方々とふれあい給食会を 開催した。市政協力員さんの中には、生まれて初めて給食を食べたと言われる方も おられてとても楽しい時間だった。

ふれあい給食で私は二つのことを学んだ。一つ目は、郡築婦人会のこと。今年でなんと80周年ということだった。女性が団結し80年も活躍し続けていることに驚いた。 私もいつかは婦人会に入って地域を支える一人になりたい。

二つ目は、この地の歴史だ。郡築には「汐止記念祭」がある。いつ頃から始まった のか市政協力員の方にうかがうと、114年の歴史があるとのことだった。祭りを通 して郡築の伝統を次の世代に伝えておられるのだそうだ。

ふれあい給食を通して故郷のことをたくさん知ることができた。そして伝統が受け継がれることのすごさを知ることもできた。これからは、私たちがこの郡築を守り、発展させていく番だ。そのことがお世話になった方々への恩返しだと思う。



平成30年3月 郡築小学校6年

郡築コミュニティーセンターだより 平成30年4月号より

児童が感想を新聞に投稿したところ、公民館の方が、地域に配布するコミュニティーセンターだよりに、児童の学びを載せてくださった。また、その新聞を読まれた地域の方々が内容に感激して、粗品をもって児童を激励しにきてくださることにもつながった。



地域と共に実践した取り組みが新聞を軸にして大きく広がり、児童の学ぶ意欲を高めることに繋がった。

る 新聞社とNIE

職員研修では、NIEについて年間3回の枠を

取り、実践を深めるようにした。特に、1回目の 研修では、熊本日日新聞社の町野様に、新聞の 紙面の構成について、どのようにすれば効果的 な読み方ができるか等、丁寧に教えていただい た。新聞の読み方は分かっているようで、大人も

分かっていないことが多い。研修の後には「初めて知った」という感想が多く寄せられた。また、新聞を作る側の思いに触れることもできる貴重な場にもなった。





熊本日日新聞 平成28年11月27日朝刊より

熊本日日新聞社と郡築小5年生との共同企画で「未来予想図 何をプラス?」という取り組みを行った。本校には25年前の卒業生(平成2年度)が残した「50年後の郡築」という未来予想図が残されている。平成28年はちょうど26年目に当たり50年のちょうど中間地点に位置する。25年前の卒業生が考えた未来予想図に何かを付け足すとすれば何を付け足すのか考える取り組みである。

この学習においては、教頭と八代市立博物館が企画していた郷土の写真家、麦島勝氏の写真を扱い、まず「昔のくらし」について考えた。次に最先端技術が可能にする未来のくらしについて考えた。「過去と未来」を両方学んだうえで、私たちに本当に必要なものは何かを児童にプレゼンテーションしてもらい、その内容を話し合った。

この話し合いの様子は熊本日日新聞にも掲載 され、児童は自分たちの考えを紙上で発信するこ とができた。また、児童たちはとても達成感を味 わうことができた。

7 「みんな」で新聞を楽しむ 「NIEフェスティバル」

学校の研究の成果は、通常「研究成果発表 会」という形で公開することが多い。その発表会

4 発表会 みんなで

教職員 子ども 保護者 新聞社 市役所 図書館 老人会 婦人会 保育園 に参加するのは、主に「教師」と「児童」である。 しかし、本校の研究は「みんな」の取り組みであることを目指していた。

よって、研究発表会という形ではなく別の公開の仕方を考えるべきだという声が職員から出された。職員で様々に討議し、行きついたコンセプトが「フェスティバル」である。このコンセプトであれば、だれもが参加できるようになる。そこで、発表会の中身をすべて最初から見直し、会の持ち方、指導案の書き方、参加者の参加の仕方等、「すべて」の参加者を想定した会の持ち方を考えた。そのことにより、教職員以外からも多くの参加者を得ることができ、当日は、200人を超える大きな公開発表を行うことができた。

(1) 校長・研究主任・児童によるNIE研究の説明

NIEフェスティバルの最初に校長、研究主任、NIE委員会の児童が、本校の研究の概要や取り組みの内容を紹介した。特に児童の発表においては、自分たちが2年間で取り組んできたことを、劇にして発表した。



(2)研究概要冊子の作成

フェスティバルでは、研究概要を説明する冊子を準備した。特に、NIEということで新聞形式の研究発表冊子にし、だれもが読みやすく学校の取り組みが分かりやすいものになるように、写真や見出し、リード等の工夫を取り入れて作成した。





(3) 授業計画案集の作成

学校の研究発表会では授業の内容が分かる「指導案集」が作成される。しかし、NIEフェスティバルは教師以外の一般の方も参加される大会だった。そこで、一般の方にも



分かりやすい「授業計画案集」を作成することに した。教師以外の方が見ても、授業の内容や新聞を取り入れた意図を理解することができきるシンプルで分かりやすい計画案集になった。



(4)公開授業の内容

「みんな」の実践にするためにフェスティバルの 公開授業は、全職員・全児童が参加するように した。各学年の授業の概要を説明する。



● 触れる実践(1・2年生)

1年生・2年生は新聞に「触れる」実践を行った。1年生は「図画工作:おおきなかみでわっくわく」、2年生は「生活科:ありがとうをつたえよう」という授業テーマである。新聞を生かし、飾ったり遊んだりできる工作を作ることで、みんな笑顔になった。





② 学ぶ実践(3・4年生)

3年生・4年生は新聞に「学ぶ」実践を行った。3年生は「NIEタイム:この記事から思うこと」、4年生は「NIEタイム:一番ニュース教えます」という授業テーマである。両学年共に、新聞記事から内容を読み取り、学んだことを友達に伝える学習である。新聞記事を読む時間は週一回どの学級も行っており、様々なことを学んでいる。当日は、その成果が十分に発揮され児童が新聞から学んだことを沢山発表することができていた。





会 発信する実践(5・6年生)

5年生・6年生は新聞から学んだことを「発信する」実践を行った。5年生は「家庭科:食べて元気に」、6年生は「国語科:この絵、私はこう見る」という授業テーマである。学んだことは発信して初めて生きた知恵となるという考え方のもと授業を行っている。公開授業の中では多くの児童の発信があった。





(5)「みんな」が参加するシンポジウム・ワークショップ



● NIEシンポジウム

青海小学校 濱久人教諭のコーディネートの もと、「新聞が創り出す教育の可能性」〜教師が 変わり、教育が変わり、児童が伸びる〜というテ ーマでシンポジウムを行った。会場には教師、新 聞社、地域の方、保護者、児童代表等、様々 な立場の方々が参加し発言され、新聞の教育に おける可能性を追求した。 は、小学生と保育園児が協力してスリッパを作る ことで沢山の笑顔が見られた。









2 新聞コサージュワークショップ





八代市市立図書館館長の小出泰子氏を講師 として、新聞コサージュのワークショップを行っ た。「世界に一つだけの花」というタイトルで参加 者は自分のオリジナルの花を作成した。また、新 聞の内容を発展させた「大人の読み聞かせ」もあ り、児童も楽しむことができた。

4 新聞カフェ





❸ 新聞工作ワークショップ

八代市社会教育指導員の岡田富子氏を講師 として日々の生活に役立つ新聞工作ワークショップを行った。この日は災害時に役立つ、防災スリッパを作成した。保育園児も参加してのブース 熊本日日新聞社編集局長の荒木正博氏を講師として、新聞カフェを行った。このブースでは荒木氏から、新聞の楽しい読み方の講話があり、大人からも「初めて知った」という声が多く聞か

れた。また、参加した小学生も、新聞は持ち時間によって、効率的に読み方を変えることができることを学ぶことができた。

(6)新聞での報道

フェスティバルの内容は後日、西日本新聞や 熊本日日新聞で大きく記事として取り上げられ た。地域の方々もその記事を読まれ、学校と地 域が共に企画したNIEフェスティバルは大成功 となった。

普通の研究発表ではなく、「みんな」が関わる 新聞を軸にしてフェスティバルを企画し、運営し たからこそ得られた成果だと考えている。

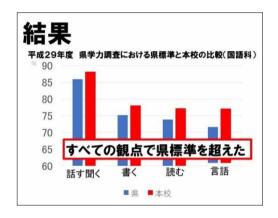


西日本新聞社 平成29年12月14日朝刊より

8 NIEの成果と今後の展望

(1)成果:学力調査の結果から

児童の学力は、2年間のNIEの取り組みにより大きく向上した。特に、課題としていた「国語科」においても、良好な成績を残すことができるようになった。NRTの学力調査、全国学力調査においても、本校は平均値を大きく上回る良好な成績を残すことができている。これは全校的なNIEの取り組みの成果であるととらえている。



(2) 成果:フェスティバル参加者の声から

● 児童

2年間このフェスティバルを目標にしてがんばってきました。私たちの委員会は授業だけでなく、沢山の大人の方々の前で、新聞の楽しさを伝える発表もすることができました。何度も練習して臨んだので、自分なりに満足しています。本当に「やってよかった」です。このNIEフェスティバルを経験したことで、郡築小学校のみんなはとても成長したと思います。ここで満足せずに、もっと成長できるように、これからも沢山の取り組みをしていきたいです。

② 職員

新聞を様々な形で活用したことで、児童 にとっての新聞が、ぐっと身近なものになっ たと実感しています。そして、一番変わっ たのは私、教師自身です。新聞を活用した 授業を考えるために、まずは自分自身が、 新聞を手に取る機会が増えました。色々な 活用の仕方を新たに知ることもできました。

❸ 参加者

NIEがいるいるな教科に活用できること が理解できました。子ども達の生き生きとし た発表、授業の様子、素晴らしいものでし た。先生方が全員で作り上げられた発表だ と感じました。また、発表の姿勢や意欲、 自己表現、他の人の話を聞くなど、NIEを 通して、子ども達はコミュニケーション能力 が伸びているなと感じました。

(3) 今後の展望

昨年度までは、熊本県NIE推進協議会より、 新聞の無償提供が行われ、恵まれた環境の中 で、NIEの研究を推進することができた。しかし、 今年度は無償提供がなくなり限られた新聞で実 践ができるものを考えなければならず、更なる創 意工夫が求められている。

ただし、新聞を読むことのみがNIEではな い。NIEの本質は新聞とどのように関わり、生か していくかを試行錯誤するということである。アプ ローチの仕方に限りはない。新聞に自分の感想 を発表する(投稿)することだけで、実践は飛躍 的に広がり、子どもの充実感は大きく高まる。

社会から信頼された公共財である新聞を生か

し、「みんな」の取り組みにすることは、私たちの 教育実践を大きく高めていくのだ。今後も、NIE の様々な可能性を模索し続けていきたい。

終わりに

本校の研究で最も大切にしてきたことは、「み んなで研究を行う」ということであった。このこと は、研究の最初に校長から語られ、職員が「み んな」で確認しあってきたことである。2年間の研 究は、必ずしも順風満帆ではなかったが、一つ 一つの課題を乗り越えることができたのは、互い に励まし、切磋琢磨し合ってきたからだと考えて いる。

NIEに取り組んで気付いたことは、「学校の教 育は学校だけで成り立つものではない」というこ とだった。取り組みを地域に開き、共に児童の 教育に向き合うことで、それまで見られなかった 児童のダイナミックな活躍を目にすることができ た。NIEの実践を通して、児童も教師も地域も 高まり合うことができた。

教育に新聞を生かす価値を腹の底から実感 することができた2年間だった。この素晴らしい 実感を今後の教育実践の充実に繋げていきた



通常の学級と特別支援教室の 協働的な授業づくり

- 発達障害児の考える力を高めるための指導の工夫 -





東京都立川市立第七小学校 代表 第七小学校 特別支援教室担当(巡回指導教員)

ずがわらま ゆみ 菅原眞弓

1957年生まれ。1979年千葉大学教育学部卒業。1979年東京都八王子市立第五小学校勤務。1977年東京都立川市立第一小学校勤務。1987年東京都立川市立第九小学校勤務。2008年東京都立川市立第七小学校勤務。現在に至る。連絡は、東京都立川市錦町5-6-43の同校まで。

第67回 読売教育賞から

【特別支援教育】

する菅原教諭(立川市で) 特別支援教室で児童を指導



が多すぎて混乱していたという。 受ける。通常学級では、数量の比較 読み上げていた。 女子児童が、紙に書かれた問題を 原真弓教諭(61)と発達障害のある に苦手意識を持ち、板書の情報量 ′限に絞り、紙や小型のホワイト この児童は週1回、個別指導を 市立第七小の特別支援教室。菅 このため正答に必要な知識を最

りの児童を受け持ち、4人の教諭

在は近隣の2校を含めた計50人余

常学級の担任との情報交換だ。何 が指導に携わる。最大の特徴は通 支援教室の指導が本格化した。現

水が多いでしょうか」。東京都立 青いコップは185・28。どちらの

「赤いコップは1以ファ・以。

特別支援教育 最優秀賞 東京都立川市立第七小学校

> 合わせて教え方も変える。 のかなどを事前に把握し、特性に につまずいたのか、どんな性格な

を深めた児童たちは、通常学級で

問題を解ける喜びを知り、

自信

からも手助けしたい」と語る。 諭は「まだスタートライン。 これ も意欲的になったという。菅原教 導に取り組んだ。優れた実践であり、 発達障害児の学習のみならず、通常 全国的なモデルになりうる。また、 達障害児の個に応じた長所活用型指 藤田和弘・筑波大学名誉教授「発 (中村守孝)

えれば、どちらが多いか分かりま 答えるようになった。 頃、児童ははっきりとした口調で す」。指導開始から30分が過ぎた ボードに書き出す。 「単位をそろ

発達障害児の自信育む

第七小では2016年度、特別

【最優秀賞選評】

学級の授業の改善ももたらした」

藤田和弘 筑波大学名誉教授

「発達障害児の個に応じた長所活用 型指導に取り組んだ。優れた実践で あり、全国的なモデルになりうる。ま た、発達障害児の学習のみならず、 通常学級の授業の改善ももたらした」

まえがき

本研究は、学習上の困難のために授業に参加したり、学習課題を理解したりすることがで きずに困っている子供たちのために、通常の学級担任と特別支援教室担当者が協働的に取 り組んだ教科指導と特別支援教育の融合を目指した実践報告である。

研究の目的

1. 本校の概要

本校は、立川市の19校ある小学校の中でも 最も児童数の少ない小規模校である。児童や教 職員が家族のように仲が良く、規律を守り素直で 明るい児童が多い。学習や行事には前向きに取 り組み、学校評価でも多くの児童が学校生活に 満足していると回答している。また、どの児童も 安心して学び、伸び伸びと学校生活を送ることが できるように「…みんなちがってみんないい」(金 子みすゞ 『私と小鳥と鈴と』) の詩を全クラスで 音読する機会を設けている。友達の良さや自分と の違いを認め合い、支え合う指導を大事にして 継続している。

一方で、どの学年も単学級であるためクラス替 えがなく、6年間同じメンバーで学校生活を送る ことになる。そのため、児童同士の人間関係が 広がらず、多様な感じ方や考え方に触れる機会 が少ない。また、日常的な会話は弾んでいるが、 自分たちで問題を取り上げ、話し合って問題解 決をしていこうとする主体的な態度は余り見られ ない。さらに、国や都の学力調査の結果では、 基礎・基本の問題、活用問題のどちらも平均を 下回っている。特に叙述に基づいた読解問題は 苦手さが顕著であった。その後、算数でも既習 事項を活用した問題解決的な学習も苦手である ことが分かった。つまり、主体性や学力の向上、

中でも考える力を高めることが学校全体の大き な課題となっていた。

通常の学級の他に、ことばの教室と特別支援 教室が併設されており、クラスの数は少ないが、 教職員の人数は20名を超えている。一人一人 の子供をきめ細かく、多様な視点から理解し、 支援していこうとする体制が整っている。学校全 体で児童の課題や良さを共通理解した上で、研 究や授業づくりに取り組むことができる点は、本 校の最大のメリットでもある。

2. 特別支援教室の概要

東京都は平成30年度を目標に、全ての小学 校に特別支援教室を設置する方針を打ち出し た。本市においては、平成28年度よりモデル事 業を開始して段階的に設置を進め、今年度全て の小学校に特別支援教室が開設された。中学校 区ごとに拠点校を設けて、巡回指導教員が1~ 2校の巡回校に週に1~2回巡回指導を行って いる。東京都のガイドライン(平成27年3月 東 京都教育委員会)によると、特別支援教室の設 置のねらいは、利用児童の学力向上と学級への 適応力を高めることによって、学級全体の運営を 安定させて学力向上を目指すこと、また、学級 担任と巡回指導教員の協働的な授業づくりの相 談をすることなどが示されていた。以前の情緒障 害等通級指導学級とは位置付けや役割が変わ り、より一層通常の学級との連続性、協働性が 求められていると理解することができた。

本校の特別支援教室を利用している児童の 学習上及び生活上の困難例としては、衝動性や 多動性が強く、感情のコントロールが苦手な児 童、不安感が強く対人関係が苦手な児童が半数 近い。その他に、国語科や算数科の学習の中で も、意味の理解や叙述からの読み取り、抽象的 な思考等において学習上の困難を抱えている児 童が半数近くいた。

3. 研究の目的

2012年に10年ぶりに実施された通常の学級 に在籍する特別支援を必要とする児童に関する 調査(文部科学省)によると、各クラスに6.3% の発達障害のある児童生徒が在籍し、学習上の 困難を抱えている児童生徒が 4.5%在籍するこ とが示された。本校に在籍し、特別支援教室を 利用する児童の中にも、学習上の困難のために 授業に参加、理解することが難しく、学習意欲や 自尊感情の低下、集団への不適応などの問題が 顕在していた。また、本校では、特別支援の児 童の在籍率が高く、学級担任は、学級経営や授 業づくりに悩みながら子供たちに向き合っていた。

今後、合理的配慮の考え方が教育現場に浸 透し、読み書き計算などの基本的な学習上の困 難への支援は ICT の活用等を通して進展すると 思われる。一方で、主体的に課題に取り組み考 えをもつこと、自分の考えを他者に説明する力は、 日々の授業の中で達成感や満足感を積み重ね、 友達との学び合いを通して育まれるものである。

そこで、特別支援教室では、学習上の困難を 抱える児童が、国語科や算数科授業に進んで参 加すること、学習課題を理解するための方法を考 える必要性が出てきた。同時に、対象児童が、 特別支援教室での学習を生かして、通常の学級 の授業に意欲的に参加し、学習課題が理解でき

るように、学級担任と日常の授業づくりを相談し、 通常の学級と特別支援教室との連携のあり方に ついても研究を深めることになった。

研究の経過

1. 国語科 物語文の読解力の向上について

平成26年度 通常の学級6回、特別支援教 室研究授業4回

平成27年度 通常の学級6回、特別支援教 室研究授業5回

平成28年度 通常の学級6回、特別支援教 室研究授業6回

2. 算数科 筋道立てて考える力の育成について

平成29年度 通常の学級3回、特別支援教 室研究授業3回

平成30年度 通常の学級6回、特別支援教 室研究授業4回

研究の仮説

①学習上の困難の原因や背景を的確に把握し、 自己の長所を活用して問題解決に取り組ま せることによって、主体的に考え表現する力 を身に付けさせることができると考えた。特に 国語科と算数科の授業はほぼ毎日行われて おり、特別支援教室にて事前に学習したこと を生かしたり、事後に学習することによって定 着を図ったりしやすい。また、発達障害の児 童は、汎化が苦手であるという特性があるた め、日々の授業の教材を活用して学習上の困 難を改善した方が良いと考えた。

②通常の学級担任と特別支援教室担当者が学級内の配慮、授業全体の指導の工夫等を一緒に検討したり、学級担任が自立活動を参考にしたりして、連続的、協働的に授業づくりを行うことによって、対象児童は、特別支援教室で身に付けた学び方、理解の仕方を活用して日常の授業の中で成果を発揮することができると考えた。

4

研究テーマを達成するための 具体的な手立ての例

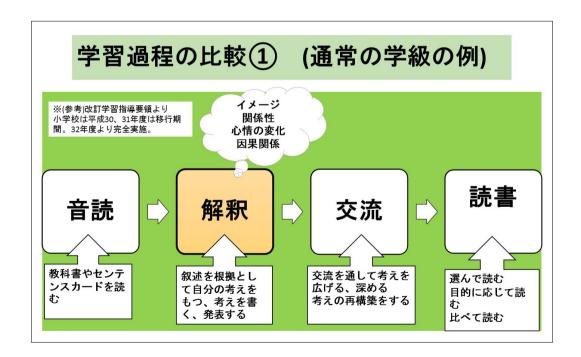
1. 指導仮説の作成

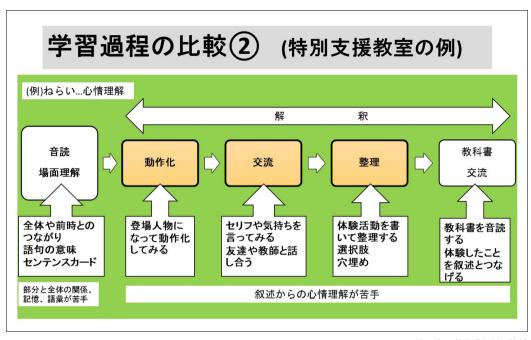
①通常の学級の授業で見られる学習上の困難を心理検査の結果や「学習困難整理表(七小版)」と関連付けて、原因や背景を的確に把握することによって、自立活動のねらいが焦点化され、より一層個に応じた指導が可能になると考えた。

②長所、興味・関心等一人一人の児童の良さを活用して手立てを検討することによって、 児童は主体的に自立活動に取り組み、自信を 高めて通常の学級で成果を発揮し、学習上の 困難を改善すると考えた。

2. 学習過程の工夫

①児童の学び方に応じて自立活動のねらいを明確にした後、一つ一つの学習活動と授業の展開の仕方を考えた。国語科の例では、前半にお話全体の文章構成や前時の復習、語句の意味理解や場面理解、心情理解の活動等をねらいに応じて選択して設定し、後半に教師や友達との交流活動を設定した。国語科は、通常の学級の授業の進捗状況に合わせた場面の選定、単元全体を通して重要な場面の選定など、児童の通常の学級での様子、児童や学級担任の考えも参考にして検討することにした。





物語文の学習過程例の比較

算数科の例では、前半に学習用語の意味 理解や重点指導事項の理解、後半は前半で 学習したことを活用した問題の自力解決を設 定した。算数科では、各単元の重点指導事 項について学級担任と共通理解しているの で、毎時間同じ展開で進めることが多かった。

②学習過程を決定した後に、一つ一つの学習活動ごとに児童の予想されるつまずきと手立てを考えておくことによって、児童が自立活動のねらいを十分に達成することができると考えた。

指導内容と学習上の困難、 及び自立活動例

1. 国語科物語文の学習

通常の学級の国語科授業では、作品の設定、

視点、表現技法、中心人物の変化、主題の五つの論理(観点)による読み方を児童に身に付けさせ、論理的な読み方を指導することによって、どの物語文も自力読みができるように指導をすることになった。(※参考「ユニバーサルデザイン国語授業」(明治図書)筑波大学付属小学校 柱聖)

特別指導教室では、通常の学級の指導を参考にしながら、物語文を読む際の学習上の困難を次のように整理した。

● 一ア 音読の学習上の困難

物語文の学習では、まず音読を通して物語文 全体のあらすじを理解することになる。

その際に見られるつまずきを取り上げ、原因や 背景として考えられることを次頁に整理した。

音読の学習	学習上の困難	原因や背景にある特性等
平仮名の読み カタカナの読み	文字の読みを覚えることが苦手	音韻認識の低さ(音ー文字変換の弱さ)視覚的ワーキングメモリの弱さ(文字の形態を 覚える)
単語の読み	単語を意味のあるまとまりとして読むこと(一文字読みになる)や単語の意味の理解が苦手	・語彙力(特に抽象的な言葉)の低さ・知識の定着困難・興味・関心の偏り・視覚的ワーキングメモリの弱さ・音韻認識の弱さ
漢字の読み	音訓読みや文脈に応じた読み方、 意味の理解が苦手	音韻認識・視覚的ワーキングメモリの弱さ語彙力、知識の定着のしにくさ
文の読み	文末の読み間違い、読み飛ばし、文 の意味の理解が苦手	• 衝動性(思い込み)・注意・集中(一点に集中・ 持続力)の苦手さ・眼球運動の苦手さ
文章の読み	文末の読み間違い、読み飛ばし、読 み続けることが苦手、文章全体の内 容の理解が苦手	・衝動性、注意・集中や眼球運動の苦手さ・情報の多さへの混乱(整理の弱さ)・興味・関心の偏り

● 一イ 音読の困難さを改善するための自立 活動例

【抽象的な言葉の意味の理解が困難な児童への 自立活動】

「封筒」「ラーメン」等具体的な言葉の意味は 理解できるが、「協力」「親切」等の抽象的な言 葉の意味を理解すること、また、文脈の中で動 作を表す言葉を理解することが苦手な児童が多 い。視覚化による理解が得意な児童に対して次 のような指導の工夫を行った。

○「語句かるた」……単語と説明文、画像 を三点セットにして、かるた遊びをしなが ら語句の意味を理解できるようにした。 本児は、視覚的な理解が得意なので、画 像と説明文を結び付けて理解できるよう に提示の順序にも配慮した。また、「親 切」という言葉のイメージ画を数枚用意 して、どれも親切を表す行動であること、

それらを合わせて「親切」という言葉で 表すことができることも指導した。物語文 では、感情や関係を表す言葉が多いのだ が、本児にとっては、言語と視覚教材を つなげることが有効であった。

○「ICT の活用」と「動作化」 ······「(ねこ がのき下に) 走り込む」という言葉を理

解するために、 まずパソコン で叙述や挿絵 から場面の様 子を理解し、そ の後実際に猫 のぬいぐるみ を速さの調整 をしながら動 かしてみた。



パソコンで場面理解



ぬいぐるみを動かす

● ウ 通常の学級での指導の工夫

通常の学級においても視覚化や簡易辞書の 作成等の工夫が行われたため、前述の児童も授 業中に活躍する姿が見られた。

○「画像の活用」……特別支援教室同様、 授業に必要なキーワードを写真やタブレ ットで提示しながら、児童と言葉の意味 を一緒に考える活動を取り入れた。

- ○**「単語シール」** ……キーワードの近くに 言葉の意味を説明するシールを貼らせ た。
- ○「難解語句一覧表」……特別支援教室 で作成した「語句カード」をプリント集 にして、単元で使用するワークシートの 中に取り入れた。

2 − ア 場面理解の学習上の困難

場面理解の学習例	学習上の困難	原因や背景にある特性例
場面の様子の理解	文章を読んで内容を読み取ること が苦手	観点に基づいた情報整理が困難 (いつ、どこ、だれが、どうした等)
	場面の様子をイメージしたり、雰囲 気を感じ取ったりすることが苦手	・イメージの形成が困難・状況や心情と関連付けることが困難・一般常識や対人関係のスキルを理解することが困難
会話文の理解	誰がどのような状況で誰に話して いるのか理解することが苦手	・場面の様子や前後の文脈と関連付けて思考することが困難
話の順序や 文章構成	話の順序や文章構成を考えること が苦手	情報量の多さへの混乱(整理の弱さ)継次的な思考が困難

2 − イ 場面理解の困難さを改善するための 自立活動例

【叙述から場面の様子を読み取ることが苦手な 児童への自立活動例】

○ 観点整理表……「いつ、どこ、だれ、ど うした」の観点で場面を整理し、表を作 成することによって、場面の様子を説明 する方法を身に付けることができる。場面 の順序や二つの場面の比較も考えやすく なる。挿絵も一緒に取り入れるとより分 かりやすい。いわゆる作品の設定につい て、自分で理解できるように表を作成す ることは、情報整理が苦手な児童にとっ ては、他の学習にも活用することができる ので、とても有効であると考えた。最初は 「いつ、どこ、だれ、どうした」の観点で 表作りを始めるが、物語文の内容に応じ て観点を増やしていくこともあった。対象 児童も、表を活用することによって、とて も理解が深まっている様子が分かった。

○ 「ICT」……会話文の内容から場面の

様子を理解することが苦手な児童がい た。日常的にも状況理解が困難な様子が 見られていた。まず、誰が誰に対して話 していることなのかを理解できるように 叙述と挿絵、画像などを組み合わせて、 パソコンでクイズを作成した。児童は、 教科書も参考にしながら会話文について 考えることができた。



会話文の理解のためのクイズ

○ 「場面の再構成用絵カード」······言語力 が高い児童には、場面に登場する人物や 背景画の絵カードを用意し、教師と会話 をしながらホワイトボードの上に並べた り、吹き出しを書いたりする活動を取り入 れた。その後に音読する学習を行い、児 童は理解を深めた。

【場面と場面をつなげて物語文を理解していくこ とが苦手な児童への自立活動例】

○「はじめ・中・おわり」の文章構成カード ……どんな物語文も必ず「はじめ・中・お わり」で各場面のセンテンスカードやまとめ の文、挿絵を分類する活動を取り入れた。 「はじめ」は、お話の紹介、「中」は、出来 事が起こる、出来事が変わる、「おわり」 は、お話のまとめという起承転結の意味を

理解しながら、物語文を構造的に理解して いくことが自力読みの力を付けるためにと ても大切である。どの物語文も同じように 文章構成を読み取る力を付けることは、作 文を書く学習にも活用することができる。た だ、「はじめ・中・おわり」の意味の理解 が困難な児童には、事前に児童が書いた 短作文や身近な話を起承転結の順番に 並べる学習を取り入れて理解を促した。



文章構成を考える学習

○「イメージ図面の上でペープサートを 操作する活動」……場面と場面をつなげ て理解していくことが苦手な児童がい る。例えば、中心人物の名前の呼び方が 変わると中心人物の人数が増えたととら えてしまうのだ。挿絵を模造紙の上に並 べたり、画像を加えたりして、イメージ 図面を作成し、その上を中心人物のペー プサートを順番に操作していく。挿絵の そばには、センテンスカードを並べてお き、読み上げながらお話の順序通りにペ ープサートを動かしていく。児童は、全 ての活動を一人で意欲的に取り組み、最 後にセンテンスカードだけを板書に順番 に並べることができた。



イメージマップの上でペープサートを動かした

2−ウ 通常の学級での指導の工夫

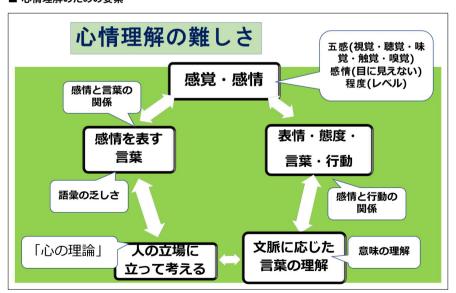
通常の学級においても視覚教材を活用した学 習が行われた。

- 挿絵やセンテンスカードの並べ替え…… 板書に挿絵やセンテンスカードをランダ ムに並べておき、正しい順番に並べ替え る学習を取り入れた。
- 文章構成表の活用……「はじめ・中・お わり」の文章構成表を模造紙に書いて教 室に掲示したり、ワークシート集の最初 に取り入れたりした。

❸-ア 心情理解の学習上の困難

人の感情や関係は、目に見えないものなので、 特に行動の意味や価値などの理解が苦手な児 童、社会常識や公衆道徳などの理解が苦手な児 童にとっては、とても難しい学習になっている。 また、人の感情は、環境や状況によって影響を 受けることについて理解することは、自己理解や 他者理解を深める上で大切である。国語科の学 習ではあるが、児童が自分の感情や環境との関 係についてどの程度理解しているかどうかにつ いて、教師が把握しておくことは必要なことであ る。さらに「心の理論」(*Theory of Mind 英 国 ガイ・ウッドルフ)を理解していても、登場 人物の心情を考えることが苦手な児童がいる。 文章を読んで文脈や場面の様子から心情を理 解することの難しさを改めて知らされた思いであ った。個々の児童の学習上の困難に応じて自立 活動の内容を計画できるように、P11 上図のよう に整理しておいた。一人一人の児童の学習上の 困難の改善の様子に合わせて、活動のレベルを 上げていくようにした。

■ 心情理解のための要素



心情理解のための段階的な指導 多 支援の程度 少 選択肢 動 文章 作

心情理解の学習	学習上の困難	原因や背景にある特性等の例
心情や関係を表す言葉	言葉の意味の理解が苦手	• 意味や価値、目的などを理解することが困難
叙述から心情を推察する学習	表情、行動、会話等から心情を 推察することが苦手	・人の立場に立って考えることが困難・状況と関連付けて考えることの困難・感情、表情、会話、行動を関連付けて考えることが困難
自分の経験と関連付けて考える	自己の感情の理解や経験を基 にして考えることが苦手	•自己の感情、経験を関連付けて考えることが困難
心情の変化の原因を考える学習	因果関係を理解することが苦手	・論理的に思考することが困難

❸ーイ 心情理解の困難さを改善するための 自立活動例

【叙述から心情を推察することが苦手な児童への 自立活動例】

○ 「指人形やペープサートの操作活動…… 指人形は、自分と一体化しながら登場人 物になることができ、行動したり会話をし たりすることができる。一方で、動きや会 話を客観的に見ることができる。児童は、

登場人物になりきりながら、他の登場人物 の動きや位置を確かめることができ、関係 性の中で心情理解を深めることができた。



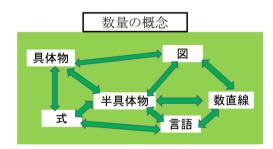
- 「動作化」……全身で登場人物になって 動作をしたり、会話をしたりすることがで きる。体験活動を通して感じた気持ちを 表現することによって、登場人物の気持 ちを考える。ただ、その場で台詞を考え ることが苦手な児童には難しい活動であ った。
- 「選択肢」……ある場面の中心人物の心 情を考える学習では、叙述を基にして推 察するのだが、自分だけでは明確な根拠 を示して考えることが苦手な児童には、 いくつかの選択肢を提示することが有効 である。選択肢同士を比較したり、選択 肢の言葉がヒントになったりして、曖昧だ った自分の考えが明確になることもある。 全く心情理解ができなかった児童が、数 年間の学習の後に選択肢を手掛かりにし て登場人物の心情を考えることができる までになってきた。選択肢は、友達の考 えを参考にして考えるステップにもつな がる可能性もあり、今後も選択肢の内容 や提示の仕方等について工夫が必要で ある。

2. 算数科の学習

本校児童の算数科の学習における大きな課 題は、日常の授業の様子や学力調査の結果、児 童アンケート等の結果から、既習事項を活用し て筋道立てて考え問題解決する力や友達との交 流を通して考えを広げたり深めたりする力を高め ていく必要があることが分かった。

特別支援教室では、それらの課題の中で、特に 学習用語の理解や概念を形成していく力を高めて いく自立活動が必要であると考えた。数量の概念 化の学習では、式や図等いろいろな表し方をしても 同じ数量であることを理解することの難しさが見ら れた。そこで、具体物を他の表現方法に変換する 過程に焦点を当て、一つの過程を細分化し、他の 表現方法に置き換える操作活動を取り入れた。

■ 数量の概念形成の要素



●−ア 学習用語を理解する学習での困難

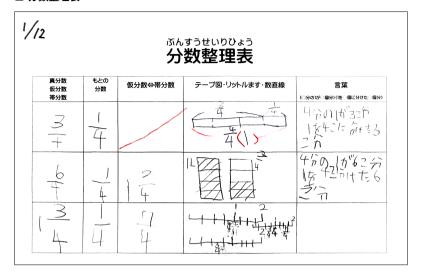
学習用語の学習	学習上の困難	原因や背景にある特性等の例
学習用語の意味を理解する	学習用語の意味を理解することが苦手	•抽象概念理解の困難さ

● 一一 学習用語を理解する学習上の困難を 改善する自立活動例

○ 「言葉と式、図を分類する活動」……「ぜ んたい」「ぶぶん」(2年生)を理解するこ

とが難しかった児童には、「ぜんたい」「ぶ ぶん」という単語カード、問題文、式、図 のカードを用意して、仲間同士に分類する 活動を取り入れた。また、教師が分類した

■ 分数整理表



カード類に「ぜんたい」「ぶぶん」のカード を合わせる活動も取り入れた。本児は、操 作活動が得意なので、単元を通して徐々 に理解が深まっていく様子が分かった。

○「分数整理表」……「4年牛の分数の学 習では、真分数、仮分数、帯分数という 言葉が学習用語として使われる。本児は、 国語の学習でも表を活用して理解するこ とが得意なので、分数、図、言葉、数の 量を表で整理する活動を取り入れた。ま た、後述する「分数じゃんけん」の活動で は、帯分数と仮分数の変換活動を行った が、その際にも言葉の意味と数量の関係 を理解できるよう指導した。

ローウ 通常の学級の指導の工夫

- ○「掲示物」……単元の学習の間、学習用 語を教室内に掲示していた。
- 「ノート指導」……学習用語をノートに定 義を書かせて、必要なときに、いつでも振 り返って活用できるようにした。
- ○「基礎・基本の指導の徹底」……特別支 援教室同様、単元を通じて、帯分数と仮 分数の変換技能の指導、図のかき方の指 導等について個に応じた指導を繰り返し
 た。対象児童も、個別の指導を受けて、 理解を深めていく様子が見られた。

2-ア 数の概念を理解する学習上の困難

数の概念を理解する学習	学習上の困難	原因や背景にある特性等の例
数の表し方の学習	数の表し方が異なっても数量は 変わらないことを理解することが 苦手	量の保存が困難本質的な内容を抜き出して比較し共通点を探すことが困難

2-イ 数の概念を理解する学習上の困難を 改善するための自立活動例

○ 「操作活動」……4/4という分数と1 が同じ数量であることの意味を理解する ことが苦手な児童に対して、本児の好き なチョコレートの模型を作成し、1/4枚 のチョコレートが4枚とまるごと1枚のチ ョコレートを重ね合わせる操作活動を取 り入れた。その結果、実際に同じ数量で あることを理解することができた。1枚の チョコレートには、1/4枚ずつの点線を 入れたものと線のないものを用意し、具 体物(1/4枚×4枚)⇒点線の入った 1枚⇒点線が入っていない1枚⇒半具体 物(チョコレートと同じ大きさの紙)のプ ロセスをさらに細分化することによって、 同じ数量であることを理解する活動であ った。その後、対象児童は、通常の学級 において意欲的に授業に参加し、分数の 意味を理解することができた。

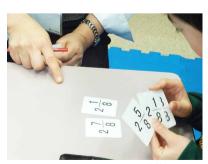
❸-ア 数や数量関係を理解して、式や図で表す課題での学習上の困難

数や数量関係を理解して、 式や図で表す課題	学習上の困難	原因や背景にある特性等の例
数量関係を理解する学習	数量を別の表し方に変換するこ とが苦手	量の保存が困難単位量の理解が困難
筋道立てて問題解決する 学習	既習事項を活用することが苦手 自力解決が苦手	・継次的な思考が困難・既習事項と関連付けて考えることが困難 (考え方の類似性に気付きにくい)・既習事項を記憶しておくことが困難

❸ーイ 数や数量関係を理解して、式や図で表 す課題での学習上の困難を改善するための自 立活動例

○ 「分数じゃんけん」 ……本児は、数の概 念を理解することが苦手な児童であった ため、仮分数と帯分数の大小を比較する 活動を遊びながらできるように計画し た。仮分数カードと帯分数カードを作成 し、教師とじゃんけんをして勝ち負けを考 え、根拠を説明する活動を取り入れた。 数直線を参考にする活動も併用した。自 分の持ち札から選んでカードを出して勝 敗を競う活動とカードを裏返しにしてお

いて大小を比較する活動を行う中で、対 象児童は、仮分数⇒帯分数、帯分数⇒ 仮分数の変換活動をスムーズに行うよう になり、通常の学級で自信をもって授業 に参加する姿が見られた。



分数じゃんけん

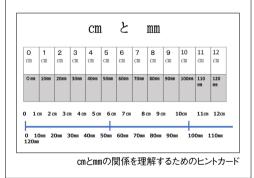
○ 「多様な解決方法を説明する活動」……

対象児童は、一つの解決方法にこだわ り、多様な見方・考え方を理解すること が苦手であった。そこで、教師が数通り の解決方法を図やタイル等で用意し、教 師がどのように考えたのかを児童が説明 する活動を取り入れた。相手の立場に立 って解決方法を説明する経験は、日頃パ ニックがあり、対人関係でトラブルが多い 本児童には、とても意味のある経験とな ったと考える。対象児童は、視覚認知や 空間認知が弱く、絵や図をかいて説明す ることは苦手であったが、教師が考えた 解決方法を言葉で説明することはできて いた。通常の学級では、解決方法の説明 まで意欲的に発表している姿が見られた。



考えを説明する際に使うツール表

○「数量の関係性や活用力を高めるため の自立活動」 …… 2年生のA児は、国語 力は高いが、算数の抽象的な思考が苦手 なため、数や量の概念の理解、式を立て て筋道立てて考えることが苦手であった。 2年生では、「長さ」や「水のかさ」の単 位換算の学習が始まる。そこで、通常の 学級で「水のかさ」の学習が始まる前に、 再度「長さ」の単位換算の復習を行い、 指導計画を工夫した。本児は、言語力が 高いので、式と言葉での活動を中心に指 導しながら、本児が苦手としている数量 の関係性の理解をピンポイントで指導し た。例えば、1cm=10mm、10mm=□ cm、10cm=□mmなどの数量の関係性は、 操作活動とヒントカードにより理解を促 した。また、「長さ」の単位換算の学習で 学んだことを基に、「水のかさ」の単位換 算の学習を行った。実際に水の量を量る 活動も取り入れ、実際的な理解も促した。 1L=10dLを基に、自信をもって単位 換算を行う姿が見られ、通常の学級でも 一人で問題を解くことができていた。



通常の学級の授業づくりと 個別の配慮、学級経営

1. 通常の学級の授業づくり

通常の学級には、特別支援教室を利用する児

童だけでなく、同じような学習上の困難を抱えて いる児童がいる。情報量が多かったり、解決方 法が複雑であったりすると混乱する姿が見られ る。そのため授業で一番深く考えさせたい学習課 題を具体的に絞り込むようにして、本児のめあて を焦点化した。また、解決方法に見通しをもち、 自分から進んで問題解決に取り組むことができ るように、イメージ化や教材のしかけ等の指導の 工夫にも取り組んだ。そのためには、各教科の 教材研究がとても大切であることが分かった。

2. 個別の配慮

特別支援教室の児童には、思考力を高める上 で見られる学習上の困難だけでなく、他にも様々 な学習上の困難がある。次のような配慮を行って いる。

- 見通しがもてるようにする
- 情報量に配慮する
- 話す、聞く活動へのサポート
- 読むことへのサポート
- 書くことへのサポート
- ・指示は短く、明確に出す
- 待つ、聞く活動はできるだけ減らして、多 様な活動でテンポ良く進める等

さらに、これらの配慮が授業全体の中に含ま れていることによって、特定の児童だけでなく、 学習上の困難がない児童も学びやすい授業にな った。

3. 学級経営

特別支援の児童が学びやすい学級集団づくり

は、他の児童も学びやすい学級となるはずであ る。そのためには、次の4点が学級経営上重要 であると考え、取り組んだ。特に本校は全学年 単学級であるため、学校全体で一貫性継続性の ある学級経営が求められた。

- ●学習環境(物的環境)……安全第一、整理 整頓、刺激物の除去、清潔感
- 2学習環境(人的環境)……安心感、居場所 があること、助け合い・支え合いの風土、だ れでも活躍できる機会がある、良さと違い を認め合う
- ③学習規律……チャイム着席(時間を守る)、 授業準備、話す・聞くルール、姿勢の保持
- 4 授業環境⋯⋯板書の構造化、見通し、ノー トの取り方、学習用具の約束

通常の学級と 特別支援教室の連携

連携のねらい、計画、配慮点などをまとめて 学校の教育計画の中に入れ、組織的に連携を進 めることができるようにした。

1. 個別指導計画の作成

本市では、平成29年度より通常の学級と特 別支援教室の個別指導計画を A 4一枚の中に 一体化し、上段に通常の学級の指導目標と達成 のための手立て、下段には、それを達成するた めの特別支援教室の指導目標と手立てを記入 することになった。相互に細かい情報交換を行 い、話し合いを重ねた上で協働的に個別指導計 画を作成している。本研究を進める際に、有効 な個別指導計画であることは言うまでもない。

2. 合同教材研究

対象児童の年間指導計画に基づき、必要な単 元は合同教材研究を行っている。系統的段階的 な指導内容、既習事項、予想される児童のつまず き、指導の工夫等について相談し、重要な指導内 容や手立てについて共涌理解を図るようにした。

3. 指導計画の作成

通常の学級の指導計画に合わせて、特別支 援教室の自立活動の計画を立てる。児童本人や 学級担任、保護者とも相談して、予習的に事前 学習として計画するか、単元終了後に定着の様 子を見て計画するか検討する。また、単元開始 後の通常の学級における児童の様子を見て、指 導内容や指導方法を変更することもある。

4. 相互授業参観

特別支援教室の担当者は、通常の学級の授 業をできるだけ参観するようにしているが、巡回 指導もあるため実際には行けないことも多い。そ の場合は、各校に配置されている専門員に依頼 し、授業記録を取ってもらっている。逆に、通常 の学級の担任には、特別支援教室の授業やビデ オ録画を見てもらい、指導の手立てや配慮の仕 方を理解してもらう機会としている。

5. 学習指導案作成

通常の学級における指導目標とその目標を達 成するための特別支援教室の目標を併記し、通 常の学級の学習指導案には、対象児童への個別 の配慮等を併記して一緒に製本して作成するこ とによって、連続的な授業づくりであることが分 かるようにした。

6. 評価

特別支援教室の自立活動の評価は、特別支 援教室の指導後の評価だけでなく、「通常の学 級において、特別支援教室で学習したことを生か して授業に参加しているか」「学習課題を理解す ることができたか「分からないことは友達や教師 にヘルプを求めているか」等の観点で評価する。 単元全体を通して、授業態度、提出物、ノート、 ワークテスト等に関する情報も合わせて、学習上 の困難が改善できたかどうか評価する。

研究の成果と課題

1. 研究の成果

- **○**学習上の困難の原因や背景を分析して 整理することによって、ねらいが焦点化さ れ、自分の長所を活用した自立活動を行 うことができた。その結果、児童は意欲 的に活動に取り組み、ねらいを達成する ことができた。
- 2 通常の学級と連携した自立活動に取り 組むことによって、児童は、通常の学級 の授業にも意欲的に参加し、理解を深 め、自分の考えをもつことができた。国 語科の読解指導では、論理(読み方の観 点) に基づいた指導、算数科は各単元の

- 重点指導事項、学習用語や概念の形成 の指導に絞ったことも有効であった。
- 3 通常の学級の授業改善、学級経営の改 善が進み、学校全体としても主体的に考 え表現する児童が増え、学力向上の兆し も見られた。

2. 今後の課題

の困難の原因や背景を分析、整理し、系 統的な指導や一般化ができるように、さら に自立活動の実践例を増やす必要がある。

- 2通常の学級で行動面や対人関係で問題 が続いた結果、特別支援教室につながる 児童が多い。しかし、自己理解が深まり、 情緒面が落ち着いてくると、学習上の困 難が残っているケースがある。今後、学 習上の困難と生活上の困難の関連につ いて研究を深めていく必要がある。
- ③今回の研究は、本校の児童を対象に行っ たが、今後は巡回校においても同様の自 立活動ができるように、各校において教 材の整備等計画的組織的な特別支援教 室の運営や通常の学級担任との連携を 目指していくことが必要である。

あとがき

5年間にわたり、通常の学級担任と連携しながら特別支援教室の自立活動について研究 を進めてきました。本研究は、足立区立こども支援センター井上啓一先生、明星大学小貫悟 先生、同じく廣瀬由美子先生、日野市立第三小学校の先生方、調布市子ども発達センター宇 賀神るり子先生に多くの貴重なご指導をいただきました。また、いつも励まし応援してくださ った本校校長上村一美先生はじめ教職員の皆様にも心より感謝申し上げます。

折しも障害者雇用法の記事を新聞で度々に目にするようになり、障害のある方々の働く環 境が整備されつつあることを嬉しく思うとともに、本校で学んだ子供たちが、これからも自ら 学習上の困難を改善して主体的に考え表現する力を磨き、将来自己のもてる力を十二分に 発揮し、自己実現できるよう願わずにはいられません。

講 評

【国語教育】 斎藤 孝 (明治大学教授)

6件と応募件数こそ少なかったが、優秀賞のような力の入った実践が寄せられた。全国の学校で日常的に行われている指導法の効果に疑問を持ち、改善策を工夫する取り組みなどだ。国語科には、従来当たり前のように行われてきた指導法に改善の余地がある。次回も、基本課題に対する改善実践の報告を期待したい。

【算数•数学教育】 秋山 仁 (東京理科大学教授)

全9件の応募作は児童・生徒に、深く考えてもらおうという目的意識を持った実践だった。AIなどの技術進歩の中、算数・数学教育はますます重要になる。生徒・児童が社会に出た後に「学習が役立った」と実感できたり、数学教育関係者以外も面白いと感じられたりするような実践を、次回も期待したい。

【理科教育】 滝川 洋二 (NPO法人ガリレオ工房理事長)

応募は14件。この数年の中でも、かなり高レベルな研究が集まった。特に、高校のクラブを通じての指導に優れたものが多かった。企業の研究者だった人材が理科支援員として活躍するなど、先生以外が理科教育を支える実践も多かった。IT時代の理科授業への取り組みなど、新しい工夫もあった。

【社会科教育】 谷川 彰英 (筑波大学名誉教授)

応募件数は18件。学校以外に教育委員会、大学、法律事務所からも各1件ずつあった。ここ2、3年の主権者教育ブームがあったことにもよると思われるが、「公民」に属する作品が圧倒的に多かった。一方、力作はあったものの、「歴史」に関する実践報告が減少していることが課題となった。

【生活科・総合学習】 奈須 正裕 (上智大学教授)

20件の応募があった。「資質・能力の育成」「深い学び」など、新学習指導要領に応じた実践に取り組んだ挑戦的な報告が多数あった。半数以上の報告が、生活科・総合学習の必須条件「探究」を自然な形で実現している。ただ、実践が精緻な反面、ダイナミックさに欠けるところがあったのは残念だった。

【健康・体力づくり】 田中 喜代次 (筑波大学名誉教授)

応募3件と例年並みだったが、どれも優れた作品だった。一つは「弁当の日」というユニークな実践活動の有益性に関するもの。もう一つは、言語活動がバスケットボールの学習成果に与える影響を検討した報告。最優秀賞は、熊本地震による児童のストレスを緩和させた実践。2年余りをかけた力作だった。

【**外国語・異文化理解**】 田近 裕子 (津田塾大学教授)

応募は5件。最優秀賞、優秀賞に選ばれた実践は、近年、スキルとして使える英語や音声中心の指導に注意が向けられる中、生徒の心や知的発達といった学校教育の本質に関わる内容を扱っている。いずれも優れた取り組みであり、それを実践する教員がいることが頼もしい。

【児童生徒指導】 河野 義章 (東京学芸大学名誉教授)

全7件の応募作品中、教室の中で子どもと向かい合っている実践報告は1件だけだった。新学習指導要領への移行期は、児童生徒の生活に先生の目が届かなくなりがちになるが、「チーム学校」として学校と地域が連携し、また、スクールソーシャルワーカーが着実に成果をあげた実践で興味を引かれた。

講 評

【カリキュラム・学校づくり】 佐藤 学 (学習院大学特任教授)

応募は15作。アクティブ・ラーニング、地域連携、ICT教育など、多岐にわたり、レベルも例年以上に高かった。特に高校から6件の応募があり、いずれも秀逸だった。学校改革と授業改革が進展する中、個々の教師の取り組みではなく、学校を単位とする実践として成果を見せているのが、新たな傾向と言える。

【地域社会教育活動】 佐藤 一子 (東京大学名誉教授)

コミュニティ・スクール、放課後学習支援など、過去最多の22件の応募があった。地方創生や地域活性化を目的に大学の研究室や産業団体とも連携、児童・生徒が地域への愛着を深め、自己有用感を獲得した報告もあった。教育には、高いコーディネート能力や多様な連携が必要なことが示唆されている。

【NIE】 小原 友行 (福山大学教授)

今回は13件の作品が集まった。新学習指導要領の実施を控え、アクティブ・ラーニングや学習意欲をキーワードにした作品や、失敗を克服して数年にわたり挑戦し続けるストーリー性を持った深みのある作品も見られた。NIEの可能性を広げる意欲的な取り組みもあり、将来の可能性を感じさせてくれた。

【特別支援教育】 藤田 和弘 (筑波大学名誉教授)

応募は16件で、数年にわたる継続的な取り組みがそろった。小・中・高に加え、卒業生までを含む幅広い年齢層が対象で、内容も教材開発、学校図書館や交流・共同学習と多岐にわたっていた。特に授業づくりや教科教育の実践に優れた作品があり、従来の枠組みを超える新たな視点からの挑戦が印象的だった。

【音楽教育】 山下 薫子 (東京芸術大学教授)

2件と応募数は少なかったものの、いずれも長年にわたって学校関係者や保護者、地域の人材がチーム一丸で、情熱を持って取り組んだ成果だった。音楽活動を軸に、教科の枠を超えて横断的な活動や学校づくりにまで発展させている。音楽の持つ教育的可能性を証明した、質が極めて高い実践がそろった。

■ 第67回読売教育賞部門別応募件数の内訳(カッコ内は前年度)

広草終計	150 (143)
③音楽教育	2(前年度は美術教育=16)
⑫特別支援教育	16(前年度は幼児教育・保育=5)
①NIE	·······13 (14)
⑩地域社会教育活動	
⑨カリキュラム・学校づくり	······ 15 (18)
⑧児童生徒指導	·······7 (9)
⑦外国語・異文化理解	·······5 (8)
⑥健康・体力づくり	3 (2)
⑤生活科・総合学習	······· 20 (12)
④社会科教育····································	·······18 (19)
③理科教育	······ 14 (8)
②算数·数学教育··································	······9 (10)
①国語教育·······	·······6 (8)

第67回読売教育賞 優秀賞受賞者

【国語教育】

川崎市立富士見台小学校教諭

土居 正博

お茶の水女子大学 付属中学校

【算数・数学教育】

聖心女子学院教諭

森 勇介

【理科教育】

福島成蹊高校教諭

山本 剛

【社会科教育】

愛媛県西条市立大町小学校教諭

伊藤 充代

福岡エクレール法律事務所代表弁護士

春田 久美子

【生活科・総合学習】

兵庫県西宮市立北六甲台小学校教諭

箱根 正斉

東京都奥多摩町立氷川小学校教諭

安藤 浩太

【外国語・異文化理解】

東京学芸大学付属国際中等教育学校教諭

後藤 葵

【カリキュラム・学校づくり】

静岡県立田方農業高校

【地域社会教育活動】

山口県萩市立 大島小中学校

[NIE]

静岡市立井宮小学校教諭

中村 都

鳥取市立桜ヶ丘中学校司書

山田 富美子

【特別支援教育】

千葉県立桜が丘特別支援学校教諭

茂原 伸也

【音楽教育】

東広島シュタイナーこども園さくら理事長

広瀬 俊雄

読売教育賞 最優秀賞一覧 受賞者名簿

─第1回 昭和27年(1952) ~第66回 平成29年(2017) —

■ 第1回 1952年(昭和27年) _ 〈小学校〉

千葉県館山市立北条小学校・校長 和泉 久雄 香川県仲多度郡筆岡小学校・校長 杉岡 茂 山口県下関市立本村小学校・校長 村田 幸一 〈中学校〉

三治 秋田市立久保田中学校・教諭 小西 孝義 福岡県築上郡椎田中学校・教諭 加来 〈高等学校〉

北海道立倶知安高等学校・教諭 桑原 義晴 島根県立松江産業高等学校・校長 鎌田 武 〈盲ろう学校〉

宮城県立盲学校長兼ろう学校・校長 赤木 将為

第2回 1953年(昭和28年) 〈道徳教育〉

山梨県甲府市立穴切小学校·校長 米山 圭蔵 〈社会科〉

大分県大分市立春日町小学校・校長 倉成 英敏 香川県香川大学附属坂出小学校・教諭 佐柳 正 神奈川県足柄上郡福沢小学校・校長 井上喜一郎 〈基礎能力〉

新潟県北魚沼郡広瀬村立中条小学校・校長 文松 品田 山口県美祢郡大嶺町立麦川小学校・校長 豊島 誠 秋 田 市 立 中 通 小 学 校・ 教 諭 浅野 ヒナ 〈特殊教育〉

新 潟 市 立 舟 栄 中 学 校・教 諭 与吉 中村 京都市立生祥小学校・教諭熊谷 君子 愛知県立名古屋ろう学校・校長 今井 柳三 〈学校新聞〉

新潟県南蒲原郡鹿峠村立中浦小学校·教諭 磯野 修二

■ 第3回 1954 年 (昭和 29 年) 〈作文教育〉

長野県上水内郡栄村栄小学校・教諭 大日方千秋 〈職業教育〉

愛知県碧南市立新川中学校・校長 神谷 義雄 〈へき地教育〉

新潟県仙田村立十日町高校定時制課程仙田分校・主任 保坂安太郎 〈理科教育〉

秋田県天王町立天王中学校・教諭 片岡太刀三 〈勤労青少年教育〉

島根県大原郡日登村立日登中学校・校長 加藤歓一郎 〈新聞教育〉

大阪府堺市立英彰小学校・教諭 岡本 園子 〈幼稚園教育〉

兵庫県明石市立播陽幼稚園·園長 内匠 ちゑ 〈特殊教育〉

東京都世田谷区立青島中学校・教諭 小杉 長平 山口県立ろう学校・校長泉 吉美 長崎県北松浦郡佐々町立口石小学校·教諭 近藤 益雄

■ 第4回 1955 年 (昭和 30 年)

山口県美祢郡秋芳町立嘉万小学校・代表 原川 馨 〈算数・数学教育〉

静岡県浜名郡庄内村立村櫛小学校・校長 山下百十二 完二 滋賀県近江八幡市立八幡小学校・校長 坂口 〈幼児教育〉

麗和幼稚園(埼玉県浦和市)・園長 中島 修 〈普通学級の遅進児指導〉

山梨県北都留郡上野原町立島田小学校・校長 塩野 隆洋 〈定時制教育〉

北海道立前田高等学校・教諭 行本

〈PTA活動〉

三重県飯南郡大河内第二小学校PTA・代表 三 崎 邦次 〈健康教育〉

香川県小豆郡内海町立安田小学校・校長 久留島武保

〈教具の自作・改作・利用 (授業研究)〉 新潟県三条市三条高等学校・教諭 有本 兵庫県伊丹市教育委員会·指導主事 田辺 綱雄

1956年(昭和31年) ■ 第5回 〈家庭科教育〉

新潟県南蒲原郡大面村立大面中学校・教諭 田中 〈学校と地域社会の共同活動〉

山口県徳山市立今宿小学校育英会・会長 清水 勇 〈遠足・修学旅行〉

埼玉県浦和市立大原中学校·教諭 荒幡 義輔 〈理科教育〉

新潟県南魚沼郡大和村立大崎中学校·校長 桑 原 理肋 埼玉県川越市立大東東小学校·教諭 相原 健. 〈視覚教育〉

秋田県大曲市立大曲小学校・校長 東海林和美 〈クラブ活動〉

新潟県柏崎市立第二中学校・校長 村山 〈定時制と技能者の養成〉

兵庫県立北兵庫高校定時制·主事 林 博夫

■ 第6回 1957 年 (昭和 32 年) 〈学校図書館経営〉

千葉県香取郡栗源町立栗源小学校・校長 松本 玄 〈算数・数学教育〉

新潟県新潟市立万代小学校·校長 竹山洋一郎 〈美術教育〉

大阪府堺市立榎小学校・教諭 藤岡 静子 〈国語教育〉

徳島大学学芸学部附属中学校・教諭 福岡 八郎 〈外国語教育〉

秋田県雄勝郡羽後町立西馬音内中学校・教諭 岩佐 利克 〈学級経営〉

福島県信夫郡吾妻村立野田小学校・代表 内池 幸吉 〈進路指導〉

山梨県立甲府工業高校・校長 古屋 一推 〈勤労青少年教育〉

広島県立神辺高校大津野分校・主任 木村 国夫

第7回 1958 年(昭和 33 年)

〈小学校の算数・理科教育〉

宮城県栗原郡尾松小学校・代表 大宰 陸郎 〈ローマ字教育〉

秋田大学学芸学部附属小学校·教諭 斎藤千弥男 〈音楽教育〉

石川県七尾市立西湊小学校・代表 山崎 常雄 〈映画教育〉

福岡県久留米市立西国分小学校・教諭 市村 一夫 〈高校のクラブ活動〉

新 潟 県 立 中 央 高 校・校 長 島津 政雄 〈特殊教育〉

奈良県奈良市立鼓阪小学校·教諭 西村 幸治 福島市立福島第四中学校・教諭 良彦 〈定時制通信教育・技能者養成教育〉

兵庫県立佐用高校平福分校・主任 春名 一明 〈成人教育活動〉

埼玉県北埼玉郡騎西町立種足中学校·教諭 岡 田 正明 大分県南海郡上野婦人学級・運営委員長 工藤 炒

第8回 1959 年 (昭和 34 年)

〈学校経営〉

千葉県香取郡笹川中学校・校長 柳沢 徹夫 〈道徳教育・生活指導〉

大阪市東成区玉津中学校・校長 直原 兵平 〈科学教育〉

愛媛県八幡浜市立大島中学校·教諭 乗松 尚 北海道立函館中部高校·教諭 渡辺 英郎 〈作文教育〉

新潟県佐渡郡金井小学校・教諭 吉原 清 〈作文教育〉

山口県大島郡久賀高校・教諭 岡田 貞義 〈工作教育〉

青森県中津軽郡相馬小学校藍内分校·教諭 小島 良蔵 〈体育教育〉

- 埼玉県秩父郡間明平中学校・校長 近藤八十夫 〈テレビ教育〉

新潟県東頸城郡松之山小学校·校長 関谷藤四郎 〈勤労青少年教育〉

香川県立琴平高校定時制・主事 三好 和夫 〈PTA活動〉

福島県信夫郡湯野小学校・校長 今井 豊蔵

第 9 回 1960 年 (昭和 35 年)

〈学校経営〉

青森県佐井小学校川目分校・教諭 沢田半右衛門 〈道徳教育・生活指導〉

大分県大分市立滝尾小学校・教諭 二宮 重幸 〈科学技術教育〉

岡山県井原市立井原中学校・教諭 塩田 啓二 山口県長門市水産高校・教諭 黒子 三良 〈歴史教育〉

山梨県山梨市立加納岩中学校・教諭 石原 国光 〈読書指導〉

大阪府大阪市立滝川小学校・教頭 浜中 重信 〈複式教育〉

徳島県鳴門市立島田小学校室分校・教諭 西条 益夫〈養護教育〉

(基限が日/ 兵庫県豊岡市立豊岡北中学校・教諭 藤本 晴雄 〈勤労青少年教育〉

新潟県両津市立東中学校·教諭 小野 良泰

■ 第 10 回 1961 年(昭和 36 年) 〈学校行事〉

静岡県庵原郡由比町立西小学校·代表(校長) 榛 葉 弘〈基礎学力〉

佐賀県佐賀郡春日小学校·代表(校長) 鶴田 辰次 新潟県東頸城郡下保倉小学校·校長 坂井 勝司 〈外国語教育〉

京都府京都市立九条中学校·教論 山田 芳夫 〈校外生活指導〉

・ 千葉県銚子市立明神小学校・代表(校長) 堀 竜之助 〈中・高校の理科教育〉

岐阜大学附属中学校・教諭 近藤 芳彦 福岡県立糸島高等学校・教諭 若宮 義次 〈クラブ活動〉

宮城県柴田郡村田町立沼辺中学校・教諭 庄司 正明 〈盲・ろう教育〉

福岡県立福岡ろう学校・教諭 今任 統夫 〈スポーツ指導〉

佐賀県立佐賀高等学校・教諭 野口 七郎 〈就職後の補導〉

○ 宮城県栗原郡一迫中学校・教諭 菊地 義彦 〈高校の産学協同〉

北海道立岩見沢農業高校・教諭 清水 小十

■ 第 11 回 1962 年(昭和 37 年) 〈職員会議〉

新潟県新潟市立沼垂小学校・校長 松浦 雅公 〈小学校の社会科(とくに地理教育)〉

徳島県鳴門市立撫養小学校・教諭 河野 睦也 〈国語教育(とくに文法・表記の指導)〉

静岡県浜名郡北浜中学校·教諭 鈴木 波男 〈技術科教育〉

埼玉県熊谷市立大原中学校・教諭 佐藤 一司 福岡県八幡市立中央中学校・代表(校長)豊田 喜祐 〈中学生の生活指導(とくに進学・非行児指導)〉

徳島県名東郡佐那河内中学校・校長 速水 清一 埼玉県浦和市立岸中学校・教諭 野村 英一 〈盲教育〉

東京教育大学附属盲学校・教諭 河合 久治 福 井 県 立 盲 学 校・教 頭 今川 勇 〈農業高校の再編成〉

富山県立富山産業高校・校長 久世 幸治

■ 第 12 回 1963 年(昭和 38 年)

〈学校経営〉

長野県大町市立大町小学校・代表(校長) 松田 吉辰 〈社会科(とくに政治・経済・社会)〉

宮城県仙台市立東華中学校・教諭 白石 和巳 〈話しことばの指導〉

徳島県徳島市立富田小学校・教諭 宮崎記代江 〈科学教育〉

神奈川県足柄下郡理科教育研究会・代表 神保 憲朗 福岡県北九州市立荻ヶ丘小学校・教諭 生野 ヒサ 〈道徳教育〉

埼玉県熊谷市立荒川中学校・教頭 中村 邦夫 宮城県仙台市立北六番丁小学校・教諭 渡辺 健二 〈ホームルーム〉

徳島県立徳島商業高校·代表(校長) 森 孝三郎 〈進学指導〉

新潟県刈羽村立刈羽中学校·代表(校長) 小林 睦治 〈特殊教育〉

千葉県千葉市立蘇我中学校・教諭 大石 三郎 大分県大分市立新生養護学校・校長 髙橋 矩夫 〈定時制・通信教育〉

千葉県立千葉東高等学校·代表(校長) 石毛 貞雄 〈教育委員会〉

長野県教育委員会教学指導課·代表(課長) 太田 美明 島根県出雲市教育委員会·代表(教育長) 長岡 豊盛 〈成人教育活動〉

高知県室戸市立羽根中学校・教諭 吉 本 珖

■ 第 13 回 1964 年(昭和 39 年) 〈小中学校の国語教育〉

- 千葉県山田町立八都小学校・代表(校長) 小林 邦治 〈高校の数学・理科教育〉

千葉県習志野市立習志野高校・代表(校長) 山口 久太 〈小中学校の道徳〉

新潟県出雲崎町立西越中学校·代表(校長)安達 孝司 〈特別教育活動〉

山口県立柳井商工高校·代表(職業指導主事) 守 政 輝 雄 〈幼稚園教育〉

福岡県北九州市立小倉幼稚園·代表(園長) 黒木 道子 〈辺地教育〉

山形県東根市立東郷小学校入分校・教諭 柏 倉 博 奈良県奈良市立田原小学校杣ノ川分校・教諭 大東 幸雄 〈教育委員会の活動〉

奈良県教育委員会指導課・代表 (課長) 今西 宗一

〈教育研究所の活動〉

信濃教育会教育研究所·代表(所長) 上田 薫 新潟県立教育研究所·代表(所長) 小林 正直

■ 第 14 回 1965 年(昭和 40 年)

__ 〈小中学校の作文教育〉

埼玉県川越市立大東西小学校・教諭 大橋 清一 〈小中学校の社会科教育〉

兵庫県小中学校郷土学習研究グループ・代表

(兵庫県三原郡緑町立広田中学校・校長) 野上 安郎 〈小中学校の理科教育〉

佐賀県佐賀市立鍋島小学校·代表(校長) 古賀 清次 奈良県五条市立阿太小学校・教頭 山口 裕文 〈小中学校の音楽教育〉

熊本県熊本市立白川小学校・教諭 松村きみ子 〈進路指導〉

徳島県立池田高等学校·代表(校長) 岩橋 昌 〈辺地教育〉

岐阜県馬瀬村立中切小学校川上分校·教諭 岩倉 昭雄 〈辺地教育〉

岐阜県馬瀬村立中切小学校川上分校・教諭 岩倉 縫子 秋田県矢島町立矢島小学校金ヶ沢分校・教諭 遠藤 昌夫 〈特殊教育〉

千葉市立院内小学校 言語治療教室・主任 大熊喜代松 〈定時制高校における学習指導〉

福岡県立門司高等学校・教諭 相川 秀和

■ 第 15 回 1966 年(昭和 41 年) 〈学級経営における能力別指導〉

富山県滑川市立北加積小学校・代表(校長) 井原 正則 〈小中学校の国語教育〉

静岡県新居町立新居小学校·代表(校長) 山下百十二 〈理科教育〉

| 岐阜県大垣市立宇留生小学校・代表(校長) 河合 正一 鳥取県米子市立弓ケ浜中学校・教諭 岸岡 務 〈中高校の外国語教育〉

山梨県立甲府南高校·代表(校長) 日向 誉夫 「工作)

馨

奈良県北葛城郡新庄町立新庄小学校・教諭 前 田 〈体育〉

、 愛知県丹羽郡大口町立大口北小学校·代表(校長) 奥村 久男 〈辺地教育〉

山形県朝日町立立木小学校木川分校・教諭 鈴木 基介 \langle 成人教育 \rangle

愛媛県立松山工業高校定時制・主事 田井能喜三郎 〈教育研究所の活動〉

群馬県教育研究所・代表(所長)佐野 金作 〈教育委員会の活動〉 大分市教育委員会・代表(教育長)池見 喬

■ 数 1 C 同 10 C 7 左 (1771年 49 左)

■ 第 16 回 1967 年(昭和 42 年) 〈学校経営〉

· 千葉県佐原市立佐原中学校・校長 本宮 源一 〈幼児教育〉

奈良県大和郡山市立郡山幼稚園・園長 花木 イソ 〈小中学校の算数・数学教育〉

鹿児島県立養護学校・教諭 高浜正海郎 〈中学校の歴史教育〉

静岡県田方郡韮山町立韮山中学校・教諭 斎藤 宏 〈小中学校の道徳教育〉

奈良県奈良市立鼓阪小学校・校長 奥西 徳義 〈学校給食の指導〉

神奈川県鎌倉市立御成小学校·校長 林 邦雄 〈安全教育〉 三重県伊勢市立修道小学校・校長 野呂 敏 〈辺地教育〉

北海道旭川市特殊学級担当者会・代表 橋本 勝朗 〈教育研究所の活動〉

新潟県新潟県市立教育研究所・所長 阿部 守衛 〈公民館の活動〉

北九州市教育委員会戸畑支所社会教育課(福岡県) 林 栄代

■ 第 17 回 1968 年(昭和 43 年) 〈学校経営〉

山梨県甲府市立南西中学校・校長 井上 英信 新潟県新発田市立第一中学校・校長 菅井 豊吉 〈中学高校の国語教育〉

香川県立観音寺第一高等学校・教諭 佐藤 寛志 〈小学校中学年の社会科教育〉

岐阜県洞戸村立洞戸小学校・教諭 角竹 弘 〈小中学校の理科教育〉

熊本県八代市立第一中学校・教諭 蓑田啓一郎 高知県高知市立初月小学校・教諭 中山 湧水 〈中学高校の外国語教育〉

福井県福井市立明道中学校・校長 林 繁樹 〈小中学校の道徳教育〉

茨城県日立市立大久保中学校·教諭 沢畑 登 〈安全教育〉

広島県賀茂郡西条町立西条中学校・校長 下崎 実 〈辺地教育〉

長崎県小値賀町立小値賀小学校六島分校・教諭 田中 竜美 〈身体障害児の教育〉

山 梨 県 立 盲 学 校・校 長 飯島 五郎 〈進路指導〉

千葉県立千葉商業高等学校・校長 吉井 正男 〈PTA活動〉

名古屋市立有松小学校 P T A・会長 水谷 善彦 〈教育委員会の活動〉

岐阜県加茂郡東白川村教育委員会・教育長 安江又右ヱ門

■ 第 18 回 1969 年(昭和 44 年) 〈小学校の算数教育〉

・香川県観音寺市立南小学校・校長 長尾 茂〈小中学校の理科教育〉

青森県八戸市立吹上小学校・校長 佐藤政五郎 〈中学高校の国語教育(特に読解指導)〉

兵庫県立福崎高等学校・教諭 福島 浩之 〈小中高校の芸術教育〉

秋田県大曲市立大川西根小学校・校長 鎌田 五郎 新潟県岩船郡山北町立下海府中学校・教諭 青木 繁 〈小中高校の保健体育〉

千葉県野田市立宮崎小学校・校長 平野 喜ー 〈小中高校の道徳教育〉

大分県日田市立三芳小学校・校長 佐藤誠一郎 〈小中高校の特別教育活動〉

群馬県沼田市立蓮根中学校·校長 大川 善夫 〈辺地教育〉

香川県塩江町立塩江小学校樺川分校・主任 岡田 弘治 〈成人教育〉

黄十字学園(東京都台東区)・責任者 松永 健哉 福岡県山門郡大和町栄皿垣 大津 勇 〈教育研究所の活動〉

富山県福光町教育センター・所長 渡辺 諭吉

■ 第 19 回 1970 年(昭和 45 年)

〈小中学校のカリキュラム編成〉

千葉市立本町小学校·代表(校長) 山本 喜治 〈教育機器の利用(教育工学)〉

北海道亀田郡大野町立萩野中学校・校長 岡 村 達 〈小学校の国語教育 (特に読解または作文)〉

青森県八戸市立八戸小学校・校長 川村 島根県松江市立乃木小学校・教諭 渡辺 郁子 〈中学高校の数学教育〉

宮城県仙台市立東華中学校・教諭 南 明子 〈高校の理科教育〉

埼玉県立秩父農工高等学校・教諭 福島 義一 〈小中高校の芸術教育〉

千葉県柏市立柏第一小学校·代表(校長) 富沢 定一 広島県東部図工美術教育連盟·代表 来山 武雄 〈中学高校の進路指導〉

島根県松江市立第四中学校·代表(校長) 田中 邦男 〈小中高校の国際理解の教育〉

埼玉県立戸田高等学校・教諭 小川 降诵 〈教育委員会の活動〉

青森県三戸郡三戸町教育委員会・教育長 松尾 禎吉 〈幼児教育〉

福岡県北九州市立中島幼稚園・園長 原田 寛子

■ 第20回 1971 年(昭和 46 年) 〈小中学校の国語教育〉

茨城県石岡市立府中小学校根当分校・教諭 田崎 しづえ 〈算数・数学教育〉

忠一 熊本県山鹿市立山鹿小学校・教諭 瀬口 〈理科教育〉

東京都文京区立第九中学校・教諭 刈込 実 福岡県北九州市立米町小学校・代表(校長) 山本 桂一 〈社会科教育〉

香川大学教育学部附属坂出中学校·教諭 作花 典男 〈小中高校の芸術教育〉

芳男 千葉県長生郡一宮町立一宮小学校・代表(校長) 宫城県仙台市立西多賀小中学校療養所分校・代表(教頭) 半 沢 健 〈小中高校の体育〉

秋田県南秋田郡昭和町立豊川小学校·代表(校長) 若 松 研一 〈道徳教育〉

徳島県美馬郡半田町立半田小学校・教諭 佐藤 周子 〈公民館の活動〉

岡山県真庭郡新庄村公民館・館長 畔高 義正 〈高校の定時制通信制教育〉

新潟県立小出高校定時制・主事 後藤 三夫

第 21 回 1972 年(昭和 47 年)

〈小中学校の文学教育〉

広島県世羅町立大田小学校·代表(校長) 山口 博人 〈小学校の算数教育〉

山形県西川町立入間小学校·代表(校長) 槇 清哉 〈理科教育〉

長野県松本市立旭町中学校・教諭 倉田 稔 兵庫県姫路市立城北小学校・教諭 城谷 義子 〈小中高校の社会科教育〉

青森県立弘前中央高校定時制・教諭 川口 光勇 〈小中高校の芸術教育〉

秋田県平鹿郡雄物川町立里見小学校・校長 能登谷 清 〈教育機器の導入と利用〉

愛媛県立今治工業高校・教諭 大内 信俊 〈辺地教育〉

石川県石川郡河内村立河内小学校·教諭 福 岡 克美 〈成人教育活動〉

岐阜県郡上郡明方村立明方中学校・校長 金子 貞二 千葉県銚子市立若宮小学校 P T A · 代表(会長) 常 盤

〈盲ろう教育〉

東京都渋谷区立大向小学校・代表(教諭) 北原 貞治 〈幼児教育〉

島根県八東郡穴道町立穴道幼稚園·代表(教諭) 新 田 旭子

1973年(昭和48年) 第 22 回

〈小中学校の国語教育〉

島根県簸川郡多伎町立岐久小学校·教諭 岸田千代子 徳島県小松島市立千代小学校・教諭 杉本 恒子 〈理科教育〉

岐阜県加茂郡七宗町立神淵小学校・教諭 渡辺 住夫 徳島県立池田高等学校・教諭 梅本 利広 〈情操教育〉

千葉県館山市立第二中学校·代表(校長) 星谷 悌二 〈過疎地教育〉

宮崎県西郷村立山瀬小学校長崎分校・代表(校長) 佐藤九州男 香川県丸亀市立手島小学校・代表 (教諭) 福浜 一雄 〈特殊教育〉

宫城県仙台市立立町小学校・代表(校長) 伊藤 山形県立山形聾学校・教諭 鏡隆左エ門 〈幼児教育(幼稚園・保育所)〉

大分県臼杵市立市浜幼稚園·園長 篠田美佐子

第 23 回 1974年(昭和49年)

〈小学校の国語〉

高知県吾川郡伊野町立伊野小学校・教諭 山脇 〈小中高校の算数・数学教育〉

兵庫県姫路市立城陽小学校・教諭 高田クミ子 〈小中高校の理科教育〉

徳 島 県 徳 島 市 立 高 校・教 諭 佐々木靖典 〈小中高校の社会科教育〉

広島県瀬戸田町立瀬戸田小学校・代表(校長) 伊藤 進蔵 〈小中高校の音楽教育〉

山形県立山形西高校・代表(校長) 笠原 二郎 〈幼児教育(幼稚園・保育所)〉

しらかば保育園(神奈川県横須賀市)・園長 浜田 幸生 ルーテル愛児幼稚園 (秋田市)・代表 (園長) 片 桐 格 〈肢体不自由児教育〉

千葉県立桜が丘養護学校・教諭 斎藤 皓子 佐賀県立金立養護学校・教諭 米光 光子 (成人教育活動)

奈良県榛原町教育委員会・代表(社会教育課長) 梶 野 雄介 〈教育委員会の活動〉

徳島県那賀郡木頭村教育委員会・代表(教育長) 走 川 輝 -奈良県教育委員会・代表(教育放送課係長) 大西 照雄

第 24 回 1975年(昭和50年)

〈小中学校の国語教育〉

福島県いわき市立錦小学校・教諭 佐々木義勝 〈小中高校の算数・数学教育〉

宮崎県東臼杵郡西郷村立山瀬小学校長崎分校・教諭 斎藤 敬亮 〈小中学校の理科教育〉

長野県伊那市立伊那中学校・教諭 征矢 〈道徳教育〉

千葉県旭市立第一中学校・代表(校長) 江ヶ崎 貞雄 〈美術教育〉

岩手県釜石市立八雲小学校・代表(校長) 畠山 理助 〈幼児教育(幼稚園・保育所)〉

山形県立山形盲学校·代表(校長) 鈴木 栄助 〈肢体不自由児教育〉

千葉県千葉市立松ヶ丘小学校・教諭 山本 〈成人教育活動〉

京のおんな大学・主宰富士谷あつ子

■ 第 25 回 1976 年 (昭和 51 年)

千葉県銚子市立興野小学校・代表(校長) 堀 竜之助 徳島県徳島市立加茂名小学校・教諭 以西 久代 〈小中高校の算数・数学教育〉

群馬県渋川市立西小学校・教諭 小林巳喜夫

〈小中学校の理科教育〉

栃木県宇都宮市立清原中学校・教諭 小筆恵美子 千葉県夷隅郡大多喜町立上瀑小学校・代表(校長) 大岩冨士雄 〈小中高校の社会科教育〉

神奈川県平塚市立港小学校·代表(教諭) 小室 修二 〈小中高校の保健室活動〉

福井県大野市立下庄小学校・養護教諭 金森 恭子 埼玉県大宮市立東大成小学校・養護教諭 桜井すぐ代 〈進学問題にどう対処したか〉

栃木県立鹿沼高等学校・教諭 小谷野力勇 青森県八戸市立第一中学校・校長 松村 剛 〈在学青少年の学校外教育活動〉

佐賀県佐賀郡東与賀町立東与賀中学校·代表(前校長) 納富 兼次 〈幼児教育(幼稚園・保育所)〉

誠信幼稚園(広島県福山市)・代表(教諭) 檀上 順子

■ 第 26 回 1977 年(昭和 52 年) 〈小中高校の国語教育〉

山口県光市立室積小学校・代表(校長) 藤山 敏見 岩 手 県 立 杜 陵 高 校・教 諭 松 浦 好 〈小中高校の算数・数学教育〉

滋賀県甲賀郡甲西町立岩根小学校・教諭 佐川 愛子 〈中高校の理科教育〉

大分県立中津北高校・教諭 安倍 慎 〈小中高校の保健室活動〉

長崎県立長崎東高校・養護教諭 高原 二三 〈小中高校の情操教育〉

熊本県熊本市立西原小学校·教諭 武藤 哲雄 〈障害児教育〉

茨城県日立市立大久保小学校

「ことばの教室」・代表(教諭) 丸山 勝雄 〈過疎地教育〉

新潟県中魚沼郡津南町立中津峡小学校・代表(校長) 庭 野 忠 男 〈幼児教育(幼稚園・保育所)〉

鳥取県倉吉市立上井第一保育園・代表(主任保母) 石賀サチ子 〈教育研究所の活動〉

北海道教育研究所連盟·代表(委員長) 斎藤 実

■ 第 27 回 1978 年(昭和 53 年)

〈小中高校の国語教育〉

滋賀大学教育学部附属小学校・教諭 吉永 幸司 〈小中高校の算数・数学教育〉

大分県別府市立鶴見小学校・教諭 松島桂太郎 〈小中高校の理科教育〉

栃木県立宇都宮高校・教諭 篠原 尚文 〈小中高校の社会科教育〉

北九州市教育委員会たしろ少年自

然の家(福岡県)・指導主事 池田 正光 〈道徳教育〉

福島県いわき市小学校教育研究会

道徳教育研究部・代表(部長)根本 宮城県亘理町立亘理中学校・教諭 斎藤 公隆 〈小中高校の生活指導〉

《《 并 地 高等学校 (長野県長野市)・代表 (校長) 若 林 繁 太 〈 障 害 児 教 育 〉

徳島県立聾学校幼稚部·代表(主事) 安川 神 戸 市 小 学 校 教 育 研 究 会

心身障害児教育研究部・代表(部長) 溝下 宏

宏

〈幼児教育〉

奈良県田原本町立南幼稚園・代表(園長) 片岡 良一

第 28 回 1979 年 (昭和 54 年)

〈国語教育〉 徳島県立城北高校・教諭佐野泰臣 〈算教・数学教育〉

山口県光市立室積小学校・教諭 原田 慶子 〈理科教育〉

・ 埼玉県株父郡大滝村立上中尾小学校・代表(校長) 新井 肇司 青森県立青森高等学校・教諭 石戸 励 〈社会科教育〉

千葉県東金市立城西小学校·代表(校長) 加瀬 国雄 〈情操教育〉

栃木県真岡市立中村中学校·代表(校長) 榎戸 隆夫 東京都足立区立寺地小学校・教諭 江藤 勝久 〈障害児教育〉

京都府立与謝の海養護学校・校長 青木 嗣夫 〈幼児教育〉

秋田県南秋田郡飯田川町立若竹幼児

教育センター・飯田川保育園長 石川 郁子 〈社会教育活動〉

群馬県邑楽郡明和村立明和西小学校・PTA前会長 渡 辺 茂 〈教育研究所の活動〉

新潟県地区理科教育センター研究協議会・会長 風巻 友重

■ 第 29 回 1980 年 (昭和 55 年)

〈小中学校の国語教育〉

福井県坂井郡丸岡町立平章小学校·教諭 松本千代子 〈算数·数学教育〉

静岡県浜松市立北小学校・教諭 高橋 莞爾 〈理科教育〉

新潟県立新潟盲学校・教諭 金安 健一 〈情操教育〉

茨城県新治郡桜村立桜中学校・教諭 飯野五十吉 〈障害児教育〉

佐賀県立金立養護学校養訓部・代表(教諭) 重松 康雄 ⟨幼児教育⟩

岐阜県瑞浪市立瑞浪幼稚園・代表(園長) 尾石 安正 学校法人高千穂学園高千穂幼稚園 (東京都)・園長 久野登久子 〈学校の指導・運営〉

鳥取県鳥取市立美保小学校·代表(校長) 木下 政雄 〈社会教育活動〉

千葉市婦人大学セミナー・代表 国吉 君子

第 30 回 1981 年(昭和 56 年)

〈国語教育〉 東京都立足立西高等学校・教諭 清水 和夫 〈算数・数学教育〉

福島県立二本松工業高校数学科·代表(教諭) 本間 正幸 〈理科教育〉

〈生性もなり〉 千葉市立北貝塚小学校・代表(校長) 小山 天祐 〈社会科教育〉

千葉市立千城台南中学校·教諭 安藤 一郎 千葉市立千城台南中学校·教諭 本保 弘文 〈言語教育〉

大分県立別府養護学校・教諭 宇都宮鏡子 〈児童生徒指導・情操教育〉

広島県尾道市立長江中学校・教諭 八ッ塚 実 〈学校の指導・運営〉

東京都文京区立湯島小学校·代表(前校長) 小沢恒三郎 〈社会教育活動〉

広島市立安西小学校 Р Т А 会長 沖 繁 〈教育活動・教育政策の研究・実践〉

静岡県清水市教育委員会·代表(教育長) 猛治 栃木県宇都宮市立雀宮中学校・教諭 孝之 栃木県宇都宮市立姿川中学校・教諭 綱川 浄

■ 第31回 1982年(昭和57年) 〈国語教育〉

聡江 清心女子高校 (岡山県倉敷市)・教諭 光元 〈算数・数学教育〉

宮城県仙台市立南小泉中学校・教諭 久道 登 〈理科教育〉

関の自然を調べる会・代表

(岐阜県関市立下有知小学校校長) 山口常二郎 〈社会科教育〉

長野県北佐久郡軽井沢町立軽井沢東部小学校・教諭 小林 秀夫 〈障害児教育〉

長崎県立長崎養護学校·代表(校長) 内堀 勝見 〈児童生徒指導〉

千葉県夷隅郡岬町立岬中学校·代表(校長) 菰田潤七郎 〈幼児教育〉

兵庫県姫路市立めぐみ保育所・所長 森川 紅 〈学校の指導・運営〉

愛知県西尾市立室場小学校·代表(校長) 高須音次郎 〈教育活動・教育施策の研究・実践〉

千葉県立千葉商業高校·代表(校長) 久保田一麿

第 32 回 1983年(昭和58年) 〈国語教育〉

千葉県富津市立吉野小学校·代表(教諭) 渡 辺 さわ 〈算数・数学教育〉

東京都世田谷区立松原小学校·代表(教諭) 坪田 耕三 〈理科教育〉

長崎県北松浦郡小値賀町立小値賀中学校・教頭 真 鍋 信義 〈社会科教育〉

千葉県夷隅郡岬町立長者小学校·代表(校長) 田 中 益男

〈障害児教育〉 社会福祉法人「しいのみ学園」(福岡市)・園長 曻地 三郎 〈児童生徒指導〉

山口県美祢市立伊佐中学校·代表(校長) 原 田 卓雄 〈幼児の教育〉

横浜市教育センター 幼児教育センター・所長 白石 伸子 神奈川県横浜市立小菅ヶ谷小学校・教諭 堀井 巳恵子 〈学校の指導・運営〉

新潟県新発田市立外ヶ輪小学校・代表(校長) 大 滝 末次 〈社会教育活動〉

福岡県子供会研修隊連絡協議会・会長 宗村 道生

■ 第 33 回 1984年(昭和59年) 〈国語教育〉

福岡県八女郡黒木町立枝折小学校・代表(校長) 栗 山 シ ヅ カ 宮城県栗原郡若柳町立畑岡小学校・教諭 吉田よし子 〈理科教育〉

富山県富山市立八人町小学校・代表(校長) 水野 平 〈社会科教育〉

千葉県船橋市立高郷小学校・教諭 斎藤 武也 〈障害児教育〉

千葉市立検見川小学校まきのこ学級・代表(教諭) 金沢 義広 千葉市立検見川小学校まきのこ学級・代表(教諭) 奥村 兼弘 〈児童生徒指導〉

新潟県南魚沼郡六日町立六日町 中学校58年度第三学年部·代表(教諭) 田村 賢-節子

千葉市立更科小学校・教諭 福田 〈社会教育活動〉

大阪市立こども文化センター こども詩の会 |・代表(神戸女子大教授) 足立 卷一 〈学校の指導・運営〉

東京都荒川区立日暮里中学校・代表(教諭) 桐山 京子 〈教育活動・教育施策の研究・実施〉

広島県工業教育検討グループ・代表

(広島県立広島工業高校校長) 松前 実

第 34 回 1985 年 (昭和 60 年) (小中学校の国語教育)

福島県郡山市立大島小学校・代表(元校長) 星 幸 雄 千葉県茂原市立茂原中学校・元教諭 渡辺 昇子 〈算数・数学教育〉

長崎県平戸市立獅子小学校・代表(校長) 真 辺 静男 〈理科教育〉

東京都大田区立嶺町小学校・教諭 中馬 民子 〈社会科教育〉

島根県松江市立白潟小学校・教諭 森 泰 〈障害児教育〉

東京都立足立養護学校中学部·代表(教諭) 脇 坂 順雄 〈児童生徒指導〉

奈良県王寺町立王寺小学校・教諭 池島 徳大 〈情操教育〉

埼玉県大宮市立指扇小学校・教諭 高橋 昭子 〈社会教育活動〉

大月市社会教育委員(山梨県)・元委員長 山口 英夫 〈教育活動・教育施策の研究・実践〉

静岡県立静岡工業高校(定時制)・教諭 小堀 一郎

第 35 回 1986年(昭和61年) 〈国語教育〉

愛知県名古屋市立南光中学校・教諭 吉村 勇善 〈算数・数学教育〉

長崎県郷ノ浦町立初山小学校

算数科学習指導研究会·代表(校長) 末永 正幸 〈理科教育〉

東京都大田区立入新井第一小学校・教諭 三石 光子 埼玉県都幾川村立都幾川中学校・教諭 酒井 〈社会科教育〉

福岡県北九州市立永犬丸西小学校・教諭 青 柳 睦 〈学校体育〉

千葉県大多喜町立西畑小学校・代表(校長) 渡辺 五郎 〈障害児教育〉

東京都立石神井ろう学校・代表 (元教諭) 小川美佐子 〈児童生徒指導〉

千葉工商高校 (千葉市)・教諭 林 芳隆 〈学校の指導・運営〉

神奈川県川崎市立高津中学校·代表(教諭(応募時)) 馬場 英顕 〈社会教育活動〉

川崎市菅生こども文化センター企画会議委員 十文字美恵

第 36 回 1987 年 (昭和 62 年)

〈国語教育〉

青森県八戸市立根城中学校・教諭 橋本 ヤス 〈算数・数学の教育〉

山口県立南陽工業高等学校・教諭 竹本 芳朗 〈社会科教育〉

新潟県長岡市立南中学校・教諭 小森ケン子 〈学校体育〉

岐阜県岐南町立東小学校・代表(校長) 吉田 豊一 〈障害児教育〉

福岡県北九州市立八幡西養護学校・教諭 原 敏夫 〈学校の指導・運営〉

新潟県立新発田南高等学校・教諭 田中

昭和女子大学附属昭和小学校(東京都)·代表(教頭) 巳波 瑠美 〈教育委員会・教育研究所の調査研究活動〉

群馬県松井田町教育委員会・代表(教育長) 小板橋 文夫

■ 第 37 回 1988 年(昭和 63 年) 〈国語教育〉

東京学芸大学附属世田谷中学校・教諭 高橋 俊三 〈理科教育〉

岡山県立玉野高等学校・教諭 宮崎 武史 福島県立福島女子高等学校・教諭 菅野 幸雄 〈児童・生徒指導〉

栃木県大田原市立大田原小学校・教諭 加藤 治朗 〈幼児の保育〉

東京都千代田区立錦華幼椎園・教諭 原田 愛子 〈障害児教育〉

秋田県立秋田養護学校・養護教諭 中村 幸子 〈学校の指導・運営〉

群馬県上野村立上野中学校・代表(教務主任) 大島 道男 山形学院高等学校「小さな親切の会」

(山形県)・代表(顧問)堤 幹夫 〈社会教育活動〉

若人の集い実行委員会(北海道八雲町)・代表(委員長) 高木 一哉 〈教育委員会・教育研究所の調査研究活動〉

千葉県柏市教育委員会·代表(教育長) 古谷 武雄

■ 第 38 回 1989 年(昭和 64 年/平成元年) 〈国語教育〉

。 島根県桜江町立川越小学校・教諭 山田 澄子 〈算数・数学教育〉

岩手県一戸町立小鳥谷中学校·代表(校長) 野 里 広〈理科教育〉

広島県世羅町立西大田小学校·代表(校長) 井上 右三〈社会科教育〉

神奈川県川崎市立向丘中学校・教諭 永島 正雄 〈障害児教育〉

東京都練馬区立旭丘中学校・教諭 永野 佑子 〈学校の指導・運営〉

福岡県北九州市立山の口小学校・校長 和田 啓子 徳島県那賀川町立那賀川中学校・代表(校長) 稲飯 章 〈社会教育活動〉

山梨県ボランティア協会・代表(事務局次長) 岡 尚志 東京都世田谷区「自然の教室」・主宰 秋山 元冶 〈教育委員会・教育研究所の調査研究活動〉

教育安貞会・教育研究所の調査研究伯勤/ 栃木県足利市教育委員会・前教育長 中村 章

■ 第 39 回 1990 年(平成 2 年) 〈国語教育〉

静岡県立藤枝北高等学校・教諭 田中 宏和 〈理科教育〉

愛知県名古屋市立猪子石小学校·教諭 中野 光孝 工学院大学高等学校(東京都八王子市)·教諭 後藤 道夫 〈社会科教育〉

三重県伊勢市立東大淀小学校·代表(教頭) 塩 崎 勝彦 〈幼児の教育〉

長野県保育専門指導員宮崎 清〈障害児教育〉

「直方に小規模通園施設をつくる会」

(福岡県直方市)・代表(会長)中島 康男 〈学校の指導・運営〉

福岡県北九州市立曾根中学校・校長 品川 洋子 宮城県栗原郡築館町立築館中学校・代表(教諭) 鈴木 信勇 〈社会教育活動〉

東京都多摩市立北豊ケ丘小学校

ゆりの木会課外活動委員会・代表 早川たか子

少年少女文化財教室(大阪府箕面市)・代表(主宰) 辻尾 栄市

■ 第 40 回 1991 年 (平成 3 年) 〈国語教育〉

茨城県阿見町立竹来中学校・教諭 中根 瑛子 〈算数・数学教育〉

山口県岩国市立通津小学校·代表(校長) 藤田 梅二 〈社会科教育〉

東京都荒川区立第二日暮里小学校・教頭 望月 公子 〈外国語教育〉

東京都豊島区立朝日中学校·校長 石川 英子 〈児童·生徒指導〉

盈進高等学校(広島県)・代表(教頭) 杉原 耕治 〈幼児の教育〉

東京都中央区立京橋朝海幼稚園·教諭 宇井 靖子 〈障害児教育〉

鳥取県立白兎養護学校·代表(校長) 徳永 好三 〈学校の指導・運営〉

静岡県静岡市立安東小学校·代表(校長) 山本 良苗 〈社会教育活動〉

広島県広島市中央公民館・代表(館長) 松原 明二 〈教育委員会・教育研究所等の調査研究活動〉

新潟県中学校教育研究会・代表(会長) 梅山 郁雄

■ 第 41 回 1992 年(平成 4 年) 〈国語教育〉

· 言森県立五戸高等学校・教諭 川上 信子 〈算数・数学教育〉

愛知県知立市立知立中学校・教諭 三浦 祥志 〈理科教育〉

山口県防府市立牟礼小学校・校長 城 成治 福島理科の会・代表(会長)大室 幹男 〈社会科教育〉

岐阜県美濃加茂市立山手小学校·代表(校長) 渡 辺 均 〈外国語教育〉

福井県立武生東高等学校国際科·代表(教諭) 内田 勝夫 〈体育の教育〉

| 山口県阿武町教育委員会・派遣社会教育主事 新川 美水 〈障害児教育〉

ダウン症児の早期療育を進める会「ひまわりの会」・代表 岡部 伊子 〈児童・生徒指導〉

長野県中野市立高社中学校・元校長 竹内 隆夫 〈学校の指導・運営〉

茨城県石岡市立関川小学校·代表(校長)入澤 薫 〈社会教育活動〉

岩手県三陸町立甫嶺小学校・代表(校長) 高 橋 淳

■ 第 42 回 1993 年(平成 5 年) 〈国語教育〉

神奈川県藤沢市立滝の沢小学校・教諭 阿部 直久 群馬県桐生市立東中学校・教諭 四分一 勝 〈算数・数学教育〉

山形算数·数学評価研究会·代表(会長) 山本 正明 〈社会科教育〉

東京都立秋留台高等学校・教諭 村野 光則〈体育の教育〉

神奈川県藤沢市立小学校体育研究会 南 英毅 〈幼児の教育〉

静岡県磐田市立東部小学校附属

南御厨幼稚園·代表(副主任)角皆 恵子〈障害児教育〉

愛知県名古屋市立平田小学校・非常勤講師 堀田喜久男 〈学校の指導・運営〉

山口県美祢市立重安小学校・教諭 井上 葉子

東京都北区立北中学校内不登校児童

生 徒 訪 問 指 導 室・嘱 託 員 島田 葉子 〈社会教育活動)

群馬県生涯学習センター・代表(館長) 千吉良 覺

■ 第 43 回 1994 年 (平成 6 年)

〈国語教育〉

奈良県立添上高等学校・教諭 矢尾 米ー 〈算数・数学教育〉

千葉県立船橋豊富高等学校数学科·代表 滝 沢 洋 〈理科教育〉

栃木県宇都宮市立若松原中学校·教諭 南木 義男 〈社会科教育〉

千葉県市川市立第八中学校・教諭 竹澤 伸一 〈生活科の指導〉

東京都江戸川区立大杉東小学校・教諭 宮原千香子 〈体育の教育〉

静岡県浜北市立新原小学校·代表(校長) 大石 修司 〈外国語教育〉

財団法人津田塾会 津田英語会·講師 股野 儷子 〈児童生徒指導〉

神奈川県大磯町立大磯中学校・代表 吉田 文彰〈障害児教育〉

東京都立墨東養護学校・教諭 渡辺美佐子 〈社会教育活動〉

川崎市ふれあい館(神奈川県)・代表(館長) 裵 重度 岐 阜 県 高 山 市 農 業 委 員 谷口いわお 〈学校の指導・運営〉

佐久島の教育を育てる会・代表 安井 克彦

第 44 回 1995 年 (平成 7 年)

〈国語教育〉

兵庫県神戸市立湊小学校・教諭 鹿島 和夫 大阪教育大学附属平野中学校・教諭 辻井 義彦 〈算数・数学教育〉

東京都大田区立道塚小学校・教諭 横山美登里 〈理科教育〉

千葉県立船橋高等学校

リニアモーターカー同好会・代表(教諭) 大山 光晴 〈社会科教育〉

埼玉県飯能市立飯能第一中学校・教諭 福田 英樹 〈生活科の教育〉

三重県四日市市立常磐西小学校・教諭 宮沢知可子 〈体育の教育〉

福島県大信村立信夫第一小学校·代表(校長) 鈴 木 神 一 〈児童生徒指導〉

長野県佐久市立中込小学校・前校長 木内 保敬 〈学校の指導・運営〉

広島県深安郡神辺町立神辺小学校·教諭 妹尾 敬士 〈障害児教育〉

東京都立小金井養護学校・前教頭 前迫美知子

■ 第 45 回 1996 年(平成 8 年)

〈国語教育〉

盈進中学校(広島県)·代表(校長) 杉原 耕治 〈算数·数学教育〉

広島県福山市算数教育研究会·代表 紺谷 光男 〈理科教育〉

富山県立大門高等学校 理科部·代表(教諭) 藤 井 修二〈社会科教育〉

東京都目黒区立田道小学校・教諭 望月みどり 〈外国語教育〉

神奈川県川崎市立南菅中学校・校長 芳野 菊子 千葉県八千代市立米本南小学校・代表(校長)田中 強 〈地域社会教育活動〉

茨城県総和町立西牛谷小学校・元PTA会長 長浜 音一 〈教育カウンセリング〉

大阪府立松原高等学校・教諭 佐谷 力 東京都八王子市立第一中学校・委嘱スクールカウンセラー 黒沢 幸子

■ 第 46 回 1997 年(平成 9 年)

____〈算数・数学教育〉

川崎市立中学校数学科図形教育研究チーム・代表(校長) 馬場 英顕 〈理科教育〉

福岡県北九州市立鴨生田小学校·代表(校長) 小山田鈴子 〈社会科教育〉

愛知県下山村立下山中学校・教諭 川合 英彦 〈生活科・総合学習〉

神奈川県横浜市立南小学校·代表(校長) 安武 寿雄 〈外国語教育〉

一白百合学園中学高等学校(東京都)・教諭 桑原 雅乃 〈児童生徒指導〉

高知市立高知商業高等学校・教諭 岡崎 伸二 埼玉県川越市立寺尾中学校・教諭 山崎 祐一 〈学校の指導・運営〉

千葉県立君津農林高等学校・教諭 宗政 恒興 〈地域社会教育活動〉

千葉県習志野市立秋津小学校·代表(校長) 宮 崎 稔〈障害児教育〉

京都市立新道小学校弱視教室・代表(教諭) 中東 朋子

■ 第 47 回 1998 年(平成 10 年) 〈国語教育〉

大阪府立清水谷高等学校・教諭 清水 直樹 〈理科教育〉

、正元八号、 福島県伊達町立伊達中学校・講師 菅野 サチ 〈社会科教育〉

※ 愛知県豊田市立梅坪小学校・教諭 外山記代子 〈生活科・総合学習〉

愛知県蒲郡市立形原中学校・教諭 島内三都子〈体育の教育〉

山口県防府市立新田小学校・教諭 水野 昭 〈外国語教育〉

愛知県西尾市立花ノ木小学校·代表(教諭) 高橋 正治 〈児童生徒指導〉

岡山県笠岡市立新吉中学校・教諭 池本 文子 〈幼児教育・保育〉

東京都千代田区立和泉幼稚園・園長 佐瀬スミ子 〈学校の指導・運営〉

「兵庫県立鈴蘭台高等学校・教諭 青島 成夫 〈地域社会教育活動〉

千葉県松戸自主夜間中学·代表 藤田 恭平 愛知県立港養護学校·教諭 高村 豊

第 48 回 1999 年(平成 11 年)

〈国語教育〉

京北中学校(東京都)・教頭 川合 正 共立女子第二中学・高校(東京都)・教諭 渡辺久仁子 秋田県立能代北高校・教諭 貝田 桃子 〈算数・数学教育〉

お茶の水女子大学附属高校(東京都)室岡 和彦 〈理科教育〉

滋賀県安土町立老蘇小学校・教諭 西川 伸一 〈生活科・総合学習〉 愛知県碧南市立中央中学校・教諭 金子てる子 〈体育の教育〉

奈良県大和高田市立高田小学校·教諭 西川 潔 〈外国語教育〉

常葉学園高校(静岡県)·教諭 永倉 由里 〈児童生徒指導〉

大阪府立門真西高校・教諭 佐藤 功 〈教育カウンセリング〉

よりよい子供の育ちを考える会・代表 市川 紀史〈学校の指導・運営〉

愛知県名古屋市立西陵商業高校・教諭 影戸 誠 新潟県十日町市立飛渡第一小学校・代表(校長) 根津敬一郎 〈地域社会教育活動〉

庄内地域づくりと子育で・文化協同の会・代表 塩野 俊治 〈障害児教育〉

障害児基礎教育研究会・代表 水口 浚

■ 第 49 回 2000 年 (平成 12 年) 〈国語教育〉

東京都品川区立立会小学校·代表(校長) 長谷川清之 〈理科教育〉

上越教育大学附属中学校(新潟県)·教諭 熊 木 徹 〈社会科教育〉

三重県四日市市立日永小学校·教諭 伊藤 浄二 〈生活科·総合学習〉

横浜市教育センター (神奈川県)・専任研究員 鷲山龍太郎 愛知県岡崎市立六ツ美北部小学校・教諭 都築真美子 〈体育の教育〉

徳島県阿南市立橘小学校・教諭 小笠 明寛 〈児童生徒指導〉

福島県立石川高等学校・教諭 庄司 一幸 〈学校の指導・運営〉

宮城県北上町立相川小学校・校長 菅原 義一 長野県塩尻市立片丘小学校・校長 手塚 恒人 〈地域社会教育活動〉

愛知県岡崎市立秦梨小学校父母教師会·代表 鈴木 好彦 〈幼児教育·保育〉

東京都新宿区立戸塚第三幼稚園・教諭 三本 敦子

■ 第 50 回 2001 年(平成 13 年) 〈国語教育〉

· 滋賀県立甲西高等学校・教諭 猪飼由利子 〈算数・数学教育〉

(学校 東立 ろう 学校・教 諭 中村 好則 〈理科教育〉

、和洋国府台女子高等学校(千葉県)・教諭 栗谷川 晃 〈社会科教育〉

東京都立町田高等学校・教諭 本杉 宏志 〈生活科・総合学習〉

福島県福島市立清水中学校·教諭 柳沼 宏寿 徳島県上勝町立上勝小学校·教諭 藤本 勇二 〈外国語教育〉

女子聖学院中学校高等学校(東京都)・教諭 山下ルミ子 〈児童生徒指導〉

和歌山県和歌山市立貴志中学校・教諭 小笠原登志美 〈学校の指導・運営〉

愛知県額田町立大雨河小学校·教諭 荻野 嘉美 〈地域社会教育活動〉

栃木県立栃木工業高等学校国際

ボランティアネットワーク・代表(生徒会長) 門澤 美治 愛 知 学 泉 短 期 大 学 神谷 良夫 愛 知 市 民 教 育 ネ ッ ト 毛受 芳高 〈障害児教育〉

マジカルトイボックス・代表 吉澤 千恵

〈音楽教育〉

立教小学校(東京都)·教諭 志村 尚美

■ 第 51 回 2002 年(平成 14 年)

〈国語教育〉

静岡県浜松市立高等学校・教諭 堀江マサ子 〈算数・数学教育〉

東京学芸大学教育学部附属世田谷中学校·教諭 羽住 邦男 〈理科教育〉

埼玉県立越谷北高等学校・教諭 清水 龍郎 〈社会科教育〉

山口県大島郡久賀町立椋野小学校・教諭 桑原 真洋〈生活科・総合学習〉

新潟県新潟市立真砂小学校・教諭 藤橋 一葉 東京都大田区立矢口小学校・教諭 中村 泰之 〈体育の教育〉

岐阜県下呂町立下呂小学校·代表(校長) 今村 豊 〈外国語教育〉

昭和女子大学附属昭和小学校(東京都)·代表 小泉 清裕 〈児童生徒指導〉

埼玉県羽生市立東中学校・教諭 加藤 昭 〈教育カウンセリング〉

大阪府立松原高等学校・教諭 佐谷 力 〈学校の指導・運営〉

東京都板橋区立金沢小学校·校長 高山 厚子 〈地域社会教育活動〉

東京都立市ヶ谷商業高等学校・教諭 千葉 勝吾 〈幼児教育・保育〉

大阪府立芥川高等学校・教諭 高橋 眞子 〈美術教育〉

東京都品川区立第三日野小学校・代表(教諭) 内野 務

第 52 回 2003 年 (平成 15 年)

〈国語教育〉

愛知県北設楽郡設楽町立田口小学校·代表(校長) 藤本 好男 〈算数·数学教育〉

田園調布雙葉中学高校(東京都)·教諭 足立久美子 〈理科教育〉

福井県福井市立明倫中学校·教諭 宇野 秀夫 〈社会科教育〉

〈吐云行教育〉 埼玉県立所沢北高校・教諭 水村 裕 〈生活科・総合学習〉

長野県小県郡丸子町立丸子北中学校・教頭 小室 邦夫 大阪府立城山高等学校・教諭 中村 和幸 〈学校の指導・運営〉

青森県立柏木農業高等学校·教諭 佐藤 晋也 〈地域社会教育活動〉

千葉県立四街道養護学校教諭

NPO 法人あかとんぼ福祉会理事長 松浦 俊弥 〈障害児教育〉

神奈川県立平塚ろう学校・教諭 佐渡 雅人 〈音楽教育〉

千葉大学教育学部附属小・中学校・講師 桐原 礼

第 53 回 2004 年(平成 16 年)

〈国語教育〉

東京都羽村市立羽村第二中学校・教諭 水野 美鈴〈算数・数学教育〉

新潟県魚沼市学習指導センター・指導主事 松沢 要一 〈理科教育〉

神奈川県三浦市教育委員会学校教育課·指導主事 益田 孝彦 〈社会科教育〉

東京都杉並区立和田中学校·教諭 杉浦 元一 〈生活科·総合学習〉

福岡教育大学附属福岡小学校・教諭 光延正次郎 〈保健・体育の教育〉

茨城県つくば市立竹園西小学校・教諭 新井 清司 〈外国語教育〉

兵庫県伊丹市立伊丹高等学校·教諭 久保 裕視 〈児童生徒指導〉

沖縄県立北部工業高校・教諭 比嘉 靖 〈学校の指導・運営〉

宮城県七ヶ浜町小・中学校校長会・代表(町教育長) 中津川伸二 〈地域社会教育活動〉

長野俊英高等学校郷土研究班(長野県)・代表(顧問) 土 屋 光男 神奈川県川崎市臨港中学校区地域教育会議・事務局長 '宮 越 隆夫 〈幼児教育・保育〉

学校法人大泉菁莪学園ほうや幼稚園 (東京都)・副園長 鈴木 朋子 〈美術教育〉

福岡県福岡市立愛宕小学校・教諭 馬場 真弓

第 54 回 2005年(平成17年)

〈国語教育〉

文部科学省海外子女教育指導員(欧州統括) 富 澤 敏彦 〈算数・数学教育〉

東京都中野区立桃丘小学校・教諭 吉田 映子 〈理科教育〉

長崎県立長崎西高等学校・教諭 田中 清 〈生活科・総合学習〉

香川県木田郡庵治町立庵治第二小学校・教諭 佐々木広子 今治明徳高等学校矢田分校(愛媛県)・教諭 藤本 文昭 〈保健・体育の教育〉

岩手県種市町立宿戸中学校・校長 渡邉不二夫 〈外国語教育〉

滋賀県立草津東高等学校・教頭 山岡 憲史 〈児童生徒指導〉

東京都多摩市立多摩中学校・校長 山本 修司 〈教育カウンセリング〉

香川県警察本部生活安全部少年課・課長補佐 香川 雅之 〈学校づくり〉

山形県羽黒町立 (現鶴岡市立羽黒) 第三小学校・前校長 佐々木勝夫 香川県高松市立仏生山小学校・校長 古沢 博美 〈地域社会教育活動〉

山口県立下関商業高等学校・養護教諭 石田 法子 大阪府立農芸高等学校・教諭 石田 真一 〈障害児教育〉

東京都立城南養護学校·代表(研究部主任) 川上 康則

第 55 回 2006年(平成18年)

〈国語教育〉

光子 茨城県下妻市立豊加美小学校·代表(校長) 堤 〈算数・数学教育〉

岩手県花巻市立八重畑小学校・代表(校長) 三田村幸治 〈理科教育〉

香川県立丸亀高等学校・教諭 川村 教一 〈社会科教育〉

岡山県倉敷市立多津美中学校・教諭 野崎 洋子 〈生活科・総合学習〉

愛知県名古屋市立東築地小学校・教諭 酒井喜八郎 〈児童生徒指導〉

三重県いなべ市立員弁中学校・教諭 出口 省吾 〈教育カウンセリング〉

埼玉県教育局·南部教育事務所·指導主事 児 玉 裕子 〈学校づくり〉

長野県豊科高等学校・教諭 穂苅 稔 〈地域社会教育活動〉

NPO 法人霧島食育研究会(鹿児島県) 千葉 しのぶ 〈美術教育〉

埼玉県立浦和高等学校·教諭 波田野公一

第 56 回 2007年 (平成19年) 〈国語教育〉

宮城県仙台市立北仙台中学校・教諭 中村 大輔 〈算数・数学教育〉

山梨大学教育人間科学部附属中学校·教諭 清水 宏幸 〈理科教育〉

山口県立厚狭高等学校・教諭 児玉伊智郎 〈社会科教育〉

慶應義塾湘南藤沢中・高等部(神奈川県)・講師 金杉 〈生活科・総合学習〉

千葉県千葉市立高洲第二小学校・教諭 山嵜 早苗 〈保健・体育の教育〉

奈良県生駒市立あすか野小学校・教諭 前田 香織 〈外国語教育〉

福岡県大野城市立大野南小学校・教諭 上原 明子 〈児童生徒指導〉

高 知 市 立 横 浜 小 学 校・教 諭 汲田喜代子 〈学校づくり〉

東京都港区立港陽小学校・校長 角田美枝子 〈地域社会教育活動〉

阿波木偶人形会館(徳島県)・館長 多田 健二 〈障害児教育〉

鳥取県鳥取市立浜坂小学校・教諭 鈴木 伝男 〈音楽教育〉

埼玉県さいたま市立本太中学校・教諭 森角由希子

第 57 回 2008年 (平成 20年)

〈国語教育〉

兵庫県三田市立けやき台小学校・教諭 伊崎 一夫 〈算数・数学教育〉

東京学芸大世田谷中学校・教諭 山崎 浩二 〈社会科教育〉

青 山 学 院 高 等 部・教 諭 松本 通孝 成蹊中学・高等学校・教諭日高 智彦 〈生活科・総合学習〉

愛知県西尾市立寺津小学校・校長 高 橋 正 治 〈保健・体育の教育〉

埼玉県越谷市立鷺後小学校·教諭 岩本 利夫 〈外国語教育〉

岩手県一関市立一関中学校英語科代表 教頭・千田幸範 及川 千佳

佐藤 久美 小野寺明子 彩 富山

〈児童生徒指導〉

滋賀県長浜市立西中学校・教諭 澤 豊治 〈学校づくり〉

東京都練馬区立豊玉南小学校代表(研究主任担当) 遠 田 公博 〈地域社会教育活動〉

青森県立八戸第二養護学校・教諭 西里 俊文 〈美術教育〉

川崎市立はるひ野小中学校教諭 川合 克彦

第 58 回 2009年(平成21年) 〈国語教育〉

千葉大学教育学部付属小学校教諭 大木 圭 〈算数・数学教育〉

山口県立岩国高等学校教諭 西元 教善 〈理科教育〉

青 山 学 院 高 等 部 教 諭 池田 敏 〈社会科教育〉

本郷学園本郷中学高等学校教諭 横山

〈生活科・総合学習〉

兵庫県篠山市立大山小学校教諭 酒井 達哉 〈教育カウンセリング〉

徳島市立上八万小学校カウンセリング 映 子 研究会代表徳島市立上八万小学校教諭 〈学校づくり〉

静岡県立磐田農業高等学校代表 塚本行博校長 〈地域社会教育活動〉

大森学園高等学校 生徒会ボランティア教諭 安達 〈地域社会教育活動〉

NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター 辻英之代表理事 梶さち子会長

〈特別支援教育〉

吹田市立教育センター主幹森田 安徳 吹田市立吹田第三小学校指導教諭 辻本 裕子 〈音楽教育〉

川崎市立藤崎小学校総括教諭 志村 恵子

第 59 回 2010年 (平成22年) 〈国語教育〉

岡山県赤磐市立吉井中学校・教諭 北川久美子 〈算数・数学教育〉

博行 高知県土佐教育研究会久保 松下 泰日 敦之 室戸市立吉良川小学校・教諭 矢田

〈理科教育〉 石川県立翠星高等学校・教諭 宮下正司

〈社会科教育〉 大阪府高槻中学・高等学校・教諭 楊田 龍明 〈生活科・総合学習〉

新潟県長岡市立上組小学校・教諭 水谷 徹平 〈外国語教育〉

ノートルダム学院小学校(京都市)・教頭 行田 降一 〈児童生徒指導〉

東京都府中市立府中第三中学校・元教諭 高 僑 芳宏 〈教育カウンセリング〉

東京女学館中学高等学校・教育相談室長 渡邉 正雄 〈学校づくり〉

学校法人明晴学園·教頭框 〈地域社会教育活動〉 陽子

鹿児島市立清水小学校・前校長 池田 昭夫 清水小学校水泳同好会・前会長 有薗 良一 〈幼児教育・保育〉

社会福祉法人高原福祉会・理事長 高橋 保子 〈美術教育〉 裕

東京都多摩市立北豊ケ丘小学校・主任教諭 柴 崎

■ 第60回 2011年(平成23年) 〈国語教育〉

埼玉県立浦和第一女子高校・講師 長島 猛人 〈算数・数学教育〉

大阪教育大学付属池田中学校数学科代表 · (副校長) 昭三 上原 正啓 (教諭) 山戸

〈社会科教育〉

興南学園興南中学校 (那覇市)・教諭 門林 良和 〈生活科・総合学習〉

茨城県水戸市立稲荷第一小学校・教諭 池田 裕子 〈外国語教育〉

愛知県豊橋市立青陵中学校・教諭 桃野己恵子 〈学校づくり〉

静岡県浜松市立光明小学校・元校長 河島 秀夫 〈地域社会教育活動〉

宇都宮市立旭中学校・教諭 透 田崎

〈特別支援教育〉

福岡県久留米市立小森野小学校・教頭 山田 俊之 〈幼児教育・保育〉

福井県教育庁地域サイエンス博士 山田 儀一 〈音楽教育〉

千葉市立院内小学校・教諭 桶田 加代 〈美術教育〉

新潟県阿賀野市立笹岡小学校・教頭 青木 善治

■ 第61回 2012年(平成24年)

〈国語教育〉 栃木県日光市立落合西小学校・教諭 見目 宗弘 〈算数・数学教育〉

志の算数教育研究会 (東京都)・代表 盛山 降雄 加固希支男 大貴 山本 松瀬 仁

〈理科教育〉

出雲科学館(島根県)·名誉館長 曽我部國久 〈生活科・総合学習〉

鹿児島県奄美市立伊津部小学校・教諭 中島 賢太郎 〈外国語教育〉

大阪女学院中学・高等学校(大阪市)・教諭 中藤 〈児童生徒指導〉

福井県鯖江市・立待小学校・教諭 岩堀 美雪 〈学校づくり〉

大阪府立東百舌鳥高等学校・教諭 稲川 老司 〈地域社会教育活動〉

ウーマンズフォーラム魚 (東京都)・代表 白石ユリ子 〈特別支援教育〉

神奈川県立金沢養護学校・副校長 渡邉 昭宏 〈音楽教育〉

リトミック・ピアノ教室(名古屋市)・主宰 浦 浜 麗名

第 62 回 2013年(平成25年)

〈国語教育〉 神奈川県大和市立西鶴間小学校・教諭 山根 幸一 〈算数・数学教育〉

真一 福井県越前市立吉野小学校・教諭 宮脇 〈理科教育〉

岡山県倉敷市立多津美中学校・教諭 難波 治彦 〈社会科教育〉

千葉市立有吉小学校・教諭 江崎 広章 〈保健・体育の教育〉

石川県加賀市立錦城小学校・代表(教諭) 釜親美和子 〈外国語教育〉

鳥取県立鳥取西高校・教諭 辻中 老彦 〈教育カウンセリング〉 愛知県碧南市立大浜小学校・教諭 長田

〈学校づくり〉 神奈川県立綾瀬西高校・総括教諭 竹 本 弥 生

〈地域社会教育活動〉

神奈川県立中央農業高校・草花部顧問 高橋晋太郎 〈幼児教育・保育〉

愛知県豊田市立平山こども園園内研究会・代表(保育士) 渡 辺 紫乃 〈美術教育〉

佛教大学教育学部特任教授 橋本 忠和

第 63 回 2014年(平成26年) 〈国語教育〉

岐阜県加茂郡白川町立白川小学校・代表(校長) 宮内智鶴子 〈算数・数学教育〉

長野県屋代高等学校·附属中学校·教諭 横澤 克彦 〈理科教育〉

福島県福島市立渡利中学校・教諭 菅野 俊幸〈生活科・総合学習〉

教育研究グループ Shinka (兵庫県)

代表 兵庫県三田市立武庫小学校・教諭 荒井 隆一 教諭 縄手 良孝 教諭 谷口 雅子

〈外国語教育〉

徳島県美馬市立江原中学校・教諭 福田 恵 〈児童生徒指導〉

群馬県高崎市教育委員会・教育長 飯野 真幸 〈教育カウンセリング〉

新潟県燕市立燕中学校・教諭 吉澤 孝子 〈学校づくり〉

横浜市立白幡小学校 平成 23·24·25 年度 P T A 会長 藤川 優 〈地域社会教育活動〉

公益社団法人群馬県助産師会

代表 同会会長 助産師 鈴木助産院院長 鈴木せい子 〈特別支援教育〉

福井県立嶺南東特別支援学校・教諭 伊藤ゆかり 〈音楽教育〉

千葉県鎌ケ谷市立西部小学校・教諭 鈴木 智恵

■ 第 64 回 2015 年(平成 27 年) 〈国語教育〉

茨城県結城市立江川北小学校・代表(研究主任) 小倉 康雄 〈算数・数学教育〉

東京大学教育学部付属中等教育学校·教諭 小張 朝子 〈社会科教育〉

北海道函館市立亀田中学校・教諭 川端 裕介 〈生活科・総合学習〉

広島県福山市立常金中学校・代表(校長) 和田 啓介 〈保健・体育の教育〉

岐阜県大垣市立綾里小学校·代表(校長) 前田 和典 〈地域社会教育活動〉

千葉県立成田西陵高等学校・教諭 清水 敏夫 認定特定非営利活動法人ふじみの 国際交流センター・代表(理事長) 石井ナナエ 〈幼児教育・保育〉

学校法人あけばの学院認定こども園 武庫愛の園幼稚園・代表(園長) 濱名 清美 〈美術教育〉

福井県観光営業部文化振興課・主任 牧井 正人

■ 第65回 2016年(平成28年)

〈国語教育〉

兵庫県立神戸甲北高等学校・教諭 荒 川 稔 〈算数・数学教育〉

広島大学附属中・高等学校・教諭 橋本 三嗣 〈理科教育〉

慶應義塾幼稚舎·教諭相場 博明 〈社会科教育〉

埼玉県立いずみ高等学校・教諭 華井 裕隆 〈生活科・総合学習〉

析木県小山市立福良小学校·代表(校長) 中島 利雄 〈児童生徒指導〉

大阪府堺市立三原台中学校·代表(教諭) 木田 哲生 〈地域社会教育活動〉

認定特定非常利活動法人NPO高知市民会議・代表 (プロジェクトマネージャー) 〈特別支援教育〉

千葉県立特別支援学校流山高等学園・主幹教諭 野 尻 浩

■ 第 66 回 2017 年 (平成 29 年) 〈理科教育〉

秋田県由利本荘市立大内中学校·教諭 佐藤 由美 〈社会科教育〉

宮崎県立宮崎農業高校・教諭 川末 修 〈健康・体力づくり〉

| 岡山市立西大寺中学校・代表(校長) 梶 原 敏
〈外国語・異文化理解〉

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校·教諭 田中 里美 〈児童生徒指導〉

茨城県立水戸工業高校・教諭 金澤 容子 〈カリキュラム・学校づくり〉

ノートルダム清心学園清心女子高校(岡山県倉敷市) 秋山 繁治 代表 (南九州大学教授)

〈地域社会教育活動〉

大阪府立堺工科高校定時制の課程・ 保田 光徳 代表(堺工科高校首席)

《NIE》 まわしよみ新聞宝行委員会(大阪市

まわしよみ新聞実行委員会(大阪市)・ 陸 奥 賢 代表(観光家/コモンズ・デザイナー) 陸 奥 賢 〈幼児教育・保育〉

社会福祉法人峰悠会おおぞら保育園 小林真理子 (群馬県桐生市)・保育士

〈美術教育〉

「地域の色・自分の色」実行委員会 (大分市)・ 照山 龍治 代表 (委員長)

読売教育賞に関するお問い合わせ、募集要項のご請求は、読売新聞東京本社編集局「読売教育賞」係 (TEL03-6739-6713) にお願いします。

また、読売新聞オンライン (https://info.yomiuri.co.jp/contest/edu/kyoiku.html) にも募集期間中には要項を掲載しています。